

# 姫路市歴史文化基本構想

－ 歴史文化遺産の総合的把握と保存継承の新たな取り組み －

平成24年3月

姫路市教育委員会



## はじめに

文化財は有形・無形、指定・未指定を問わず、我が国の歴史や文化の理解に欠くことのできない国民的財産であり、未来へ受け継がれるべき文化の向上発展の基礎をなすものです。地域の長い歴史の中で育まれてきた文化財は、地域のアイデンティティの核となるものであり、歴史的建造物や史跡は地域のシンボルとして、まちの魅力を増大させ活力を向上させるための生命線とも言えるものです。

しかしながら、少子高齢化や人口減少をはじめとする急激な社会状況の変化によって、文化財を生み、育み、次世代へと継承する基盤である地域社会が失われつつあります。

こうした状況を踏まえ、国の文化審議会文化財分科会企画調査会から平成 19 年 10 月に出された報告書において、文化財に関する新たな取り組みとして「歴史文化基本構想」の策定が提唱されました。これは、今まで単体として評価、保護されていた文化財を、その周辺環境を含め総合的に把握し、関連した文化財群として評価するとともに、文化財を生かした地域づくりに活用することを目的としたものです。

今回策定の「姫路市歴史文化基本構想」は、「大国播磨の中心」である本市に伝わる文化財を総合的に把握した、言わば文化財の総合カタログであるとともに、歴史文化遺産を再発見・再認識し、まちづくりへ活かしていくための基本方針を示したものでもあります。

姫路市では、まちづくりの基本理念として「人と人との共生」「自然との共生」及び「歴史・文化との共生」を掲げています。今後は本構想が、地域に伝わる貴重な遺産である文化財を次世代へ継承するとともに持続可能な活用を進め、今に生きる私たちが先人たちの遺産と共に生き、共に暮らせる地域社会をつくる「共生のまちづくり」のために活用されることを願っております。

最後になりましたが、本構想の策定にあたり「姫路市歴史文化基本構想策定研究会」に参画いただきました委員の皆様をはじめ関係者の皆様から数多くのご意見、ご提言をいただきました。また、市民の皆様からも、貴重なご意見をいただきました。心より感謝申し上げます。

姫路市教育委員会  
教育長 中杉 隆夫



# 目 次

はじめに

第1章 歴史文化構想策定の背景と目的	1
第1節 策定の背景と目的	1
1 策定の背景	
2 策定の目的	
3 構想の全体構成と概要	
第2節 構想の位置づけ	4
第2章 姫路市の概要と特性	7
第1節 姫路市の概要	7
1 自然・地理的環境	
2 歴史的環境	
3 社会的環境	
第2節 姫路の特性	22
1 調査の方法	
2 調査の結果	
第3章 姫路市歴史文化基本構想	33
第1節 基本理念と方針	33
1 基本理念	
2 基本方針	
第2節 関連文化財群	35
第3節 歴史文化保存活用区域と保存活用計画	43
1 歴史文化保存活用区域	
2 保存活用計画	
3 歴史文化保存活用区域と保存活用計画の今後の展開	
第4節 基本構想の推進	47
1 推進の基本方針	
2 推進の体制	
3 構想の見直し	
資料	51
1 策定までの経過	53
2 策定研究会の構成	54
3 策定研究会の要綱	55
4 歴史文化遺産の総合的把握調査データ	57



# 第1章 歴史文化構想策定の背景と目的

## 第1節 策定の背景と目的

### 1 策定の背景

#### (1) 文化財をめぐる動向

明治維新後、近代化を進めた我が国は、第二次世界大戦の惨禍を経てさらに経済的な発展を進めてきた。人口は、江戸時代を通じて3千万人程度だったものが、明治以降、人口爆発とも言える急激な増加を見せ、平成22年には1億2805万1千人となった。経済では、1950年代に始まる高度経済成長期から2度のオイルショックを経て、1980年代後半にバブル期というピークを迎えた。

各地で競って行われた画一的な開発は、地域で継承されてきた歴史的な遺産の多くを変容あるいは消滅させた。その反省から生まれた、文化財の優品を指定して厳格に保護するという文化財保護の仕組みは、これらに対抗する優れた手段であった。その一方で、あまりの規制の厳しさ故に、本来文化財と近い関係にあったはずの地域住民の日々のいとなみからは縁遠いものとなっていった。

1990年代初頭のバブル崩壊から、景気は長い低迷期に入った。平成17年には、死亡者数が出生者数を上回り、これをピークに人口は減少に転じており、21世紀半ばには1億人を下回ると言われている。また、これに伴って65歳以上の高齢者の割合が増加することが見込まれ、我が国は本格的な少子高齢化社会を迎えようとしている。

成熟した社会の到来とともに、物質的な豊かさではなく精神的な豊かさを求める欲求は、より強くなってきている。これらのよりどころとして、歴史的な遺産が再び脚光を浴びてきた。

#### (2) 歴史文化遺産と基本構想

1995年の阪神・淡路大震災では、行政システムが正常な機能を失うという想定を超えた緊急事態の中で、人と人とのつながりの大切さが改めて認識されることとなった。コミュニティーの核になる存在として、改めて見直されたのが地域の文化財である。しかしながら、その核となるべき文化財の多くは、従来の優品主義による指定制度ではその潜在的な価値を見出されない「未指定」として取り扱われたこともあり、震災によってさらに多くが失われることとなった。

このような背景から、兵庫県では、文化財保護審議会において、平成12年10月20日、『次世代への継承と新しい文化の創造のために－21世紀における兵庫県の文化財行政について』が建議され、これを受け、教育委員会が「歴史文化遺産活用構想」を平成15年3月に策定した。この中で、「従来の文化財の考え方に代わるものとして、先人により育まれ現代まで伝えられてきた、知恵・経験・活動の成果

及びそれが存在する環境を総体的に把握した新たな概念として、地域文化を構成する多様な価値観を持つ歴史的・文化的・自然的遺産」を「歴史文化遺産」と定義し、その新たな活用の指針を示した。

国においても、将来の日本の文化財保護行政についての議論が行われ、文化審議会企画調査会の報告書(平成19年10月)において、文化財を核として、地域全体を歴史・文化の観点からとらえ、各種施策を統合して歴史・文化を生かした地域づくりを行うための「歴史文化基本構想」が提唱された。文化庁は、平成20年度から22年度までの3ヵ年にわたり、「文化財総合的把握モデル事業」を全国20地区で実施するとともに、有識者会議を設置し、基本構想策定に当たっての技術的な留意点等を検討し、「歴史文化基本構想」策定技術指針(平成24年2月)を策定した。



歴史文化遺産の範囲

## 2 策定の目的

姫路市においては、市民がともにつくるまちを目指して、平成17年度から「地域夢プラン」事業を行なっている。これは、地域に住む人々が中心となって、地域の歴史、文化、自然、伝統、地場産業などの地域資源を活用して地域の魅力を高めるため、プランの策定とそれに基づき実施する事業等を支援するもので、中学校区を主な単位として実施してきた。

また、歴史文化遺産のうち、埋蔵文化財と関連を持つものを特に「歴史遺産」と定義し、平成20年度から22年度にかけてその活用について検討を行った。歴史遺産の活用を想定する範囲を全国レベル、県内、市内、小学校単位と大きく4つに分類し、市域を北部、中部、西部、東部、家島の5ブロックに分けたモデルケースを提示した「歴史遺産の活用について」をまとめている。

この様に、本市においては、歴史文化遺産に関する個別の施策は、先行して実施されてきたものの、その基本となる全体の方向性を示すマスタープランは策定



されてこなかった。

そこで、本市の歴史文化遺産について、総合的に把握し、その特性を捉えつつ、将来に受け継ぐべき方向性を示すことを目的として、姫路市歴史文化基本構想を策定することとした。

### 3 構想の全体構成と概要

文化財は、建造物や美術工芸品などの有形文化財や無形文化財も、それぞれ単体として保存継承や活用の対象として扱われてきた。

また、保存管理や活用の方針も個別、単体での検討はなされていても、地域的広がりを持った総合的な検討までは手が付けられてはいない。

そこで、本構想の大きな目的として、本市域に伝わる歴史文化遺産を悉皆的に調査・抽出し、総合的に把握することとした。悉皆的調査により抽出した歴史文化遺産について、大きく、原始、古代、中世、近世、近代という時間軸に基づきテーマを設定した。

このテーマのもとで、文化遺産相互が持つ関連性に着目して「関連文化財群」という一定のグループの分類を試みた。さらに「関連文化財群」相互の関連性により一体的に保存活用すべき広がりとして「歴史文化保存活用地区」を市域全域に設定した。この保存活用地区内で「関連文化財群」やそれに含まれる歴史遺産が特に密集する地区を「保存活用重点区域」として設定することを将来的な検討課題とした。

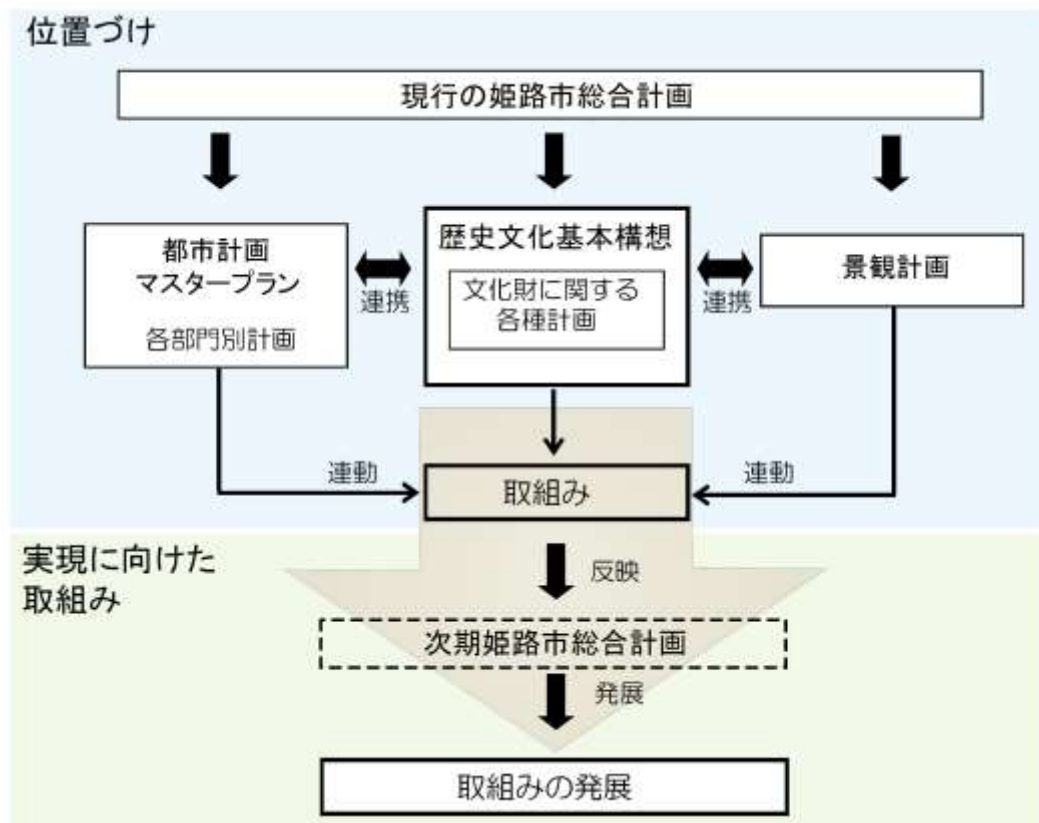
これらにより、古代より本市域に伝わる有形、無形の文化遺産をカタログ化し、総合的に把握することが可能となる。

次いで、文化遺産を保存、継承するための基本的な考え方と将来に向けての整備、活用のあり方を提示する。これにより、それぞれの地域における文化遺産をまちづくりの核として、また、観光資源として活用していくための基本的な方向性を示すことともなる。本構想を基礎として、まちの歴史や文化遺産と共に暮す「持続可能な開発」のためのメルクマールとしたい。



歴史文化基本構想は、従来の文化財保護制度の枠を脱却し、多様な文化財を総合的にとらえるマスタープランであるとともに、その新たな視点は、まちづくりに大きく寄与できることが期待される。

基本構想の位置づけとしては、現基本計画の基本目標2「風格と活力ある歴史文化・産業都市」の基本的政策2「歴史文化の継承と市民文化の醸成」であることを基本としつつ、都市計画法による「市町村の都市計画に関する基本的な方針」である都市計画マスタープランをはじめとして、他の基本目標に掲げる政策なども連携を図っていく。また、将来的に策定される次の総合計画への反映も目指していく。



歴史文化基本構想の位置づけ イメージ図



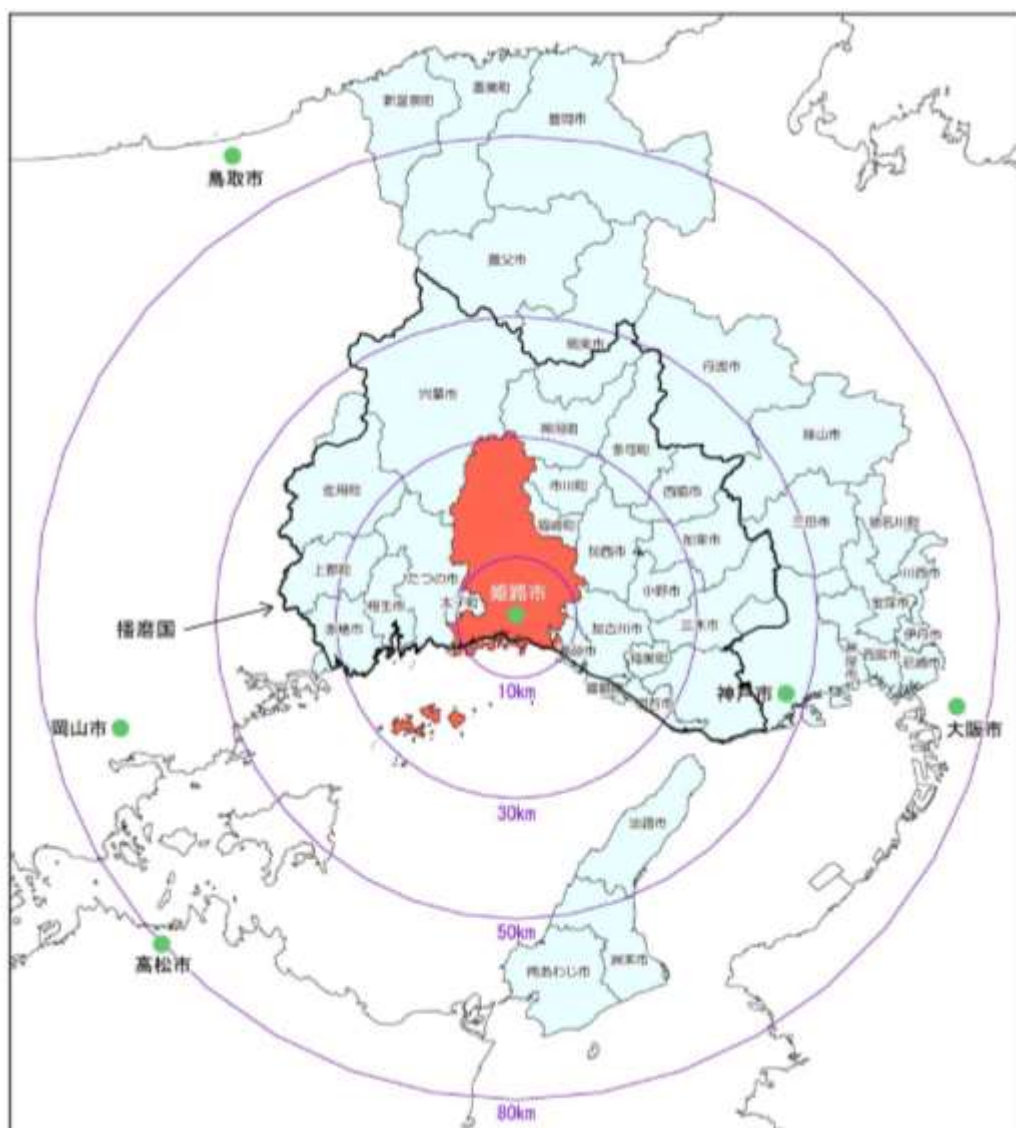
## 第2章 姫路市の概要と特性

### 第1節 姫路市の概要

#### 1 自然・地理的環境

姫路市は、兵庫県の南西部にあり、市域は東西約36km、南北約56km、面積約534km<sup>2</sup>である。南は播磨灘<sup>※</sup>に面し、大小40余りの島しょからなる家島諸島がある。北部は、中国山地東部にあたり、播但山地の前山となる海拔300m前後の山地となる。山間部から南流する主要な河川には東から市川、夢前川、揖保川があり、これらによって、河岸段丘や氾濫原を発達させながら播磨平野が形成された。

※播磨灘 瀬戸内海東部の海域で、東は淡路島から西は小豆島までを指す。



姫路市の位置

平野部には、中生代ジュラ紀に形成された基盤が浸食され、残丘となって残っており、姫路城のある姫山・鷲山、手柄山などの標高30～50m程度の小丘が点在している。

海岸線は、東部の福泊<sup>ふくどまり</sup>や小赤壁の岩石海岸が純自然海岸として残っている。これ以外の海岸は、白浜、高浜、興浜<sup>おきはま</sup>などの地名が今に残っているように、かつては砂浜海岸であった。しかしながら、これらは、近世から近代にかけての塩田や干拓等の開発、戦後に行われた埋立等によって失われている。



小赤壁

気候は、年平均気温15℃前後、年降水量は平均1,300mm程度で、1年を通じて晴天が多く、降水量が少ない瀬戸内海気候に属している。台風などによる気象災害も少なく、内海に面しているため、津波・高潮の被害も少ない。地震災害もあまり知れておらず、著名なものとしては、貞観10年(868)の大地震がある。延喜元年(901)に成立した歴史書『日本三代実録』によれば、「播磨諸郡の官舎、諸定額寺の堂塔ことごとく頽倒」とあり、山崎断層の活動による姫路付近を震源としたマグニチュード7を越える直下型地震であったと考えられている。

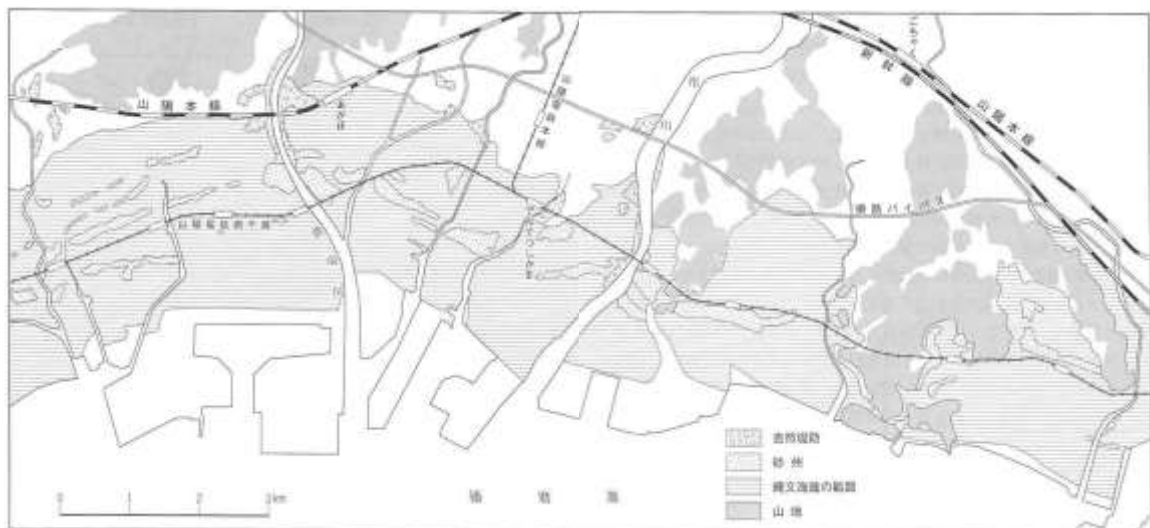
植生は、照葉樹林帯に属しており、シイ、カシ、ツバキが本来自生する地域であるが、人間の生産活動等により、アカマツ、コナラによる二次林が成立しているところが多く、自然植生としては、書写山や広嶺山、増位山の頂上付近などわずかである。

## 2 歴史的環境

### (1) 原始（旧石器・縄文・弥生時代） ～ 3世紀中ごろ

市域における最古の人類痕跡は、市川東岸の別所村前遺跡(別所町別所)から出土した旧石器時代のナイフ形石器で、今から2～3万年前と考えられている。当時、世界的に気候は寒冷で、海水面は現在より約100mも低く、瀬戸内海は広大な平原となっていた。ナウマンゾウやオオツノジカ等の大型動物が生息し、人々はこれらを狩猟するなどして生活していた。大山神社遺跡(家島町宮)をはじめ、この時代の遺跡は市内で十数か所が知られている。

縄文時代には、気候が温暖化していき、これに伴い海水面は上昇した。ピークとなった約7000年前の縄文時代前期には、海水面は現在よりも数メートル高かったと想定されており、この時に形成された海岸砂州の痕跡が、姫路平野に砂堆(内列)と呼ばれる高まりとなって残っている。人々は、豊かな自然環境の中、ニホンジカやイノシシなどの中・小型動物、クリ、クルミ、ドングリなどの植物資源や魚介類などを狩猟、採集して暮らしていた。平尻遺跡(香寺町溝口)は、市内の数少ない縄文時代前期の遺跡で、石鏃<sup>せきぞく</sup>などが出土している。縄文時代後半の遺跡には、辻井遺跡(辻井一丁目)、今宿丁田遺跡<sup>いまじゆくちうだ</sup>(東今宿一丁目)などが知られている。辻井遺跡は、縄文時代後半の人骨が出土したことで著名である。今宿丁田遺跡からは、粳の跡が残った土器が出土し、弥生時代に先駆けてイネの導入がなされていたことがわかる。



砂堆の位置図

約3000年前、稲作という革新的な技術が大陸から導入され、弥生時代が開幕した。<sup>よろ</sup>丁柳ヶ瀬遺跡(勝原区丁)は、弥生時代前期を代表する遺跡である。弥生時代の中頃には、遺跡の数、規模が拡大する。この時期、金属器の使用も始まった。夢前町<sup>このくさ</sup>神種では銅鐸が、名古屋山遺跡(名古屋山町)や今宿丁田遺跡からは、石製鋳型が出土しており、これらの遺跡で銅鐸の生産も行われたと考えられる。弥生時代の終わり頃になると、畑田遺跡(飯田)や和久遺跡(網干区和久)など他の遺跡とは際立って大規模な集落が形成されるようになる。これらの遺跡では、讃岐、出雲など他地域の土器も多く出土し、地域間交流の拠点となっていたことが想定される。農耕の本格開始から数百年、安定した環境の中、ムラからクニへ、そしてより大きな国への展開が進んでいった。



和久遺跡

## (2) 原始～古代(古墳・奈良・平安時代) 3世紀中ごろ～11世紀

3世紀の中頃から6世紀までの三百数十年間は、前方後円墳という日本固有の墳墓が隆盛する古墳時代である。揖保川流域は、弥生時代終末期から古墳時代初頭の古墳が濃密に分布することで知られているが、瓢塚古墳(勝原区丁)は、この中であって全長104mと最大の前方後円墳である。

古墳時代の中頃、市川流域最大の前方後円墳である<sup>だんじょうさん</sup>壇場山古墳<sup>みくにの</sup>(御国野町国分寺)が築かれる。この古墳には、高砂市にある竜山から採掘される凝灰岩で作られたとされる、長持形石棺が用いられている。竜山石製の石棺は、ヤマト王権の大王墓の石棺材として特別な扱いを受けるとともに、西は山口から東は滋賀まで数百例が知られており、石棺の中でも群を抜いて多い。また、この時期、韓半島から多くの渡来人がやってきた。それを示す遺跡の一つが宮山古墳である。金垂飾付耳飾、馬具、須恵器など韓半島に由来を持つ、新しい遺物群が副葬されていた。渡来人は、これらの最新技術とともにこの地に移り住み、大きな変革



壇場山古墳



をもたらすこととなった。奈良時代の地誌『播磨国風土記』に多数語られる渡来人の記事は、この頃の出来事が伝えられたものと想定される。

奈良時代には、全国を五畿七道に区分し、その下に国を置いた。この国は、その後明治までの長きにわたって、日本の地理的な単位として機能した。播磨国は、12郡を有する大国として、山陽道に属し、東を畿内の摂津国に接した。国府は、姫路郵便局付近に位置する本町遺跡(本町)及びその周辺と想定され、8世紀前半の遺構が確認されている。

和銅6年(713)、「風土記撰進」の官命により、この播磨国府で『播磨国風土記』が作られ、早くも霊亀2年(715)頃には完成したと言われている。現存する常陸・出雲・肥前・豊後を含めた5風土記の中でも早期での完成である。

これにやや遡る7世紀後半、全国的に寺院の建立が急増する。播磨も同様であったが、ほぼ里の半数に寺院があるという極めて高い分布密度であった。辻井廃寺、<sup>しもおおだ</sup>下太田廃寺、市之郷廃寺、溝口廃寺などがこれにあたる。8世紀中頃には、市川東岸に播磨国分寺が創建され、やや遅れて国分尼寺も造られた。

平安時代に入ると山間・山上に伽藍をもつ寺院が数多く創建され、いわゆる山岳仏教が発展する。康保3年(966)、性空上人は、書写山に入山した。寛和2年(986)には、花山法皇によって、「書写山円教寺」の寺号を与えられ、講堂など主要伽藍の整備が進み、「西の比叡山」と呼ばれるようになった。

平安時代の後半に入るところには、平氏、源氏の武士層の台頭と共に、時代は動乱期に入る。都では、王家・貴族間の権力争いにより、軍事衝突も起こった。治安の乱れも激しく、民衆の不安は増大しつつあった。この世相とも合致した、末法思想の隆盛により、経塚が盛んに作られた。中でも、香寺町須加院付近にあった極楽寺裏山に、康治2年(1143)と翌年の二度にわたり埋納された播磨極楽寺瓦経は、全国的に著名である。



播磨国分寺跡



書写山円教寺

### (3) 中世（鎌倉・室町・戦国時代） 12世紀～16世紀

元暦2年(文治元・1185)、壇ノ浦の戦いに勝利した源頼朝は、守護・地頭の任命権を梶子に鎌倉幕府を確立させた。播磨でも、貴族から武士への転換は、順調に進んだかに見えたが、早くも鎌倉時代後半には、土地の分割相続などにより没落していく武士やその反対に成長していく新興武士層も現れた。

貞和4年(1348)ごろ成立した『峰相記』は、峰相山鶏足寺での老僧との語らいを記したという形をとり、中世播磨の地誌として名高い。ここには、「悪党」と呼ばれる在地集団が、幕府の統制力の弱体化に伴い、荘園制度を揺るがすまでになっていった姿も描かれている。佐用を本拠とする赤松則村(円心)はその一例である。則村は元弘3年(1333)、後醍醐天皇が鎌倉幕府打倒を掲げて挙兵すると護良親王の令旨を受けこれに応じ、後醍醐天皇方として活躍した。しかし、建武の新政において冷遇されたため、その後は足利尊氏に属して活動し、その功績により赤松氏は室町幕府の中樞に位置し、播磨守護を与えられることになった。3代則祐の時代には、備前・美作を加え三国の守護職を兼務した。

嘉吉元年(1441)、赤松氏の5代満祐が6代將軍義教を暗殺するという嘉吉の乱を起こした。細川・山名の幕府追討軍に追われた赤松満祐は、播磨に追い詰められ、書写坂本城で防戦の後、たつの市の城山城で滅亡する。

赤松氏は、その後、満祐の弟義雅の孫政則を取り立て再興を図り、応仁の乱の勃発もあって、復権を果たした。この後、拠点を置塩に移し、晴政の代には山上に置塩城を築城整備したと考えられている。再興後の後期赤松氏は播磨守護の地位は保持したが、一族や有力家臣の台頭もあり、実態としては東播磨の別所氏、中播磨の御着城の小寺氏などの支配圏に分裂していった。羽柴秀吉の軍師として名を馳せる黒田官兵衛(孝高)は、父の職隆とともに小寺政職の家老であり、当時、御着城の出城であった姫路城の城代をつとめていた。



おじおじょう  
置塩城

#### (4) 近世（江戸時代） 16世紀末～19世紀

天正5年(1577)、中国攻めのため播磨に入った羽柴秀吉は、翌6年、三木城の別所長治らの離反に会い、天正8年によく播磨平定を終えた。黒田孝高の勧めで姫路城に入り、翌年、西国初の天守を持つ姫路城を完成させた。同時に城下町の設営を進めたことが、龍野町に出された「楽市」の制札から知られる。秀吉はここを基盤に但馬、因幡を平定し、天正10年には、再び中国攻めを開始したが、本能寺の変によって中断した。世にいう秀吉の「中国大返し」は、この姫路城を起点として成し遂げられたものである。姫路城は、翌年には弟秀長が、天正13年には木下家定が城主となる。

慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いの後、徳川家康の女婿である池田輝政が、三河吉田15万2千石から播磨一国52万石へ加増され、姫路に入部した。弟長吉の因幡6万石、2人の子に与えられた備前・淡路を併せ一族でおよそ100万石を有し、加賀前田家と並ぶ最大級の大名「西国将軍」が誕生した。輝政は、姫路城の大改修を進め、現在の天守群や主要な曲輪の整備を行い現在の姫路城の大半を造りだした。慶長18年、輝政の死亡により利隆が城主となったが、元和3年(1617)に没し、利隆の嫡男光政が幼少であるとの理由により池田家は因幡に転封となる。

代わって、徳川四天王の一人、本多忠勝の子である忠政が桑名15万石から入封した。忠政には、子の忠刻ただときの室となった徳川家康の孫千姫の化粧料として10万石が加えられ、三の丸の居館や、西の丸などを中心に、大規模な改築を進めるとともに、船場川の改修など、姫路城下の整備を進めた。寛永3年(1626)、忠刻が31歳で亡くなり、千姫も江戸へ去った姫路城は、その後、松平、榊原、本多の親藩・譜代が短期間で入れ替わり、寛延2年(1749)、上野前橋から酒井忠恭ただずみが入り、幕末まで酒井家が続く。



本多家廟所

城下は、発展を続けてきており、江戸中期には、人口2万人を超えていたとの推定もある。町には、薬、紙等や旅籠、大工、塗師など商工業も発展した。町は、大年寄を責任者とした自治組織に委ねられ、那波屋を始めとする豪商の台頭に伴い、城下にも様々な文化が花開いた。

姫路藩酒井家2代藩主の忠以ただかねは、宗雅そうがと号し、茶道、和歌、俳諧、絵画などの多方面に非凡な才能を示した。特に親交の深かった、出雲松江藩主松平治郷はるさと (不昧ふまい) から石州流茶道の手ほどきを受け、将来を嘱望されていたという。

また、趣味や日々の出来事・天候などを22歳からつづった「玄武日記」、同じく35歳からの「<sup>ゆこう</sup>逾好日記」などを残している。実弟の<sup>ただなお ほういつ</sup>忠因(抱一)も、絵師として江戸琳派の祖となった絵師として著名であり、俳人としても知られた。

一方で、天明の大飢饉などにより藩の財政は悪化の一途をたどり、債務は73万両にもふくれあがった。この藩政改革を任されたのが、家老の河合道臣(寸翁)である。姫路の特産品であった



酒井抱一（夏秋草図屏風部分）



姫路侍屋敷図（文化13年(1816)以前）

木綿は、色が白く薄地で柔らかく好評であった。道臣は、この木綿や塩・皮革・竜山石・鉄製品などの専売によって財政の立て直しを行う一方、飢饉に備えた備蓄倉庫「固寧倉」の創設等による農民の救済を行いつつ、朝鮮人参やサトウキビなど高付加価値の商品栽培も進めた。茶人でもあった道臣は、姫路の銘菓「玉椿」、オランダ商館由来の油菓子「かりんとう」誕生にも一役かっているとされている。



野里の固寧倉

姫路藩は藩校の「好古堂」を有していたが、道臣は私塾の「仁寿山校」を設立。頼山陽、猪飼敬所などを招いて漢学・国学・医学を伝授させ、次世代の人材育成を図った。

嘉永6年(1853)のペリー来航に始まる幕末の動乱期に姫路藩は、藩主忠績の指導下に佐幕派としての動きを展開したが、藩内では河合道臣の養子屏山を筆頭とする勤王派の台頭も進んだ。両者の対立は元治元年(1864)に「甲子の獄」と呼ばれる勤王派の粛清をひきおこし、翌年には忠績が幕府最後の大老となった。慶応3年(1867)、藩主を継いだ忠悳は、徳川慶喜から老中上座に任ぜられたが、慶応4年、鳥羽・伏見の戦いに敗れ江戸に敗走することになった。

「朝敵」となった姫路藩は備前藩からの攻撃を受け、藩主不在のまま姫路城を無血開城したが、江戸の姫路藩邸は、前藩主忠績・藩主忠悳が徳川に臣としての義を貫く強い姿勢を貫いたため、国元との相違が混乱を招いた。15万両という莫大な軍費献金や藩政改革と引き換えに新政府から家督相続を許された最後の藩主忠邦は、「戊辰の獄」(慶応4年(1868)～明治3年(1870))などにより佐幕派を一掃し、河合屏山ら勤王派の復権を進めた。

## (5) 近現代(明治、大正、昭和、平成) 19世紀～

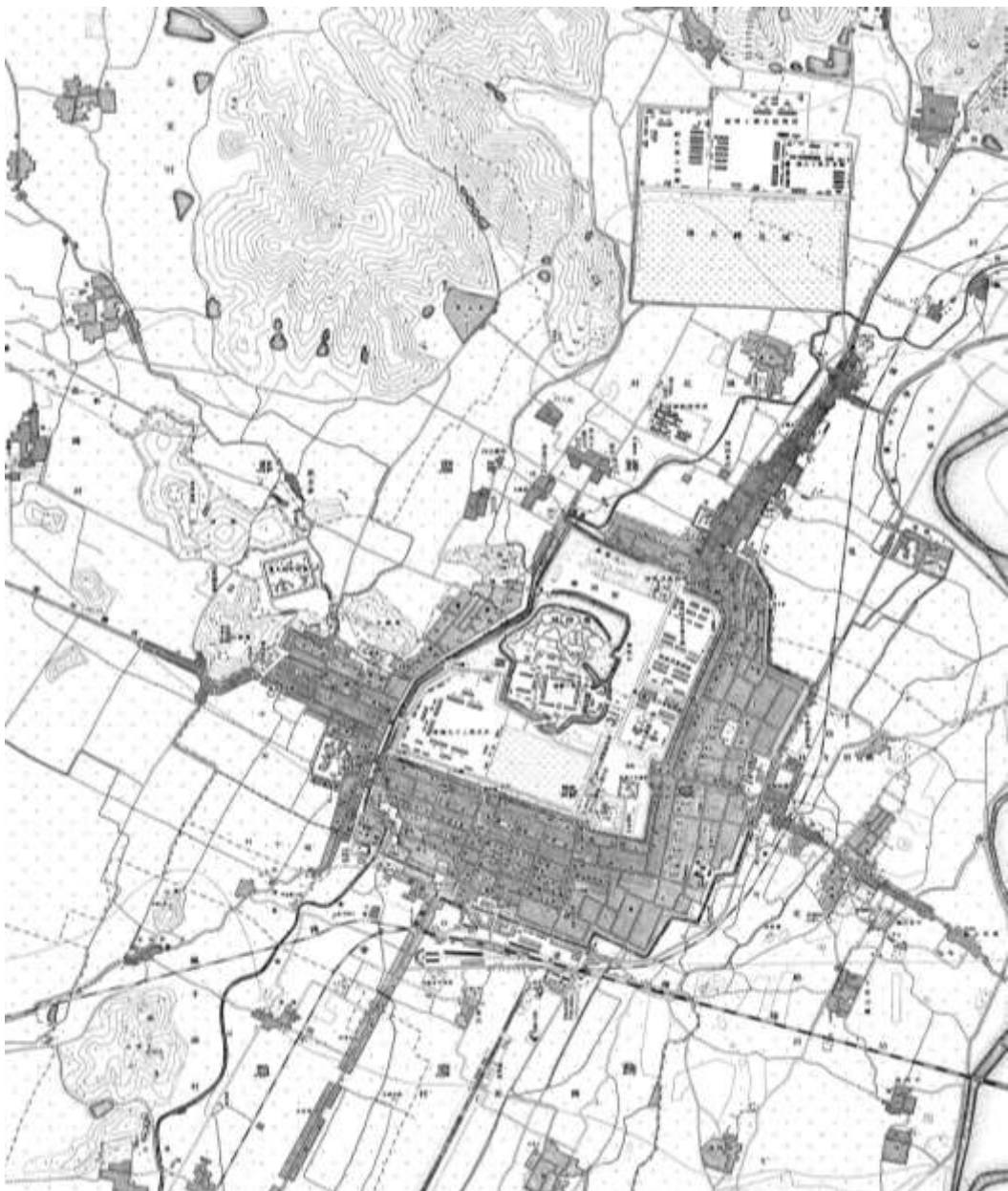
明治元年となった1868年、藩主忠邦は、新政府の政策を先取りするように、他藩に先駆けて版籍奉還を建白した。しかし佐幕派の姫路藩からの建議は無視される形となり、結果的に、この翌年、薩長土肥4藩からの建議として許可される。

明治4年7月の廃藩置県により姫路藩は解体され、第1次姫路県が誕生した。その4か月後、かつての播磨国の10県を統合した第2次姫路県が成立するが、1週間後には、飾磨県に改められるという混乱ぶりであった。県庁は当初、姫路城内の旧姫路藩政庁を使用していたが、老朽化や城内に新たに陸軍が駐屯することから、県庁の移転が必要となった。政府の厳しい財政状態から、建設費の大半を

民間の献金で賄うことになり、姫路城の西、薬師山麓に洋館の庁舎が新築されたが、落成直後の明治9年8月に飾磨県は兵庫県に統合されることとなり、新庁舎は一度も使われることなく終わった。この時期に全国的に行われた県の大合併に対しては、後に各地で分県の動きが巻き起こることになる。飾磨県についても、同様の運動がおこなわ



旧陸軍第十師団兵器庫  
(姫路市立美術館)



姫路市及其附近 (第十師団司令部 明治33年測量) 部分

れたが、ついに認められることはなかった。

このような中、姫路市は、明治22年4月に全国の30市とともに我が国初の市制を施行し、江戸時代の城下町とその外縁部の約3㎢を市域とする人口約25,000人の都市として始まった。また、姫路城周辺には陸軍第十師団が置かれ、軍都としての性格も持ち合わせた。

大正期になると、姫路駅周辺には商業や業務施設が集積し、一大ターミナルとなった。また、大正13年には旧制姫路高等学校が開校し、文教の府としての側面も持つようになった。同校は第2次大戦後に神戸大学姫路分校となり、昭和40年に神戸市に移転している。

工業の面では、明治後期から昭和期にかけて紡績業等の軽工業が発展し、大正期から昭和期にかけては臨海部に製鉄業等の重工業が進出した。人口の集積に伴い市街地が拡大していった。

第2次世界大戦では、2回の空襲により市街地は壊滅的な打撃を受けたが、大天守をはじめ姫路城は戦火を免れた。その後、戦災復興を早期に果たすべく、市のシンボルロードである大手前通りの整備や市街地の改造に取り組み、姫路駅周辺の復興が図られた。高度経済成長期には、播磨臨海工業地帯の中心としての役割を担い、商工業都市として今日の姿へと発展を遂げてきた。近年では、平成5年に姫路城が法隆寺(奈良県斑鳩町)とともに日本で初めて世界遺産一覧表に記載され、平成8年には、全国で最初の中核市として、政令指定都市に準じる都市に位置づけられた。

また、本市は明治期から昭和40年代にかけて、周辺部と計11回にも及ぶ市町村合併を繰り返すことにより市域を拡大してきたが、平成18年には全国的に合併の気運が高まるなか、周辺4町と39年ぶりに合併し、新姫路市として地方分権時代にふさわしい確かな一歩を踏み出した。



現在の姫路市（姫路駅～姫路城周辺）

### 3 社会的環境

#### (1) 人口

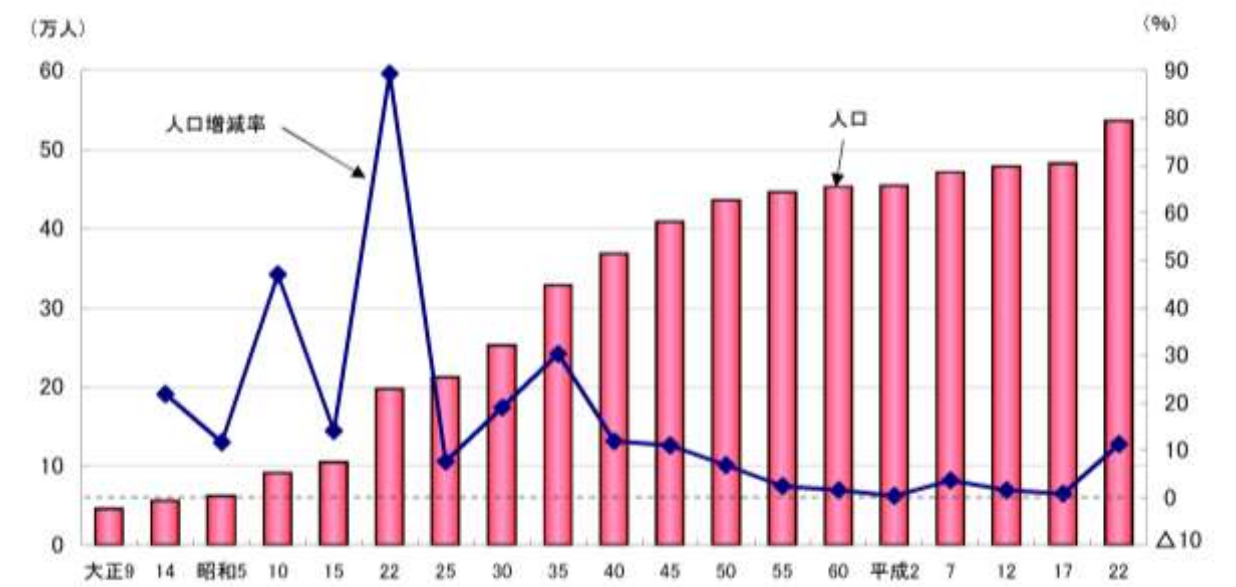
姫路市の人口は、昭和60年に50万人を突破した。近年では人口の増加傾向が鈍化し、平成22年現在では536,270人となっている。

姫路市は、平成18年3月に家島町、夢前町、香寺町及び安富町と合併したが、旧姫路市域と旧4町地域別に人口の推移を見ると、旧姫路市地域では現在も人口増加が続いているのに対し、旧家島町地域が昭和40年、旧夢前町地域と旧香寺町地域は平成7年、旧安富町地域は平成12年をピークに以後減少傾向が続いている。

	昭和60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	面積 km <sup>2</sup>	人口密度 1km <sup>2</sup> あたり
	姫路市	505,101	509,129	527,854	534,969	536,232	536,270	534.44
(伸び率)	2.3%	0.6%	3.7%	1.3%	0.2%	0.0%		
旧姫路市	452,917	454,360	470,986	478,309	482,304	485,992	275.73	1762.6
旧家島町	9,355	9,222	9,024	8,978	7,724	5,987	20.26	295.5
旧夢前町	19,665	20,368	22,056	21,952	21,228	19,812	146.18	135.5
旧香寺町	19,230	19,879	20,221	19,885	19,326	19,115	31.52	606.4
旧安富町	4,934	5,300	5,567	5,845	5,650	5,364	60.30	89.0

人口の推移

資料：総務省「国勢調査報告」

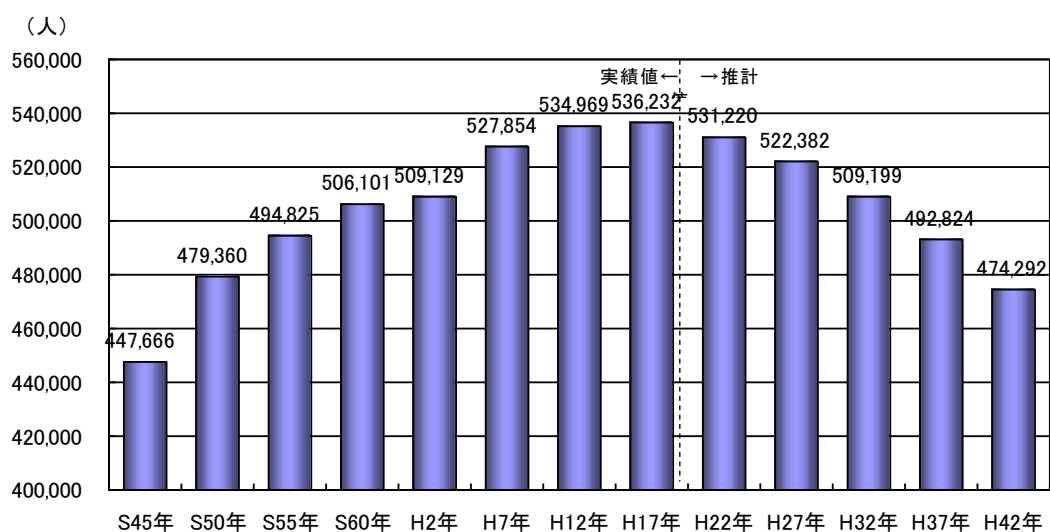


人口及び人口増減率の推移

17年までは旧姫路市

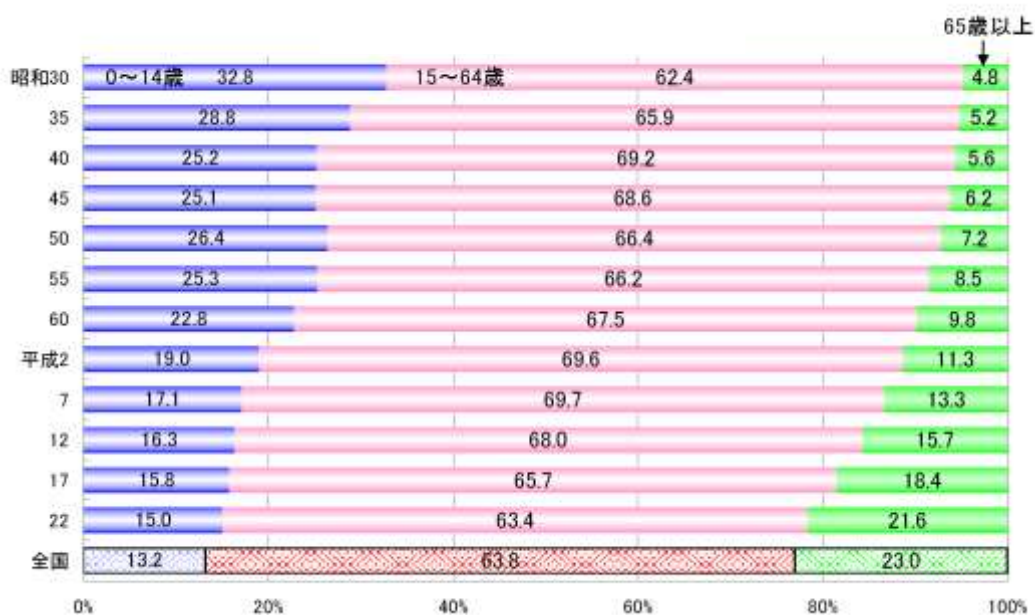


国立社会保障人口問題研究所の推計値（平成20年12月推計）によれば、姫路市の人口は平成22年以降、これまでの人口増加を上回るスピードで人口の減少が進展すると予想されている。その一方で老年人口の増加が続き、老年人口比率は平成22年現在の21.6%から平成42年(2030年)の老年人口比率は29.8%に達し、その人数も約141千人となる見込みである。おおむね20年後の姫路市の人口は、年少人口と老年人口が逆転した形で、昭和50年当時の水準まで落ち込むと予想されている。



### 人口の推移と見通し

資料：実績値は国勢調査、推計値は国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口」（平成20年12月推計）等による推計結果



### 年齢（3区分）別人口構成比の推移

## (2) 産業（工業）

姫路市の工業は、鉄鋼、化学などの基礎素材型産業と電気機械、一般機械などの加工組立型産業を中心に発展した。播磨臨海地域は、姫路市を含む播磨灘沿いの6市町からなる工業地帯であるが、その製造品出荷額等は約6兆円に達し、東京23区や大阪市など、どの政令指定都市をも上回るものづくりの拠点を形成している。

播磨臨海地域の中心となる姫路市では、神戸製鋼所加古川製鉄所（加古川市）、新日本製鉄広畑製鉄所（姫路市）等の既存の大工場と肩を並べるように、2010年には、出光興産姫路製油所跡地にパナソニックの液晶パネル工場（パナソニック液晶ディスプレイ株式会社）が稼働した。鉄鋼・化学等の素材型産業が主体の臨海部において、デジタル家電分野の最新鋭の工場が稼働している。内陸部においては中国自動車道、山陽自動車道沿線を中心として電気・機械などの加工組立型企業の立地が進んでいる。

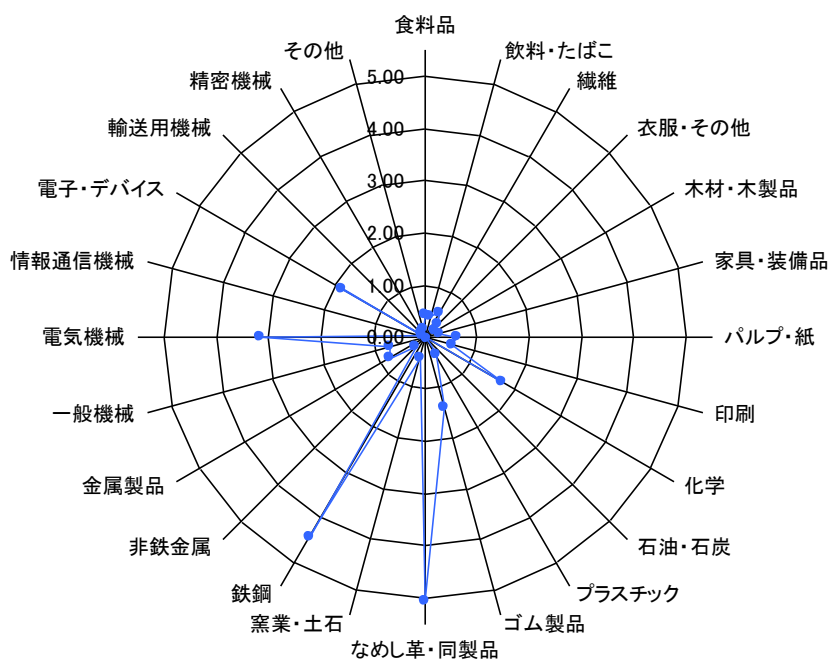
全国の産業別構成比に対する姫路市の産業別構成比の割合（特化係数）を見ると、なめし革・同製品、鉄鋼、電気機械が全国の産業別構成比の3倍以上となっており、これら産業の存在が本市の産業の特徴の一つといえる。

単位：億円

産業分類	姫路市		全 国		特化係数
	製造品出荷額等	構成比 (%)	製造品出荷額等	構成比 (%)	
総 数	23,855	100.0	3,367,566	100.0	1.00
なめし革・同製品	178	0.7	4,994	0.1	5.04
鉄鋼	6,584	27.6	211,917	6.3	4.39
電気機械	4,694	19.7	210,656	6.3	3.15
電子・デバイス	2,741	11.5	209,359	6.2	1.85
化学	3,400	14.3	282,939	8.4	1.70
ゴム製品	349	1.5	35,346	1.0	1.40
金属製品	819	3.4	151,889	4.5	0.76
一般機械	1,832	7.7	362,734	10.8	0.71
パルプ・紙	329	1.4	76,600	2.3	0.61
印刷	275	1.2	69,823	2.1	0.56
繊維	80	0.3	22,167	0.7	0.51
食料品	742	3.1	241,963	7.2	0.43
窯業・土石	245	1.0	84,923	2.5	0.41
飲料・たばこ	290	1.2	102,435	3.0	0.40
プラスチック	351	1.5	123,989	3.7	0.40
衣服・その他	55	0.2	20,765	0.6	0.38
家具・装備品	44	0.2	22,703	0.7	0.28
非鉄金属	213	0.9	107,705	3.2	0.28
木材・木製品	39	0.2	27,099	0.8	0.20
その他	53	0.2	45,455	1.3	0.16
精密機械	40	0.2	42,741	1.3	0.13
輸送用機械	381	1.6	639,100	19	0.08
石油・石炭	61	0.3	137,014	4.1	0.06
情報通信機械	60	0.3	133,250	4.0	0.06

製造品出荷額等の構成比と特化係数

資料：平成19年工業統計調査



製造品出荷額等の特化係数

注：特化係数とは、全国の産業別構成比に対する姫路市の産業別構成比の割合で、1に近い程全国の水準に近く、1を超えると全国水準より比重が高い産業となる。

### (3) 産業（農業）

農業については、都市近郊の立地条件を生かして新鮮で安全な農産物を供給しているが、自給的農家(経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家)の割合が高くなっており、主業農家(販売農家のうち、所得の50%以上が農業所得で、65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家)は非常に少なくなっている。

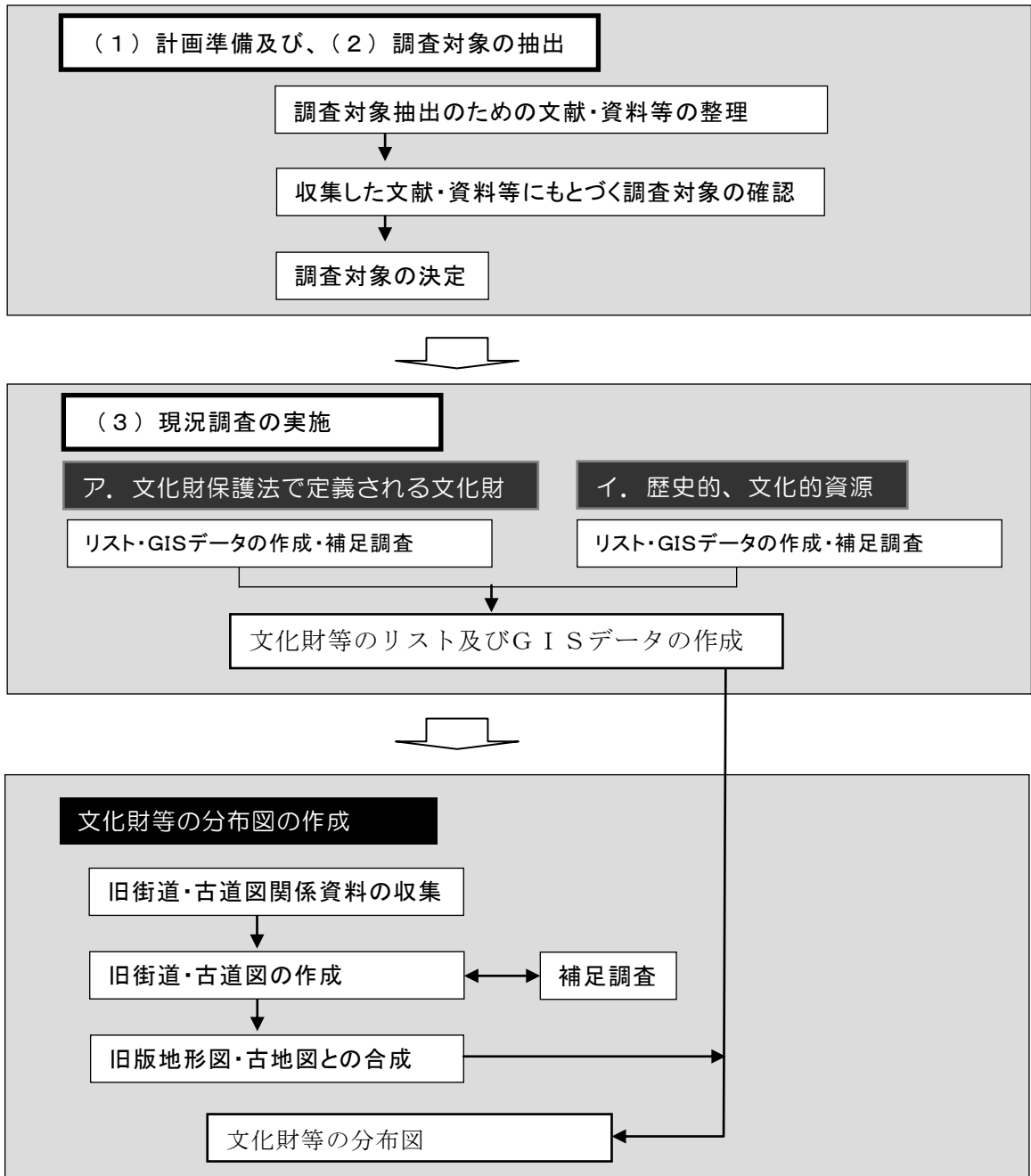
林業においては、旧安富町を含む旧宍粟郡5町では、豊かな森林が持つ生活、産業、環境、都市交流など総合的な機能の利活用による地域づくりを推進するため、平成元年に「しそう森林王国」を建国し、平成4年には、兵庫県、旧宍粟郡5町、しそう森林王国の間で「県民オアシスーしそう森林王国の形成に関する協定」を締結し、県民の「こころのオアシス」の形成を図っている。

水産業においては、合併により、漁獲量が約34倍(県内2位)に拡大しており「とる漁業」から「つくり育てる漁業」への転換を図りつつ、安定的な漁業経営への取組みが行われている。

## 第2節 姫路の特性

### 1 調査の方法

姫路市の特性を把握するため、平成22年度に市域全域を対象に文化財の指定・未指定を問わず、総合的な調査を行った。調査は、官公庁発行の文献等の他、関係する各種資料等を中心に行い、必要に応じて現地調査等も併用した。



総合的な調査の流れ

番号	文献・資料等 ※	作成データ	データ件数
①	指定文化財等リスト	文化財保護法・条例に基づく指定文化財	283件
②	姫路の文化財（第1～3巻）	建築（近代を含む）、彫刻、絵画、工芸、	272件
③	姫路市史第15巻下文化財編2		
④	兵庫県遺跡地図	埋蔵文化財	1,194件
⑤	姫路市史第15巻中文化財編1	石造文化財（石造美術）	125件
⑥	姫路市史第7巻上 自然歴史の道調査報告書第1・2・4集（巡礼道・山陽道・美作道）	古道・街道、道標等	206件
⑦	兵庫県宗教学法人名簿	寺院・神社	744件 (寺院369件、神社375件)
⑧	歴史的地名・町名等関係図書	地名	133件
⑨	姫路市都市景観重要建築物等	都市景観重要建築物等	38件
⑩	姫路市保存樹	保存樹	121件
⑪	姫路市史・旧各町の町史等	地域資源	2,887件
⑫	地域夢プラン		
⑬	ふるさと探訪		
⑭	文化財見学シリーズ		
⑮	文化財をたずねて		
⑯	文化財だより		
⑰	国土地理院基盤地図情報	標高・傾斜データ	背景図等に反映

調査対象抽出のために用いた主要な文献・資料等及び作成したデータ

※ 文献・資料に関する補足説明

#### 都市景観重要建築物等

姫路市都市景観条例に基づき姫路市長が指定する、都市景観形成上重要と認められる建築物、工作物その他の物件又は、樹木・樹林のこと。

#### 姫路市保存樹

姫路市自然保護条例に基づき姫路市長が指定する、市民に親しまれ若しくは由緒由来がある樹木(樹林を含む。以下同じ。)、すぐれた美観を呈する樹木又は貴重な樹木で保護することが必要な樹木のこと。

## 地域夢プラン

平成17年度から始まった姫路市の事業。地域住民が中心となって、歴史・文化・自然等の地域資源を掘り起こし、地域の魅力を高めるための地域夢プランを校区単位で策定し、ソフト事業の実施により、市民参加による活力ある住みよいまちづくりを進めることを目的としている。

## ふるさと探訪

広報紙「広報ひめじ」に連載されたコラム。市民がリポーターとなってふるさとの地域資源などを紹介するもの。平成2年5月号から始まり、平成24年2月号で244回を数える。

## 文化財見学シリーズ

地域の文化財を地区毎にあるいは個別のテーマに沿って紹介する。姫路市教育委員会発行。

## 文化財をたずねて

文化財見学シリーズを基に、現地を見学するために姫路市教育委員会が発行するルートマップ。

## 文化財だより

姫路市文化財保護協会が発行する会報。文化財に関して、多くの記事が掲載されている。



「地域夢プラン」ホームページ



「ふるさと探訪」連載第1回紙面



文化財見学シリーズ

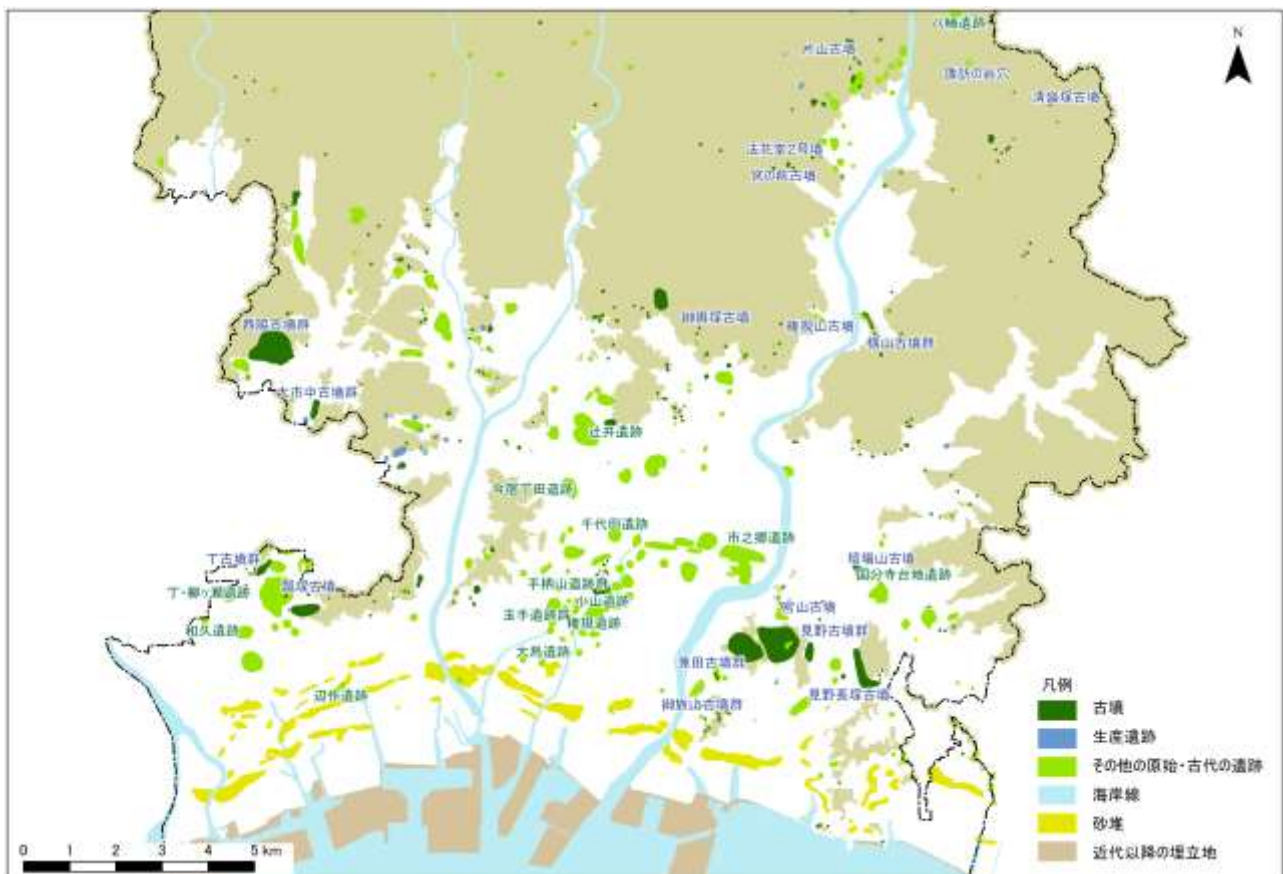
## 2 調査の結果

ここでは、総合調査によって、明らかとなった本市の歴史文化遺産の特性について、分野毎に整理を行う。

### (1) 時代毎の特性

#### 原始・古代（旧石器・縄文・弥生・古墳時代）

- 歴史文化遺産の中心は、遺跡や出土品等、地下に眠る埋蔵文化財であり、多くはそのまま見ることはできない。
- 旧石器・縄文時代は、時代の古さもあり、当時の地形と現在と地形が大幅に違うが、その地形の変化の痕跡が残っているものもある。縄文海進期と考えられる大津区の砂堆などが好例である。
- 埋蔵文化財の中でも、古墳は、地上に現れて目に見える形のものが多い。全長100mを越える大型の前方後円墳である瓢塚古墳や壇場山古墳は、地域を超えたランドマークともなっている。
- 古墳時代、特に中頃以降の遺跡では、韓半島からの「渡来人」との関わりで評価されるものが多く、『播磨国風土記』の渡来伝承との関係が指摘される。



原始・古代の歴史文化遺産の分布（市域中部・南部）

## 古代（奈良・平安時代）

- 「大国」播磨国の中心であることを示す国府、国分寺・尼寺が所在し、また、古代山陽道をはじめとする主要官道が走る交通の要衝でもあった。
- 播磨国分寺は、史跡整備されている。古代山陽道は、近世西国街道と重複している部分も多いと考えられており、現在でもおおむねその跡をたどることができる。
- この時期に成立した『播磨国風土記』によって、地名の由来や土地の伝承が伝えられている。現在も残る地名には、これらが継承されているものも多い。
- 圧倒的な数の古代寺院が造営され、また、広峯神社や播磨国総社、西の比叡山と呼ばれる書写山円教寺など、今に続く主要な宗教施設が、この時代に始まったと伝えられている。
- 租庸調の調としても生産された須恵器を焼いた窯跡の遺跡が市域西部に多数残っている。ここでは、<sup>しび</sup>鷗尾などの瓦も焼いており、大阪四天王寺など他地域の寺院にも使われている。
- 末法思想による、経塚などの仏教関係の遺跡も良く知られている。特に極楽寺瓦経は全国的にも著名である。

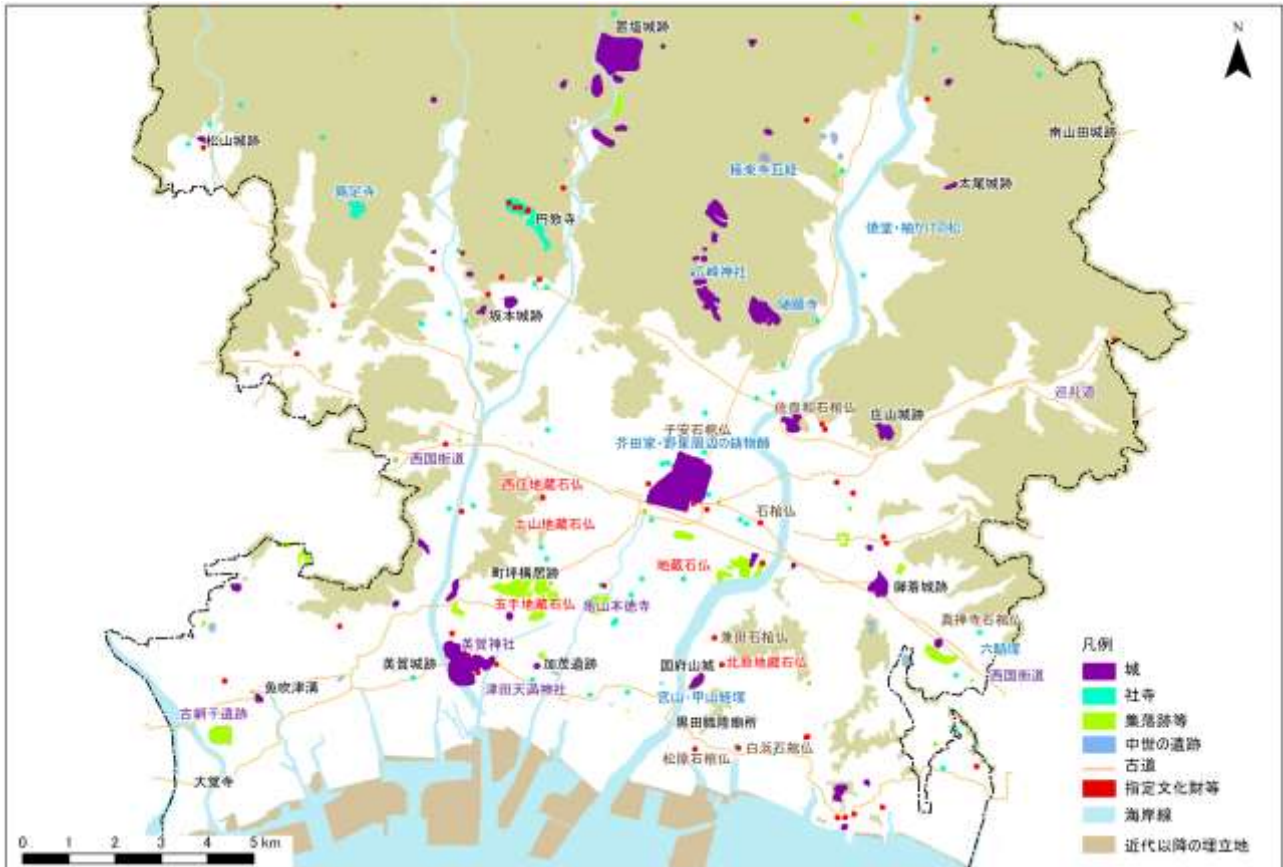


古代の歴史文化遺産の分布（市域中部・南部）



## 中世

- 中世の地誌として全国的にも著名な『峰相記』があり、当時の播磨の世相が良く知られる。また、舞台となった峰相山鶏足寺は、遺跡となっているが良好に遺構を残している。
- 播磨守護でもあった赤松氏の遺跡が、置塩城跡を代表として、多く残されている。
- 戦国期の播磨を代表する黒田氏に関する遺跡が、良く知られている。
- 天正年間、羽柴秀吉によって、姫路城と城下町の基礎が造られた。
- 古代に始まる「播磨鍋」など、播磨を代表する特産品を生産した鋳物師が野里周辺にあり、中でも今に続く芥田家は著名である。
- 室町時代末期と想定される安富町の古井家住宅は、民家として稀有の例である。
- 古道沿いを中心に、石造遺品が多く残されている。竜山石製のものも多い。
- 近世にも続く西国三十三ヶ所の巡礼道が良く残っている。



中世の歴史文化遺産の分布（市域中部・南部）

## 近世

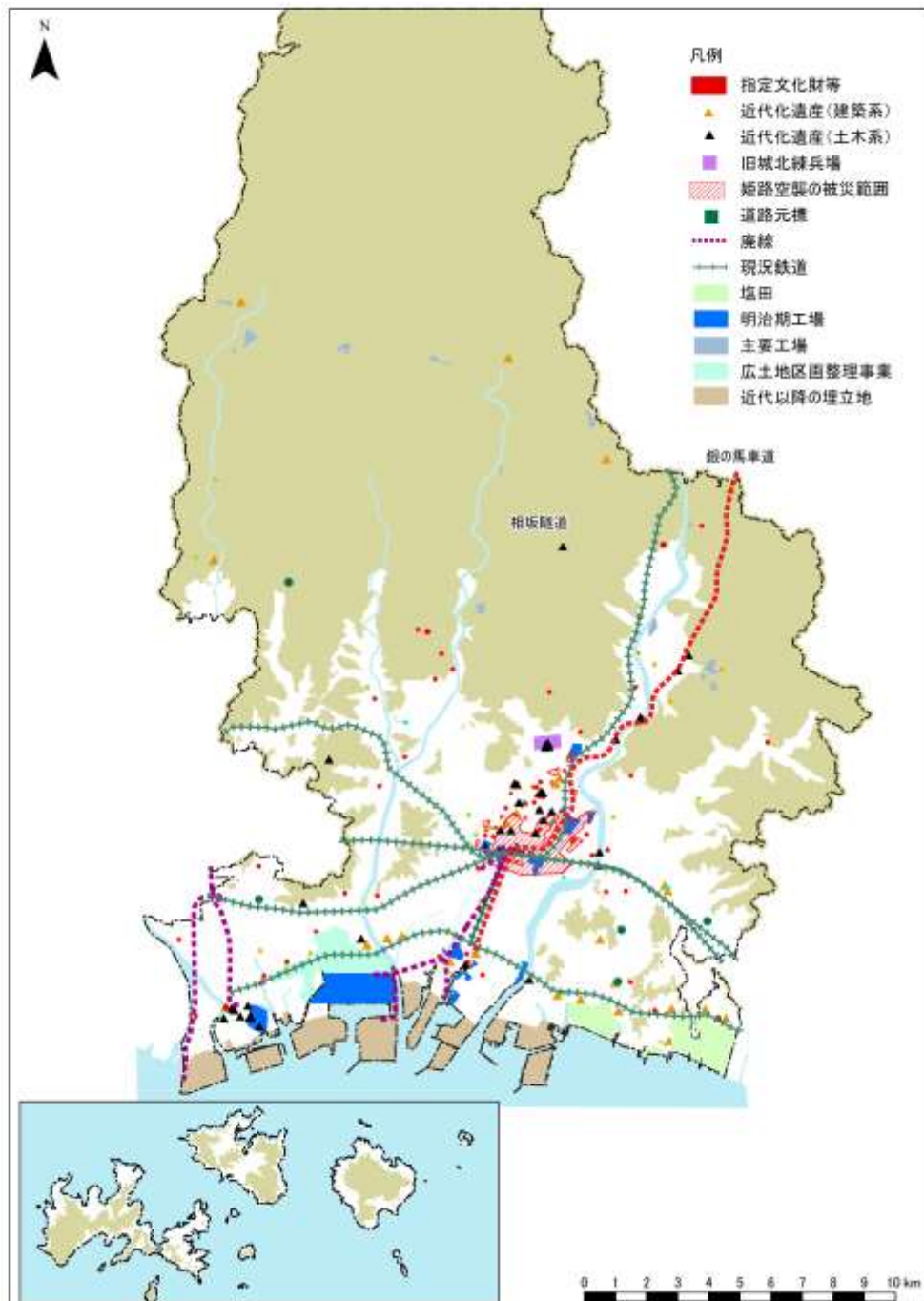
- 姫路城は、圧倒的な存在としてあり、天守などの歴史的建造物と広大な面積の特別史跡が保存されている。
- 本多氏、松平氏等の藩主及び関連の墓所が市内各所に残っている。
- 姫路城周辺の城下町跡は、中心市街地として開発が進んでいるが、外堀の一部やノコギリ横丁など、城下町の町割りや町名が現在も良く残っている。
- 城下町や製塩等に関わる豪商や大庄屋の住宅などが市内各所にある。
- 和釘・瓦・姫路菓子や製塩など江戸時代に礎をなす様々な産業の広がりがある。
- 亀山本徳寺、船場本徳寺など江戸時代からの寺院が今に続いている。建物が再建されたものもある。
- 塩田、新田、<sup>たんぼ</sup>湛保などの<sup>こねいそう</sup>土木遺産や固寧倉、藩校、私塾などの建築も残っている。
- 林田藩建部家の陣屋や街道沿いの町並みなどが良好に残っている。
- 網干地区には、龍野藩、丸亀藩の飛地があったが、その名残が残っている。
- おさかべ姫、お夏清十郎など、江戸時代の伝説等の舞台ともなった。



近世の歴史文化遺産の分布（市域中部・南部）

## 近代

- 現在の産業の礎となる、臨海部の工業地帯や、地場産業でもある皮革産業・製鎖産業等が色濃くある。
- 近代化による紡績、工業、教育関係の建築や、産業都市としての発展に関連する廃線となった鉄道、銀の馬車道などの土木遺産が多数残る。
- 近代住宅や町家が市内各所に残る。
- 軍都として成長した時期の旧陸軍関係施設が残る。

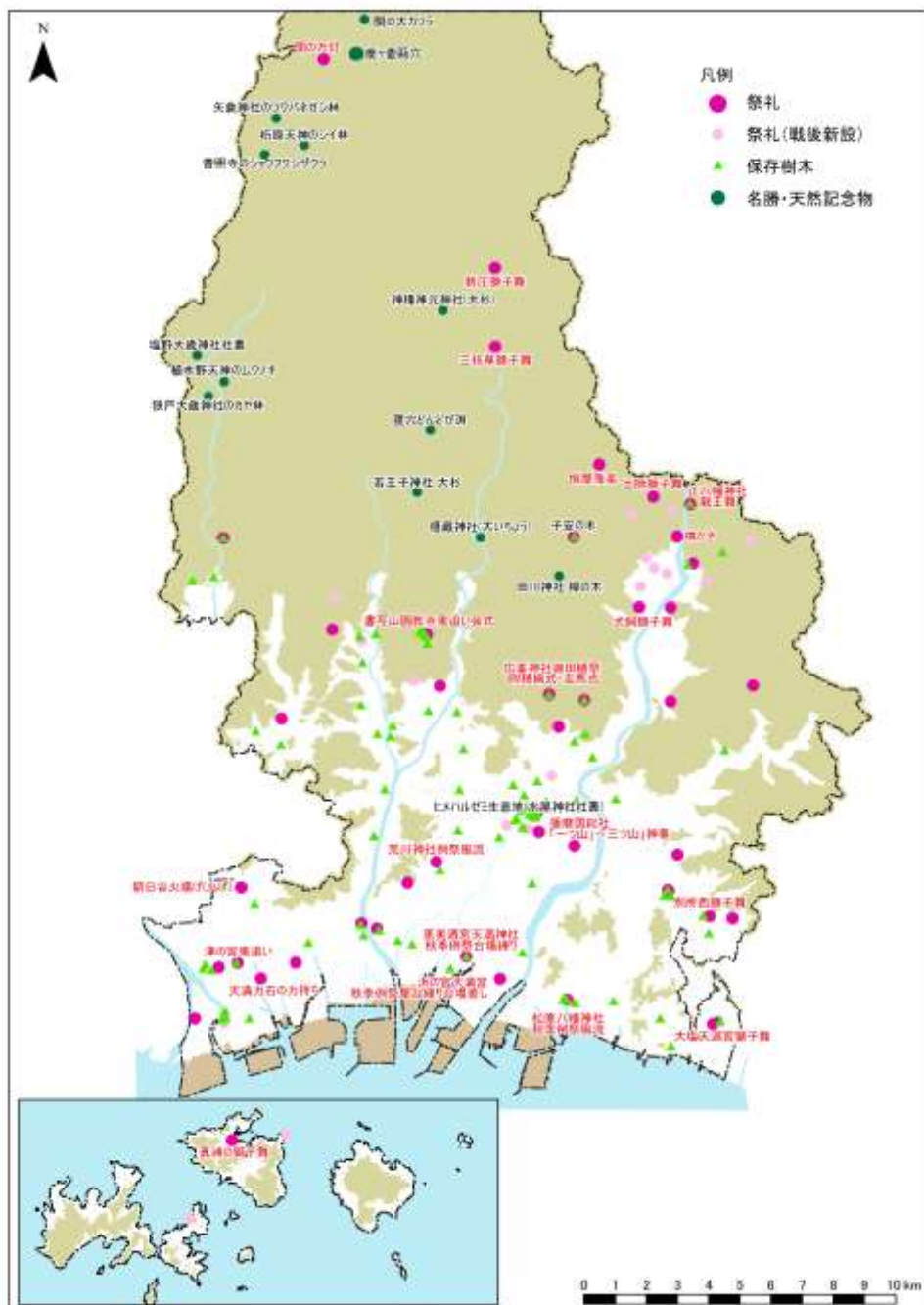


近代の歴史文化遺産の分布

## (2) 地域の特性

### 祭礼・天然記念物等

- じょまいじょ 龍王舞や一ツ山・三ツ山といった、都からの影響により成立したと考えられる中世に起源を持つ伝統的な祭礼がある。
- 屋台や壇尻を中心とした祭礼や獅子舞などは、近世には成立したとも考えられるが、現在までに変容しながら、各地で大いに隆盛している。
- 北部では、神社の境内地等に天然記念物があり、南部では、各所に保存樹がある。



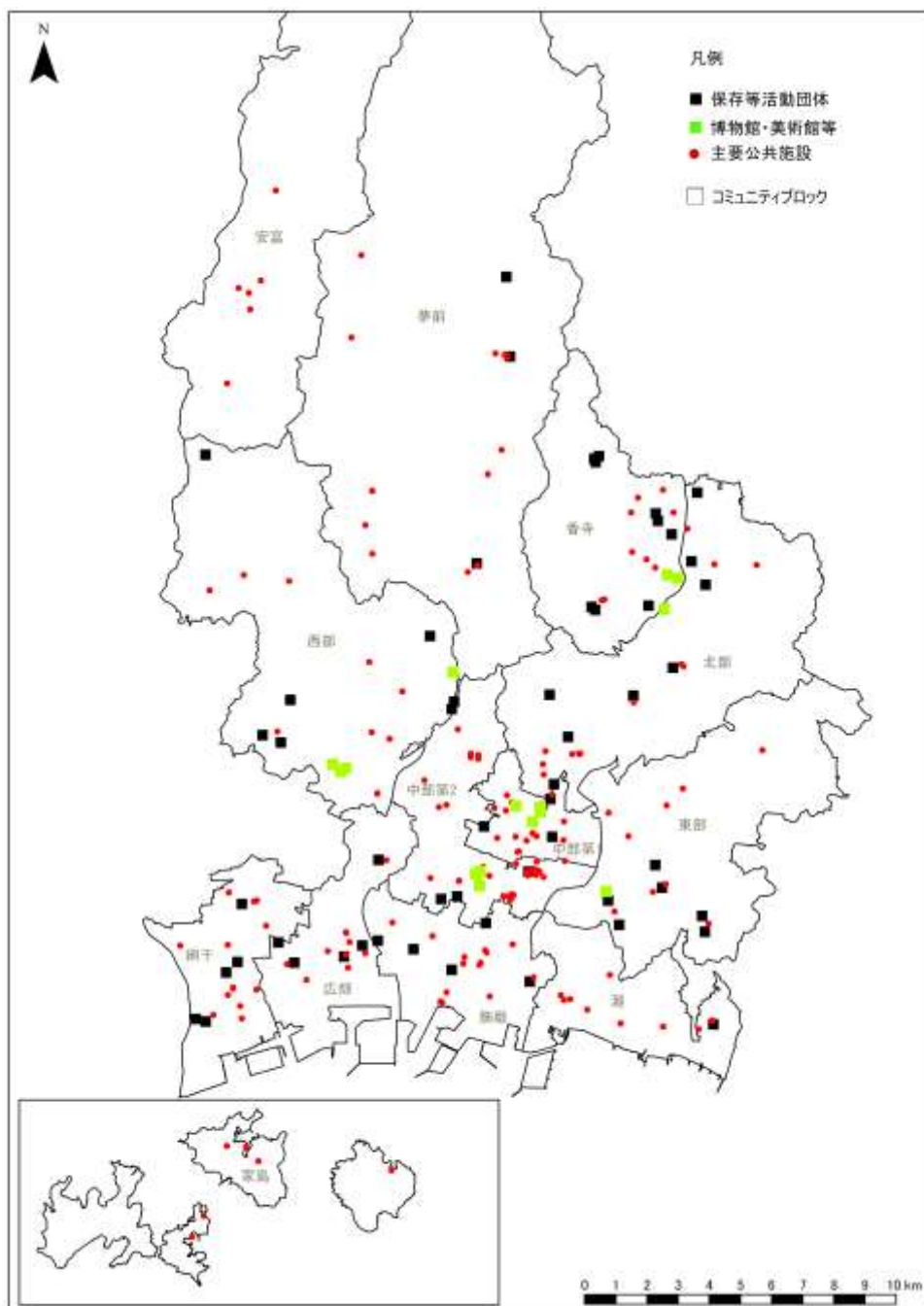
祭礼・名勝天然記念物・保存樹の分布

## 市民活動団体、その他

- 個別の史跡や民俗行事の保存団体やまちづくりに関するNPO等の団体は、全市的に分布している。個別の枠を超えて広く活動している団体もある。
- 公共施設等は、全市的に分布するが、博物館等は、特定の地域的に集中する。

## 伝説・文学

- 弁慶、播州皿屋敷、お夏・清十郎、宮本武蔵など、著名な伝説がある。
- 泉鏡花「天守物語」、司馬遼太郎「播磨灘物語」など、姫路・播磨を舞台にした文学作品が知られる。



市民活動団体等の分布



## 第3章 姫路市歴史文化基本構想

### 第1節 基本理念と方針

#### 1 基本理念

姫路は、「播磨」という経済、政治、軍事など多方面において、古代から近代に至るまで常に重要な位置を占めてきた地域における中心としての役割を担ってきた。その恵まれた地理的歴史的な環境から生み出された、姫路の歴史文化遺産は、そのひとつひとつがとても大きな文化財的な価値を持っている。その一方で、あまりにも恵まれた環境であったことや、文化遺産の多さによって逆にその意義や価値が分かり難くなっているという面もある。

歴史文化遺産は、先人たちが日々の営みや様々な経済活動を行なってきた中で、その価値・意義が形作られ、積み重ねられてきたものである。このことを改めて反芻し、身の回りにある遺産とその価値を再発見し、再認識するとともに、今を生きる私たちが先人たちと未来の子供たちとの架け橋となって、生きた遺産として活用していくことが必要である。そこで、歴史文化遺産の活用を通して、市民一人ひとりが歴史・文化、人、自然に誇りと愛着を持って大切に守り、未来に引き継ぐことで新しい「ふるさと・ひめじ」を創造していくことに寄与することを本構想の基本理念とする。

#### 2 基本方針

歴史文化遺産は、それが生み出された時から現在まで、時代の流れの中でさまざまな要請に応じて、柔軟に変容してきた。この変容は、人々の日々の営みによるものや時代ごとのまちづくりなど、価値観の変化とそれに抵抗する継承への努力が、絶妙なバランスで奇跡的に生み出された結果である。

この遺産に現代の存在価値を付加しつつ確実に未来へと継承していくためには、将来にわたっての変容を適切にコントロールしていくことが重要である。そのためには、時代の要請を的確に把握するとともに、私たちがその価値を享受しながら次世代へと継承していく有効なシステムが必要となる。その実現のための基本方針として、保存活用の推進と歴史文化遺産によるまちづくりの推進を設定する。

## (1) 歴史文化遺産の適切な保存・活用の推進

### ① 歴史文化遺産の総合的な把握

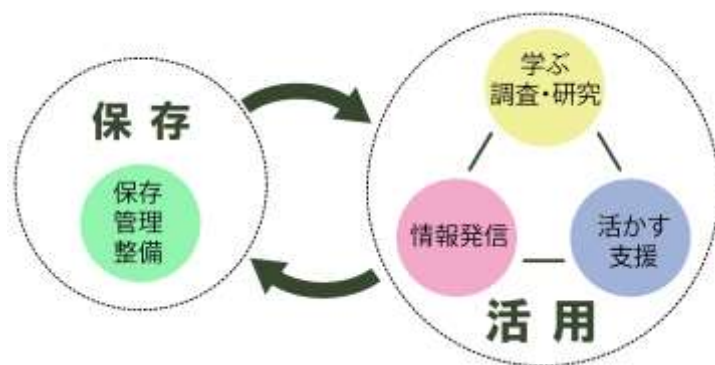
文化財そのものはもちろんのこと、その周辺環境も含めた総合的な把握を行い、歴史文化遺産相互の関連性も含めて全体を見渡せるようにする。

### ② 効果的なテーマ設定

地域の歴史・文化を見直し、価値の顕在化を進めるために、効果的なテーマを検討する。そのテーマに基づき「関連文化財群」としてグループ化する。

### ③ 核となる文化財の真実性の担保

関連文化財群の中でも核となる文化財については、その真実性に価値があることから、安易な変容や現状変更などを抑制しつつ活用と保存・継承の両立を図る。



## (2) 歴史文化遺産によるまちづくりの推進

### ① 現在と未来の担い手をつくる

歴史文化遺産の活用のために、その担い手となる人づくりが重要であり、現在の担い手だけでなく、未来の担い手を生む方策を検討する。

### ② 市民が主体として活動できる仕組みづくり

本来、歴史文化遺産の継承の主体であった市民等が、再び主体となるために、NPO等を含め活動のしやすい仕組みを検討する。

### ③ ふるさと・ひめじ

意識することの少ない「ふるさと」を再認識し、ひめじの魅力と誇りを醸成する方策を検討する。

### ④ 関連する制度との総合的な連携

総合計画や都市計画など、上位計画やまちづくり等に関する様々な計画と総合的な連携を図る。



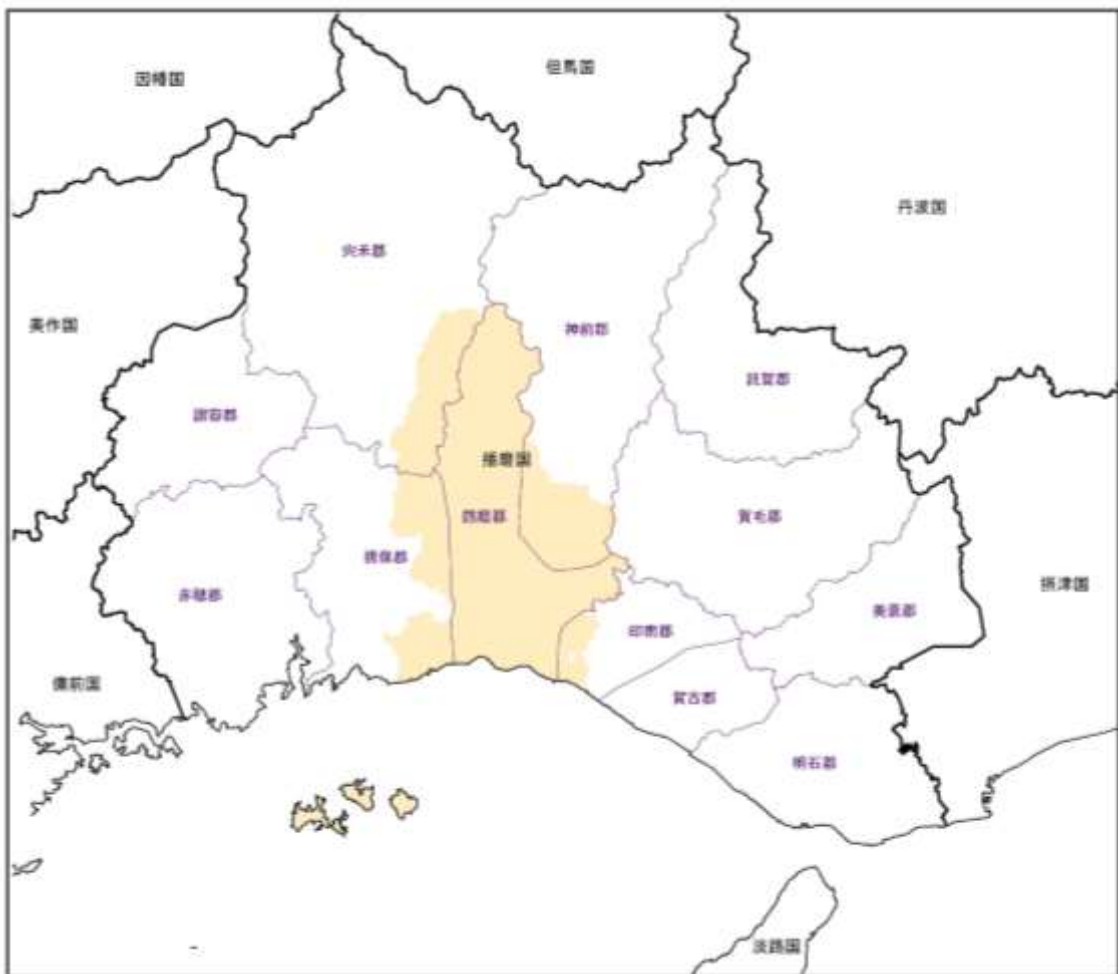
## 第2節 関連文化財群

姫路市の多種多様で多量の歴史文化遺産が成立し、今に伝わってきたその背景には、あらゆる時代を通して、常に播磨の政治、経済、文化の中心として機能してきたという点が大きい。

そして、播磨は、古代には、「大国」と呼ばれ中世～近世にも地政学上の重要地域であったように、我が国の歴史のなかで常に重みをもって存在してきた。

そこで、本構想では、姫路市の歴史文化遺産を貫く最も大きなテーマとして「**大国 播磨の中心**」を設定する。

有形・無形、指定・未指定を問わず地域に伝わるさまざまな文化財の特性と、歴史的、地域的な関連性などにに基づき、相互に関連性のある一定のまとまりとして「関連文化財群」を設定する。



播磨国と現在の姫路市の行政区域

## 関連文化財群テーマ 神話と伝説 ～播磨国風土記の世界～

風土記は、播磨を除けば、常陸、出雲、肥前、豊後のみが現在まで伝えられている、古代史の一級資料である。播磨国風土記に記される様々な地名起源の説話、神話や伝説などは、播磨の歴史文化遺産の根幹をなすものの一つと言って良い。

核となる文化財：『播磨国風土記』、播磨国分寺跡、播磨国分尼寺跡、  
播磨国府跡(本町遺跡)、古代山陽道跡、古代寺院跡等  
関連するもの：渡来系とされる遺跡群及び出土品、地名、伝承等

風土記に記載されている地名は、<sup>しかま</sup>飾磨郡、<sup>いぼ</sup>揖保郡などの郡のレベルだけではなく、<sup>あが</sup>英賀、<sup>あぼ</sup>英保、美濃といった里のレベルでも現在に引き継がれている。伊和里の条に記される14の丘など、現在の場所との親縁性も高く、その中の一つである<sup>ひ</sup>日女道丘が<sup>めちおか</sup>姫路の地名の由来になったとも言われている。

また、播磨国風土記の特徴として、数多くの渡来伝承がある。それも九州や四国、山陰など国内各地からのものだけでなく、朝鮮半島からのものが際立って多いことがあげられる。これは、播磨が日本海と瀬戸内海、列島の東西を結ぶ重要な位置にあり、多くの人や物が集まったことを示すものと考えられる。

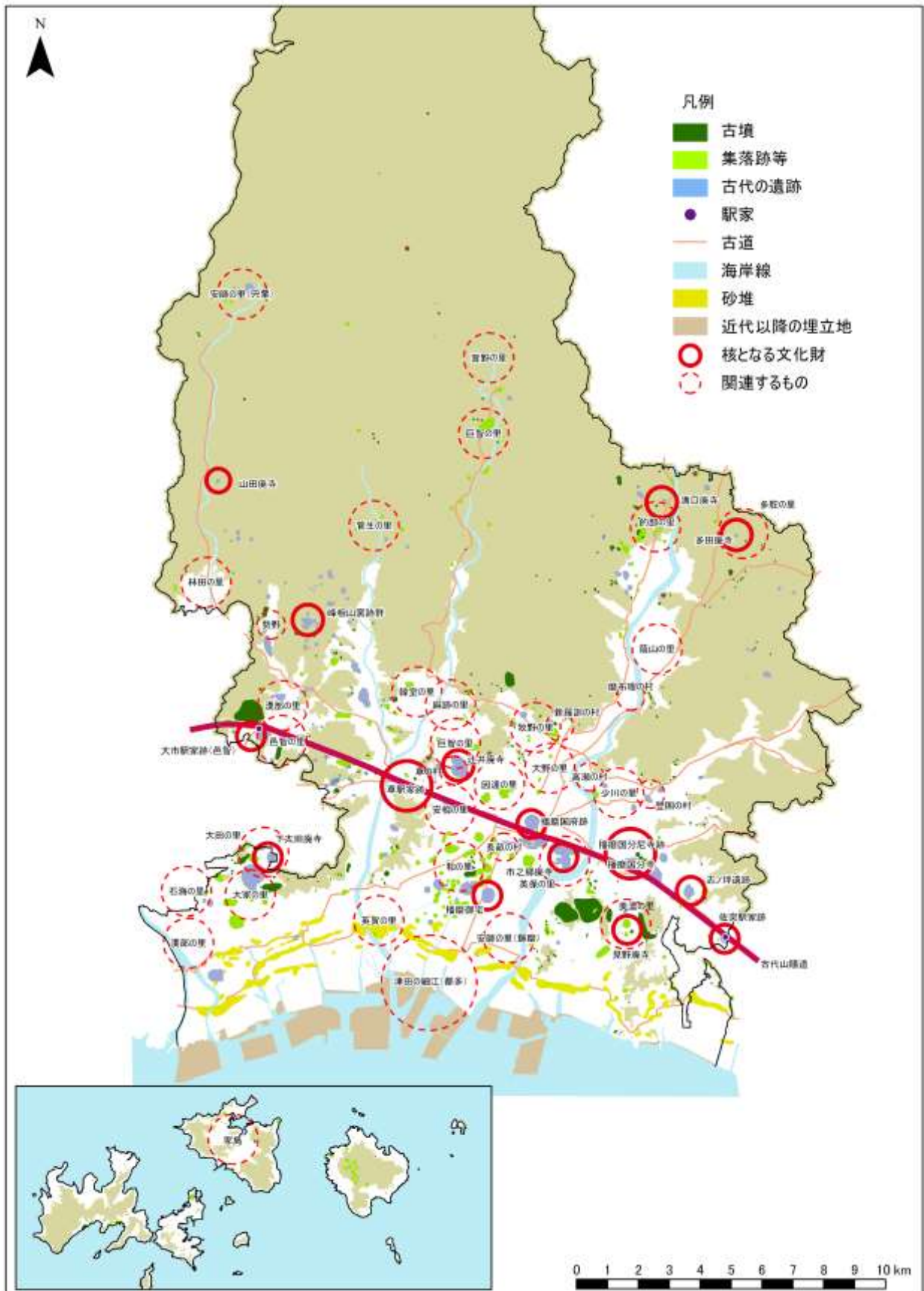
これらの記事を裏付けると想定される文化財も多く残っている。渡来系の古墳として有名な宮山古墳や集落跡等の古墳時代の遺跡群のほか、奈良時代の主要交通路の古代山陽道、海上交通の要としての韓泊など豊富に存在している。

ほかにも飾磨川、家島、津田の細江など万葉集に詠まれた地名も関連文化財と捉えることができる。

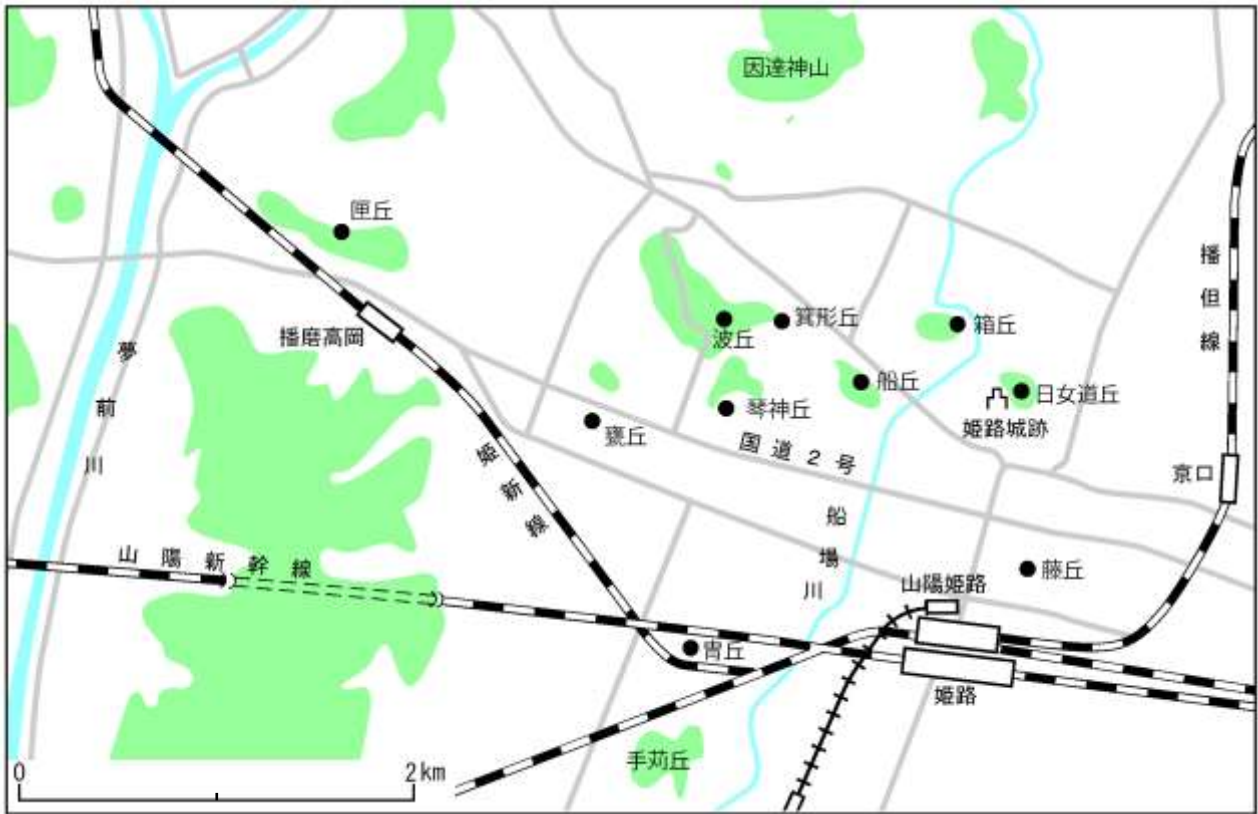
このように、市内には風土記を軸とした文化財群が長い歴史の中に息づいており、その範囲は現在の姫路市域のみならず、播磨地方へと広がっている。



宮山古墳出土の渡来系耳飾



関連文化財群のイメージ



『播磨国風土記』伊和里の14丘の比定地

## 関連文化財群テーマ 近世の武家社会 ～姫路城物語～

姫路城は、言うまでもなく我が国を代表する近世城郭遺構であり、姫路市のシンボルともなっている世界遺産である。中世後期から近世を経て現在に至るまで、今の我々の暮らしの直接的な基盤は、おおむねここから形成されてきたと言っても過言ではない。

核となる文化財：姫路城（建造物、史跡）、江戸時代の古文書等の歴史資料等  
関連するもの：石垣の産地、城下町の地割、町名、地名、江戸時代に祖をなす地場産業や伝統工芸、姫路城周辺の町並み、江戸時代の名所、文学、伝説等

国宝の姫路城大天守を中心として天守群や櫓、門などの建造物群、特別史跡指定地とそれを取りまく城下町跡など、近世の武家社会というテーマの核となる文化財の存在は圧倒的である。築城に関連するものとしては、石垣の築石を切り出した鬢櫛山<sup>びんぐし</sup>などの産地がある。

現在、中心市街地となっている姫路城城下町跡は近代的な街並みとなっており、城下町としてのイメージがつかみにくくなっている。しかしながら、江戸時代の地割や町名が今も良く残っており、これらを近世の武家社会に関連する遺跡として捉えることができる。

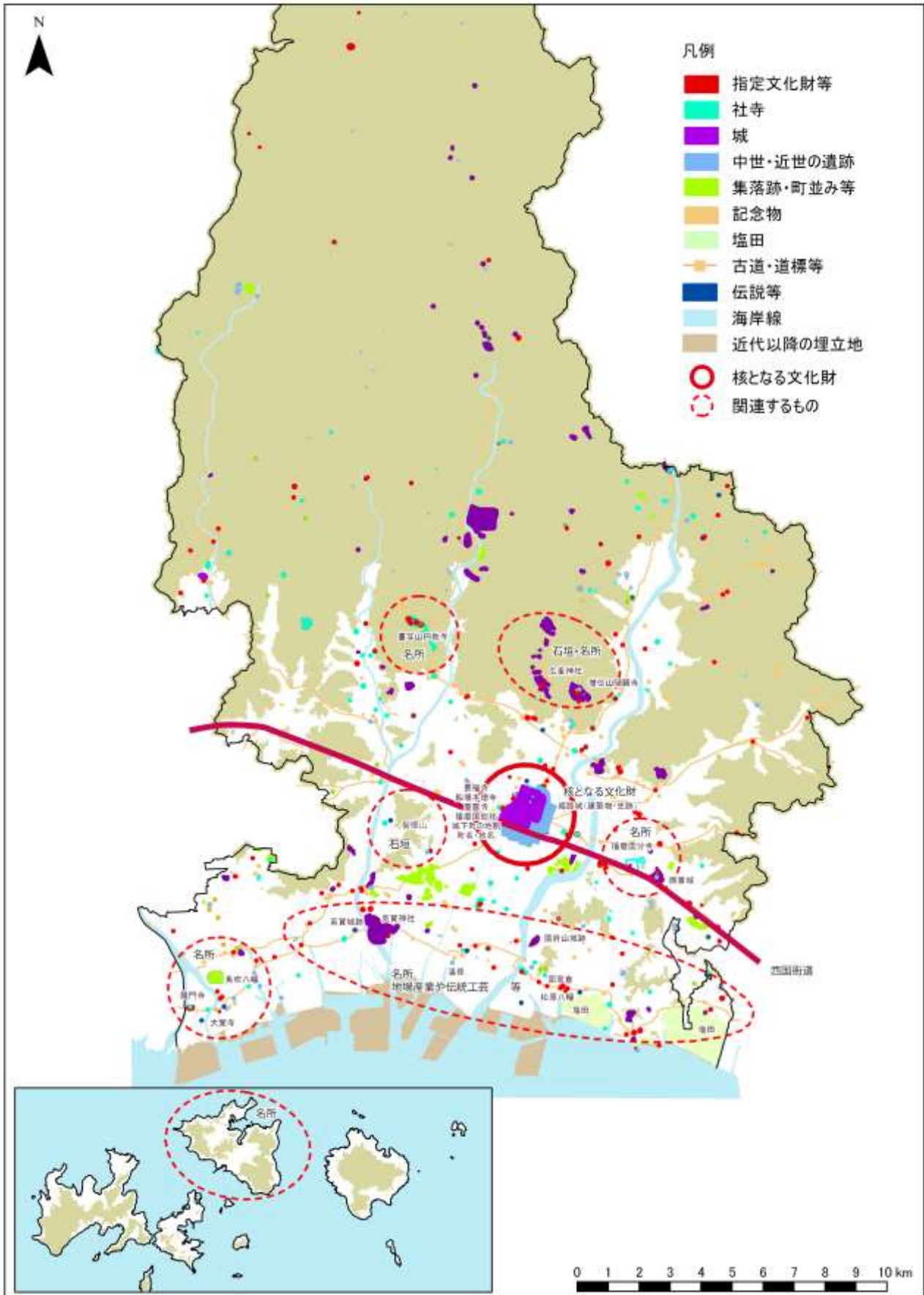
また、姫路城下には船場本徳寺や景福寺、野里の慶雲寺、播磨国総社など数多くの寺社があり、建造物、美術工芸品、古文書などの歴史資料のほか古代から現代まで伝わる一ツ山・三ツ山神事のような民俗文化財などが伝わっている。特別史跡姫路城跡指定地周辺の船場、城西や野里地区の町並みなども関連したものとしてあげられる。



姫路城大天守



姫路城と城下町跡



関連文化財群のイメージ

姫路城下の繁栄とともに、木綿、絹織物、藍染め、革、陶器、油菓子などの地場産業も発展し、現在にも続くものもある。地場産業や伝統工芸も、武家社会に関連する文化遺産としてあげられる。

江戸時代の名所案内である『播州名所巡覧図絵』には、書写山円教寺、増位山随願寺、国分寺、播磨国総社、広嶺神社、松原八幡、魚吹八幡などの神社仏閣や祭



姫路革細工

礼行事、名所旧跡などが多数紹介されている。これらの中には、現在まで伝えられたものも多いが、松尾芭蕉ゆかりの風羅堂や姫路藩の主要な港湾である飾磨津など、今は失われたものもある。しかしながら、これらの記録は、総体として当時の人々の思いや暮らしを伝えており、全体として関連文化財群として捉えることができる。

また、江戸時代に良く知られた、姫路城天守に住む妖怪「おさかべ姫」、悲恋の物語「お夏清十郎」、物語の舞台は戦国時代の姫路城であるが、「播州皿屋敷」と「お菊」など、播磨を題材とした伝説なども、関連した位置づけができる。

## その他の関連文化財群

本市の多種多様な歴史文化遺産の特性から、関連文化財群は、先に例示した2例にとどまるものではない。イメージされる関連文化財群の概要をここに示すと共に、今後、これらを含めた関連文化財群の研究、検討を進めつつ、追加を行なっていく。

### 関連文化財群 テーマ みほとけの世界

概 要： 仏教の信仰とその歴史を示す文化財  
核となる文化財： 円教寺(大講堂ほか)、随願寺、亀山本徳寺、船場本徳寺、巡礼道、古代寺院跡(辻井廃寺等)、峰相山鶏足寺跡、極楽寺瓦経等  
関連するもの： 書写の里美術工芸館、ロープウェイ、門前町等  
区 域： 書写山円教寺周辺、増位山、石倉、香寺町須加院ほか

### 関連文化財群 テーマ 中世赤松氏の城跡と関連文化財群

概 要： 播磨守護である赤松氏が活躍した中世播磨を示す文化財  
核となる文化財： 置塩城跡、岡前遺跡、坂本城跡、番城山跡、松安寺墓石群等  
関連するもの： 町村(旧小塩町)、櫃蔵神社、塩田温泉  
区 域： 置塩城跡・坂本城跡周辺(夢前町宮置、書写)

### 関連文化財群 テーマ 天下の軍師黒田官兵衛

概 要： 秀吉の軍師として戦国時代を駆けた黒田官兵衛にゆかりの文化財  
核となる文化財： 御着城跡、国府山城跡、姫路城  
関連するもの： 黒田家廟所、黒田職隆廟所、古戦場跡  
区 域： 御国野町御着、飾磨区妻鹿ほか

### 関連文化財群 テーマ 新生国家づくり

概 要： 近代化を進めた先人たちの歴史を示す文化財  
核となる文化財： 生野銀山寮馬車道、姫路城周辺の軍事施設(旧第十師団長官舎等)、旧逓信省姫路電信局、相坂隧道、白鷺橋等  
関連するもの： 国鉄廃線跡、現存する工場、埋立地ほか  
区 域： 市域全域



### 第3節 歴史文化保存活用区域と保存活用計画

#### 1 歴文化保存活用区域

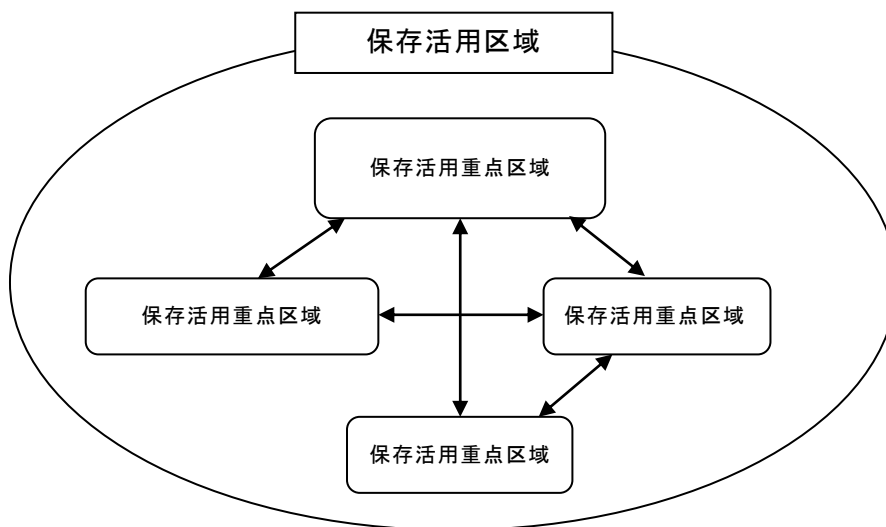
いくつかの「関連文化財群」や個々の文化遺産を中核として周辺を含めて保護と活用を進める区域を「歴史文化保存活用区域」として設定する。

「歴史文化保存活用区域」を設定することにより、次の通りの効果が見込まれる。

- 市民が、その区域に歴史文化遺産を構成する各々の文化財等があることを再度認識し、その地域に対する関心を高める
- 行政の各種計画に対して、歴史文化を生かした施策導入を円滑化
- 歴史文化遺産を減じる開発等については、計画の修正・再検討を促す

本市の特性としてテーマ設定した「大国播磨の中心」は、姫路城を中心とした地域をイメージしがちであるが、先に例示した関連文化財群のとおり、その広がりには現在の姫路市域を越え、播磨一円にも広がりを持つ。従って、周辺自治体の歴史文化基本構想との将来的な連携を展望しつつ、本構想では、「歴史文化保存活用区域」を市域全域とする。

ただ、文化遺産群として分類したとしても、群の分布に濃密があることもまた事実である。将来的な課題として「歴史文化保存活用区域」の中に、より文化財群が密に分布するまとまりとして「保存活用重点区域」を設定するとともに、相互のネットワーク化を検討する。



保存活用重点区域のイメージ

## 2 保存活用計画

### (1) 保存管理

歴史文化遺産の核となる指定等文化財は、文化財保護法・兵庫県及び姫路市の文化財保護条例等に基づく文化財保護制度により、緊急度、優先度等を勘案しながら、確実な保存措置を講ずる。新たな核となる指定等文化財の候補についても調査・研究を進める。建造物や史跡等の個別の構成資産については、資産毎に防犯・防災を含めた適切な保存管理を進める。また、関連文化財群としたものについては、包括的な保存管理のあり方について検討する。

- 全市的な文化財の保存管理方針の検討
- 各指定等文化財の保存管理計画策定の推進
- 関連文化財群の包括的保存管理計画策定の検討

### (2) 新たな歴史文化遺産保護の仕組みづくり

歴史文化遺産には、地域に残る伝承や周辺環境など、従来の文化財の範疇には含まれず、既存の制度として、カバーできていないものも多い。市民から一定の評価や支持を受けるものについて、新たな保護の仕組みを検討する。

検討にあたっては、国の文化的景観や国・県の登録文化財制度など、近年加わった新たな類型や制度、また、本市の景観形成として行なっている「都市景観重要建築物等」の指定や「景観遺産」※の登録制度、他都市の先行事例などを参考とする。

- 歴史文化遺産の新たな保護の仕組みづくりの研究
- 他の制度・他都市の先行事例の研究

※**景観遺産** 未来へ引き継ぎたい景観、地域の特色ある景観、市民の愛情と誇りを育む姫路らしい景観で市内の立ち入り自由な場所から見られる優れた景観を広く一般から募集し、姫路市が選定、登録する制度。

### (3) 関連文化財群の活用

関連文化財群については、それぞれ設定されたストーリーが市民にとって分かりやすく身近に感じられることが重要である。そのためハードやソフトの整備を進める。

構成する個々の文化財については、保存管理計画等に従い、その性質に応じて、復元や遺構表示などの整備を進めるとともに、ストーリーに沿ったパンフ

レットや地図を整備する。現地にはサインや説明板を効果的に設置する。説明板等については、携帯電話やスマートフォンなど個人の情報端末との親和性が高いことも重視し、デジタル情報との連携も研究する。さらに、より深い理解を促進するため、例えば江戸時代の藩主や武士、町人等の生活を実体験するなど、質の高い体験プログラムづくりを検討する。姫路城周辺で行われ



姫路城と薪能

ている様々な行事など文化財を活用したイベントは、現在も活発に行われている。

これらについて、関連文化財群のストーリーに組み込むことで新たな位置づけを行う。

関連文化財群を、旧街道などによって相互に繋ぐことにより、市域全体を見渡しながら歴史文化の理解や啓発を促進する。例えば、世界文化遺産や城郭など、他都市の歴史文化遺産との交流等をさらに促進するとともに、5風土記の関連など、新たなストーリーによる交流・連携についても検討する。

活動の拠点として、歴史的な建造物や既存の博物館等だけでなく、その他の公共施設も補完的な拠点として位置づけることを検討する。

都市計画や景観誘導など、まちづくりに関する計画やその他さまざまな計画・施策など、都市計画部門との連携を図りながら、保存と活用を進める。

これらの活動を通じて、都市としての風格の向上やストーリーに沿った新たな名物、名産が作り出され、ひいては次世代の歴史文化遺産ともなっていく。文化遺産の活用は文化観光を含めたまちづくり全体への効果が期待される。

- 個々の遺産の復元等による整備
- パンフレット、地図や情報端末と親縁性の高い効果的なサイン、説明板の整備
- 質の高い体験プログラムづくり
- 既存の行事を再度位置づける
- 個々の遺産の復元等による整備
- 関連文化財群相互のネットワーク化
- テーマに即した他都市との連携
- 活動拠点の検討
- 都市計画やまちづくり施策等、他の計画等との連携
- 新たな名物、名産による次世代歴史文化遺産の創出

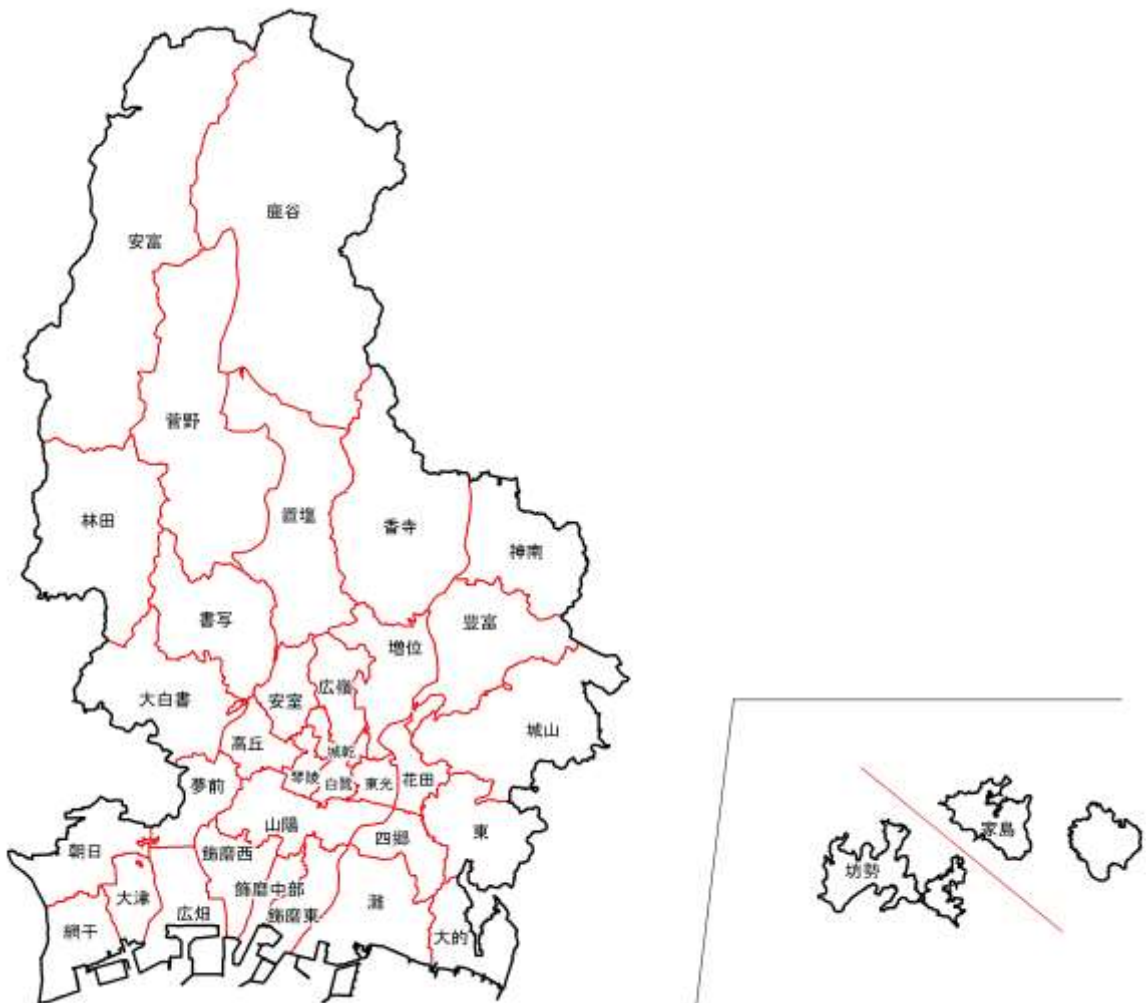
### 3 歴史文化保存活用区域と保存活用計画の今後の展開

本市においては、運動会や清掃活動、祭りなどの地域活動は、小学校区をおおむねの単位として自治会等が中心となって行われている。昭和45年に策定した総合基本計画において、このような本市の状況や人口比、面積などを勘案して、複数の小学校区をまとめた地域ブロックの必要性が示された。

これに基づいて、地域コミュニティー活動への支援等と地域の均衡ある発展を目指して、地域ブロック単位で市民センター、公民館、図書館等を整備してきた。

本市においては、「地域夢プラン」によって、このコミュニティーブロックの中学校区を基本として、地域の歴史、文化、自然、伝統、地場産業などの地域資源の現況マップを作成し、それにあわせて説明板の設置やウォークラリーや講演会等のソフト事業が行われている。

今後、これらの活動などを通じて、まだ明確にされていなかったり顕在化していなかったりする歴史文化遺産の再発見・再認識が行われることも期待される。これにより、本構想で例示的に示した関連文化財群以外に、多くの新たなテーマが掘り起こされ、多様な取り組みにつながるよう展開していく。



姫路市の中学校区

## 第4節 基本構想の推進

### 1 推進の基本方針

構想に示した歴史遺産のストーリーに基づく保存と活用を推進するためには、市民一人ひとりが歴史文化遺産の保存継承の担い手であるとともに、この地を訪れる方に対してのガイドでもあることを認識することが重要である。また、その担い手たちが活動する場も必要である。このため、本構想推進の基本方針を、担い手としての「人づくり」と活動の場としての「地域づくり」とする。

地域を構成する市民、民間企業等及び行政は、それぞれ以下のとおりの役割を認識して取り組むことが重要である。

#### 市民の役割

- 自ら地域の歴史文化に関心を持って歴史や文化に触れ、学ぶことにより、歴史文化遺産の理解促進に取り組む
- 歴史文化遺産の伝承と活用の主体となるよう参画・協働する

#### 民間企業等の役割

- 地域を担う構成員として、歴史文化遺産の活用や保全に積極的に取り組む
- 市民、行政等が行う歴史文化遺産の活用・保全に参画・協働する

#### 行政の役割

- 歴史文化遺産の活用や保全の目標と方向性を示す
- 歴史文化遺産に関する調査・研究と情報提供を行う
- 市民、民間企業等による歴史文化遺産の活用・保全活動を支援する
- 歴史文化遺産に対する意識の高揚を図る
- 関係する他機関や計画等との総合的な連携・活用を行う

## (1) 人づくり

### ① 担い手の育成

歴史文化遺産の活用については、主体となる担い手を育成することが重要である。兵庫県教育委員会の「ヘリテージマネージャー」制度等既存のアドバイザー等との連携を行いつつ、大学、NPO法人等の民間団体、老人大学や生涯学習大学の学生や卒業生、また、平成23年度から開始した「姫路城大学」の入学者、地域の歴史愛好者や学芸員資格等を持った市民等、幅広い層との連携・協働により、裾野の広い人材育成を進める。一定のレベルとなった場合は、資格の付与等を検討するとともに、団体としての活動のための組織化等及び組織化後についても同様な支援制度を検討する。

新たな担い手をつくるとともに、既に担い手となった人たちにも、より高度な知識を習得し、互いの情報を交換することによって研鑽するため、意見交換や研修などを定期的実施し、研修等のレベルに対応して資格等のランクを設定することも検討する。

### ② 学舎づくり

歴史文化遺産の将来は、その保存継承と活用の動きを子どもたちが如何に受け継いでいくかにかかっている。そのためには、多感な時期に歴史文化遺産を肌で感じる事が、極めて重要である。

歴史文化遺産への理解と愛着を深めるため、現在行われている書写山円教寺での林間学舎やトライやる・ウィークでの取り組みなど、文化財に直接触れる体験を重視した学習等を進める。保育園・幼稚園や小・中・高等学校と連携を図りつつ、年齢にあった新たな取り組みを研究する。

## (2) 地域づくり

### ① 地域おこし

これまで、観光の分野や地域の特産品開発などでさまざまな事業が行われてきた。これらを歴史文化遺産の保存と活用の取り組みの中で、再度位置づけを行うことによって、歴史文化遺産の深い理解につながる文化観光の推進や、歴史文化遺産の構成要素ともなっていた特産品の再発掘、新たな特産品等の開発によるひめじブランドの開発などが期待できる。また、レストランとしての登録文化財建造物の活用など、これまでの取り組みとも相まって、歴史文化遺産を活用した「生きた博物館」として、大きな広がりが期待される。

### ② まちづくり

歴史文化遺産を活用したまちづくりの取り組みは、まちづくり市民団体をはじめ、学識経験者、建築士、ヘリテージマネージャー等が主体となってまちづくり活動が実践され、行政は、各種団体を支援してきた。

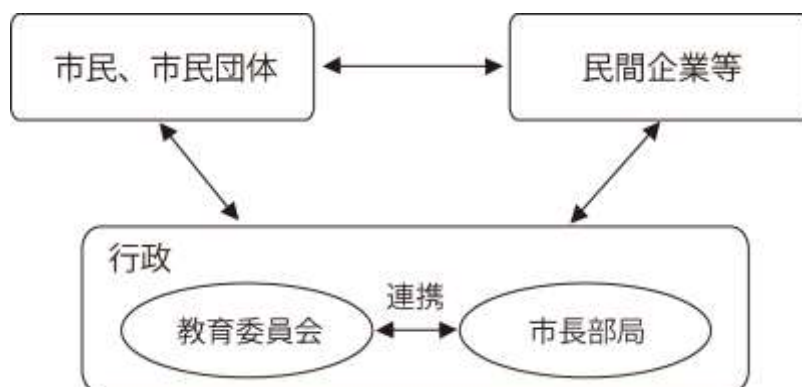
本市の特徴として、世界遺産姫路城のバッファゾーン（緩衝地帯）において、NPO法人等が主体となった活発なまちづくり活動が行われており、今後は各種団体からの情報発信に加えて相互の情報交換の場などネットワークの形成が期待されている。

行政は、まちづくりに関わる関連部局が連携し、歴史文化遺産を活用したまちづくりを支援していくことで、その仕組みが構築されれば全市的なまちづくりの展開につながっていく。そのため、地域における歴史的風致維持向上計画の策定に向けて、都市計画、景観、農政、文化財行政等の分野がそれぞれ独自の取り組みを強化するとともに、緊密な連携ができる体制の構築を図っていく。

また、平成23年3月11日の東日本大震災による惨禍は、平成7年1月17日の阪神淡路大震災の経験からより安全安心なまちづくりを目指してきた本市にとっても、大きな衝撃となった。歴史文化遺産には、先人たちがこれまで経験した多くの災害とそれを力強く乗り越えた歴史も刻まれている。災害の記憶を今に伝える文化遺産の評価と顕彰は、山崎断層帯地震、東海・東南海・南海地震など、今後予想される地震、津波を見据えた防災のまちづくりへの活用も期待できる。

## 2 推進の体制

基本方針で示したとおり、市民、民間企業等、行政が密接に連携して構想を推進することが求められる。



### 3 構想の見直し

歴史文化遺産は、時代の要請に従い、常に変化・変容していくものである。このため、継続した調査・研究を進める。

本市の上位計画である総合計画の計画期間が平成32年度までの12年間としていることから、これを構想見直しの一つの目安とし、都市計画、景観等の関連する本市の計画や、文化財に関する国・県等の動向を総合的に勘案して、適切な時期に見直しを検討する。



# 資 料



## 1 策定までの経緯

### 平成22年度

#### 【文化財総合的把握調査の実施】

調査は、雇用対策・地域資源活用事業として実施し、作業を(株)パスコに委託して実施した

### 平成23年度

9月23日 第1回姫路市歴史文化基本構想策定研究会開催

#### 【議事】

- ・歴史文化基本構想について
- ・平成22年度総合的悉皆調査結果について

12月20日 第2回姫路市歴史文化基本構想策定研究会開催

#### 【議事】

- ・第1回研究会での検討・指摘事項とその対応状況について
- ・「歴史遺産の活用」報告について
- ・特別史跡姫路城跡整備基本計画について
- ・姫路市歴史文化基本構想（素案）について

### 平成24年

3月27日 第3回姫路市歴史文化基本構想策定研究会開催

#### 【議事】

- ・パブリックコメント（市民意見）の結果について
- ・姫路市歴史文化基本構想（案）について

## 2 策定研究会の構成

### (1) 委員名簿

氏名	役職等	分野
(会長) 田中 哲雄	日本城郭研究センター 名誉館長	造園
(副会長) 八木 雅夫	国立明石工業高等専門学校 教授	保存修景計画
増淵 徹	京都橘大学 教授	古代史
宇高 雄志	兵庫県立大学 准教授	都市計画
牧野 博明	財団法人 日本交通公社 企画課長・主任研究員	観光
長谷川 任武	姫路市議会議員（文教委員会 委員長）	姫路市議会
中山 栄一郎	特定非営利活動法人 歴史と出会えるまちづくり船場城西の会理事	まちづくり推進活動
横治 久美男	市民代表	公募
村上 裕道	兵庫県教育委員会 文化財室長	行政
及川 理	姫路市 都市局長兼技術審議監	行政
林 尚秀	姫路市教育委員会 教育次長	行政

観光行政に関するオブザーバーとして、国土交通省近畿運輸局企画観光部観光地域振興課、文化財行政に関するオブザーバーとして、兵庫県教育委員会文化財室からそれぞれ出席頂いた。

### (2) 事務局

研究会の事務局は、教育委員会生涯学習部文化財課において行った。

また、庁内関係課として、都市局まちづくり推進部都市計画課、まちづくり指導課、農政経済局城周辺整備室、観光交流推進室、教育委員会生涯学習部埋蔵文化財センターの協力を得た。

### 3 策定研究会の要綱

姫路市歴史文化基本構想策定研究会要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、姫路市内に所在する文化財をその周辺環境を含め総合的にとらえ、積極的な保存及び活用のあり方を示す基本構想を策定するに当たり、学識経験者等から広く提言を求めるための姫路市歴史文化基本構想策定研究会（以下「研究会」という。）について必要な事項を定めるものとする。

(事業)

第2条 研究会は、前条の目的を達成するため、次の事項について調査研究を行う。

- (1) 歴史文化基本構想の策定に関すること
- (2) 市内に所在する文化財の調査に関すること
- (3) その他研究会の目的達成に必要なこと

(組織)

第3条 研究会は、委員11名以内をもって構成する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育長が指名するものとする。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 姫路市議会議員
- (3) まちづくりの推進を図る活動を行う特定非営利活動法人で姫路市に主たる事務所を置くもの
- (4) 公募に応募した市民
- (5) その他教育長が適当と認める者

(会長等)

第4条 研究会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 会長は、会議を主宰し、研究会を代表する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。

(会議)

第5条 研究会は、会長が招集する。

- 2 会長は、会議の議長となり議事を整理する。
- 3 会長は、第2条に定める事項に関する調査研究を行うため、必要に応じ関係者に対して、会議への出席を求め、資料の提出、説明、その他必要な協力を求めることができる。

(報告)

第6条 会長は、調査研究の成果を教育長へ報告するものとする。

(庶務)

第7条 研究会の庶務は、姫路市教育委員会生涯学習部文化財課において行う。

(補則)

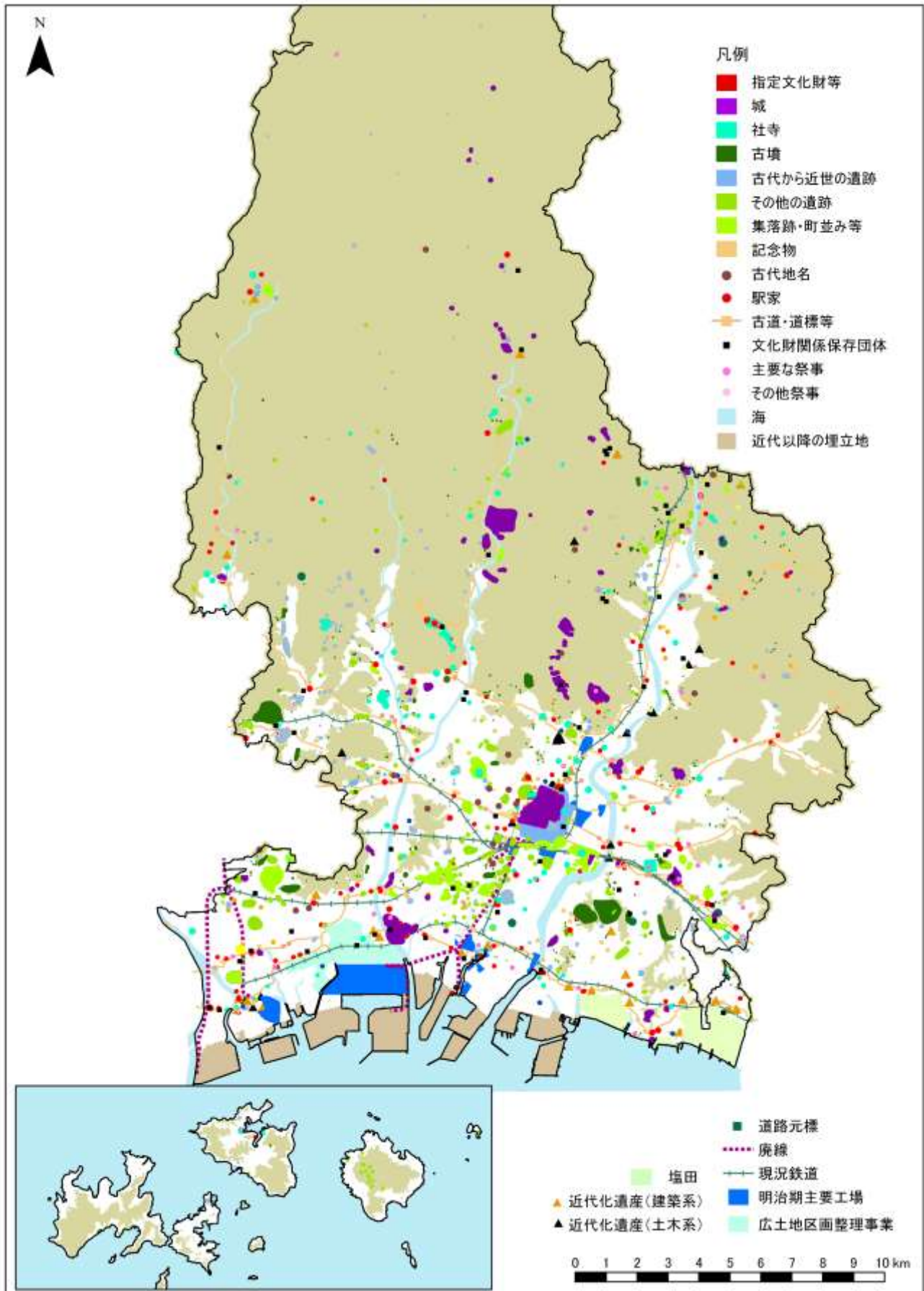
第8条 この要綱に定めるもののほか、研究会の運営に関して必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

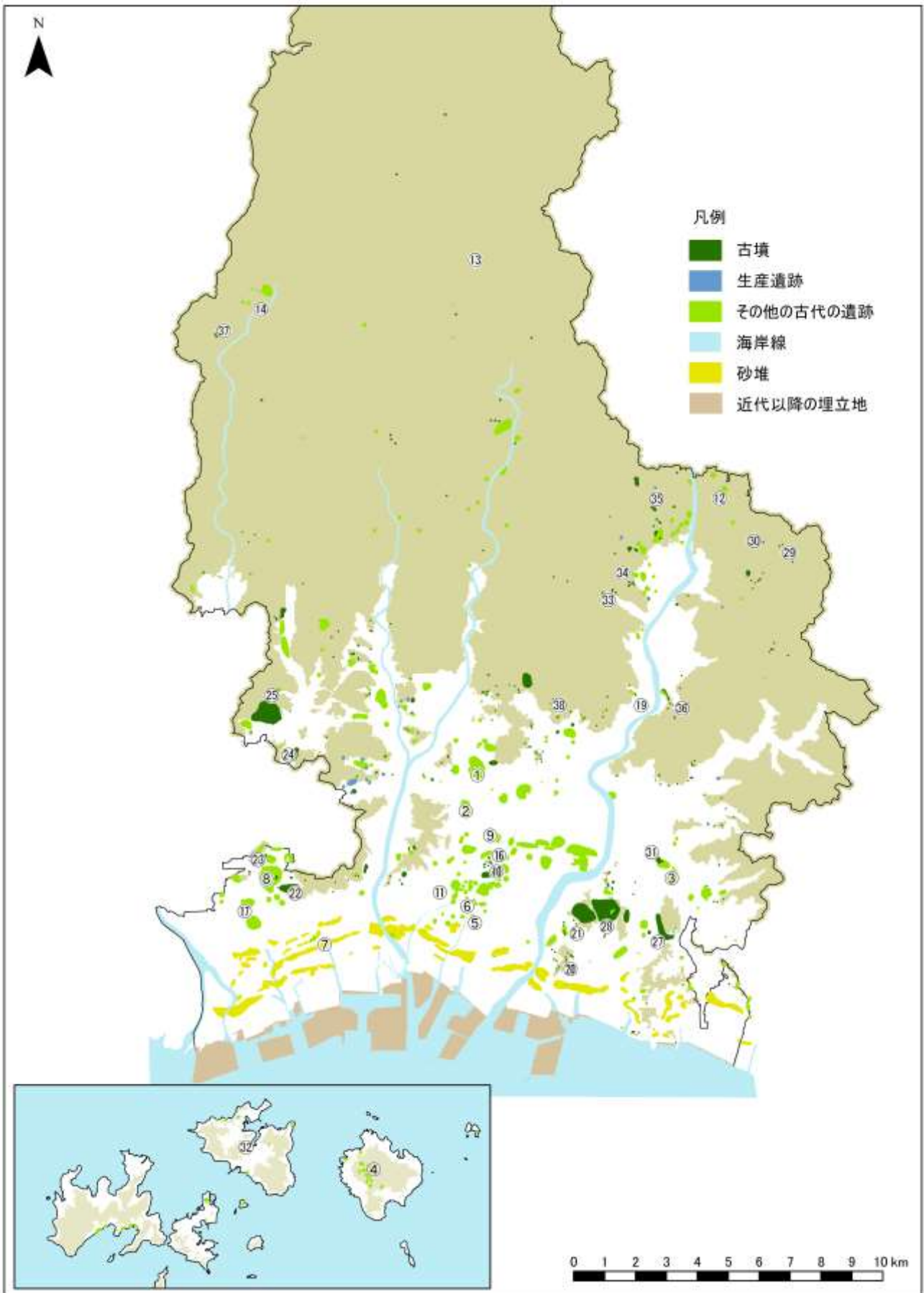
- 1 この要綱は、平成23年8月23日から施行する。
- 2 この要綱は、第6条の規定による報告がされたときにその効力を失う。
- 3 最初に招集される研究会の会議は、第5条第1項の規定にかかわらず教育長が招集する。



#### 4 歴史文化遺産の総合的把握調査データ



特性図 (全データ合成)



特性図 (原始・古代)



集落跡等

	名称	所在
1	辻井遺跡(縄・弥)	辻井五丁目
2	今宿丁田遺跡(縄・弥)	東今宿一丁目～四丁目
3	国分寺台地遺跡(旧・弥・古)	御国野町国分寺
4	大山神社遺跡(旧・弥)	家島町宮
5	大鳥遺跡(縄)	飯田
6	権現遺跡(縄)	中地南町
7	辺作遺跡(縄)	大津区天満
8	丁・柳ヶ瀬遺跡(縄・弥)	勝原区丁
9	千代田遺跡(弥)	千代田町
10	小山遺跡(弥・古)	延末
11	東川遺跡(弥・古)	玉手
12	八幡遺跡(弥)	船津町
13	神種銅鐸出土地(弥)	夢前町神種
14	谷山遺跡(弥)	安富町長野
15	市之郷遺跡(弥・古)	市之郷
16	手柄山北丘・南丘遺跡(弥・古)	西延末
17	和久遺跡(弥・古)	網干区和久
18	畑田遺跡(弥・古)	飯田

古墳

	名称	所在
19	権現山古墳	砥堀
20	御旅山古墳群	飾磨区妻鹿
21	兼田丸山古墳・古墳群	兼田
22	瓢塚古墳	勝原区丁
23	丁古墳群	勝原区 丁・勝山町
24	太市中古墳群	太市中
25	西脇古墳群	西脇
26	宮山古墳	四郷町坂元
27	見野長塚古墳	四郷町見野
28	見野古墳群	四郷町見野
29	清盛塚古墳	山田町北山田
30	諏訪の岩穴	山田町多田
31	壇場山古墳	御国野町国分寺
32	チンカンドー古墳	家島町宮
33	宮の前古墳	香寺町須加院
34	法花堂2号墳	香寺町田野字法花堂
35	片山古墳	香寺町土師
36	横山古墳群	豊富町御蔭
37	塩野六角古墳	安富町塩野
38	御興塚古墳	北平野奥垣内

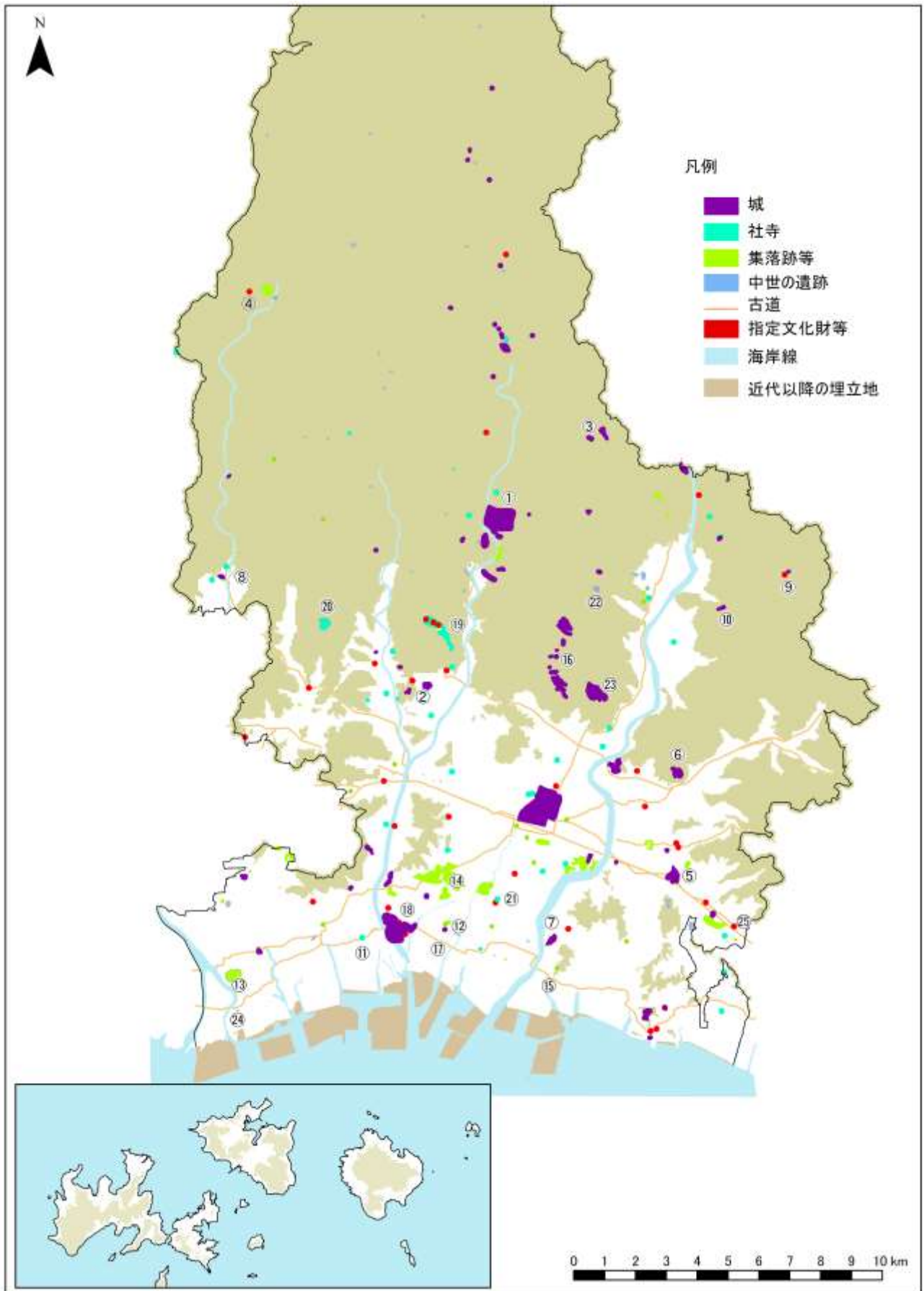
特性図(原始・古代) データ



特性図 (古代)

	名称	所在
1	播磨国府跡(本町遺跡)	本町
2	辻井廃寺	辻井一～五丁目
3	市之郷廃寺	市之郷
4	下太田廃寺	勝原区下太田
5	大市(邑智)駅家跡(向山遺跡)	太市中
6	峰相山窯跡群	青山～打越
7	見野廃寺	四郷町見野
8	山田廃寺	林田町山田
9	多田廃寺	山田町多田
10	播磨国分寺跡	御国野町国分寺
11	播磨国分尼寺跡	御国野町国分寺
12	溝口廃寺	香寺町溝口
13	佐突駅家跡	別所町北宿
14	志ノ坪遺跡	別所町別所
15	津田の細江(都多)	
16	漢部の里	
17	菅生の里	
18	麻跡の里	
19	英賀の里	
20	伊和の里	
21	賀野の里	
22	韓室の里	
23	巨智の里	
24	安相の里	
25	枚野の里	
26	大野の里	
27	少川の里	
28	英保の里	
29	美濃の里	
30	因達の里	
31	安師の里	
32	林田の里	
33	邑智の里	
34	大家の里	
35	大田の里	
36	石海の里	
37	家島	
38	多駝の里	
39	蔭山の里	
40	的部の里	
41	草上の村	
42	長畝の村	
43	新羅訓の村	
44	高瀬の村	
45	豊国の村	
46	伊勢野	
47	磨布理村	

特性図(古代) データ



特性図（中世）

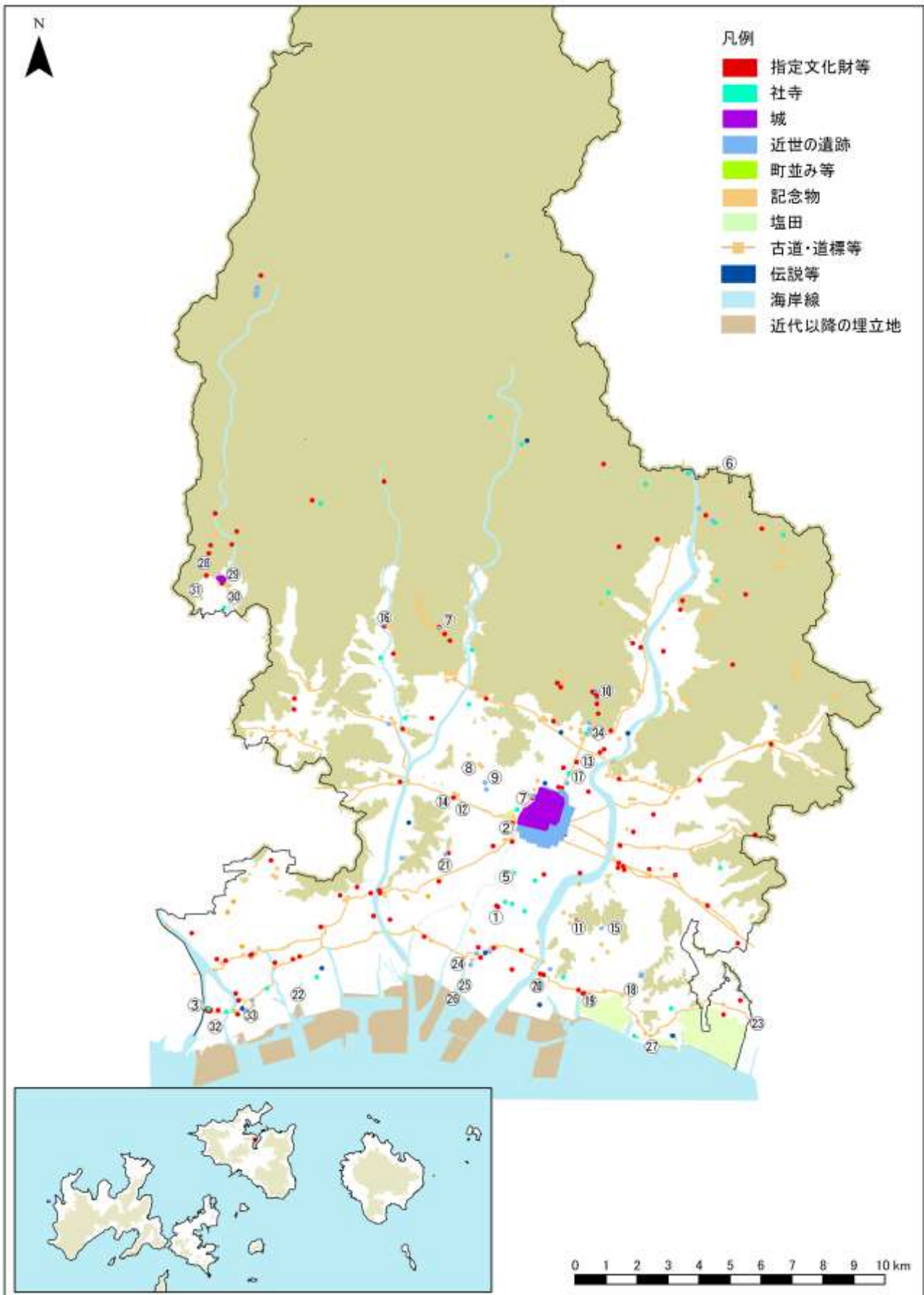
## 城跡

	名称	所在
1	置塩城跡	夢前町宮置・糸田
2	坂本城跡	書写
3	恒屋城跡	香寺町恒屋
4	三森城跡	安富町三森
5	御着城跡	御国野町御着
6	庄山城跡	飾東町庄・豊国
7	国府山城跡	飾磨区妻鹿
8	松山城跡	林田町山田
9	南山田城跡	山田町南山田
10	太尾城跡	豊富町豊富
11	英賀城跡	飾磨区英賀宮町
12	加茂遺跡	飾磨区加茂
13	魚吹津構跡	網干区宮内
14	町坪構居跡	町坪
15	黒田職隆廟所	飾磨区妻鹿

## 寺社

16	広峯神社	広嶺山
17	津田天満神社	飾磨区構
18	英賀神社	飾磨区 英賀宮町
19	円教寺	書写
20	鶏足寺跡	打越
21	亀山本徳寺	亀山
22	極楽寺瓦経	香寺町須加院
23	随願寺	増位山
24	大覚寺	網干区興浜
25	六騎塚	別所町北宿

## 特性図（中世）データ

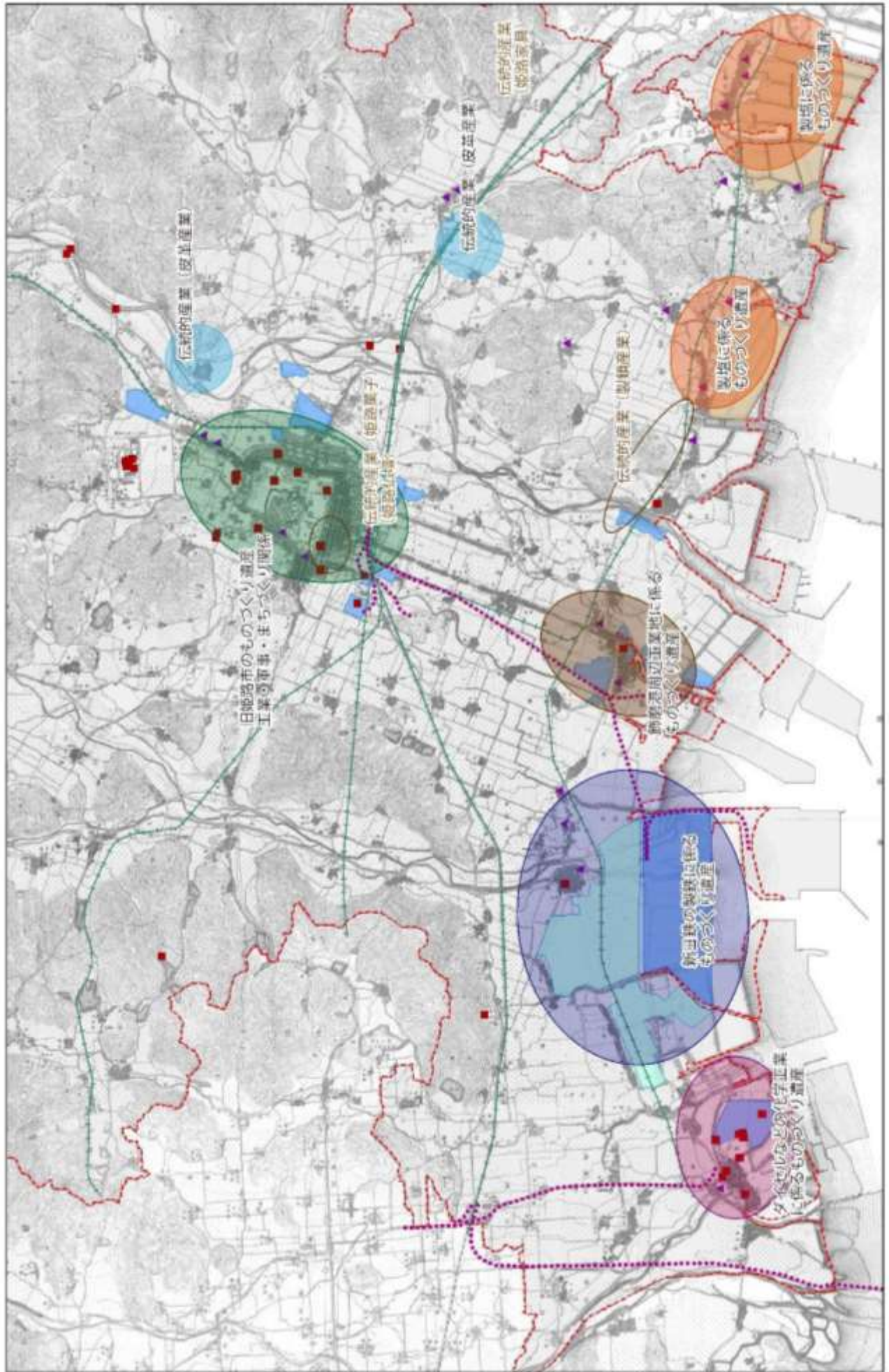


特性図（近世）

	名称	所在
1	亀山本徳寺	亀山
2	船場本徳寺	地内町
3	龍門寺	網干区浜田
4	三左衛門堀	豊沢町
5	船場川(船場川改修碑)	
6	人参役所	船津町
7	本多家廟所	円教寺境内
8	松平明矩墓所	景福寺山
9	酒井家墓所	(景福寺前町)
10	榊原忠次墓所・榊原政邦墓所	随願寺境内
11	河合家墓所	兼田
12	男山天満宮	山野井町
13	慶雲寺(お夏・清十郎の比翼塚)	野里慶雲寺前町
14	東山焼窯跡	
15	仁寿山校跡	北原・奥山
16	固寧倉	刀出
17		野里
18		東山
19		白浜町
20		飾磨区妻鹿
21	手柄山(手柄山鍛冶、手柄山氏繁)	
22	新田(新田関連 大手囲堤)	大津区勘町
23	塩田	
24	飾万津	飾磨区須加
25	湛保	飾磨区須加
26	飾磨砲台跡(姫路藩飾磨砲台跡)	飾磨区須加
27	福泊砲台跡	的形町福泊
28	陣屋(林田陣屋跡)	(林田町林田)
29	敬業館(敬業館講堂)	(林田町林田)
30	三木家住宅	林田町中構
31	西池(鴨池)(藤井市右衛門碑)	林田町上構
32	網干陣屋(丸亀藩陣屋跡)	網干区興浜
33	境橋	網干区新在家
34	風羅堂跡・小菘塚	増位山随願寺白国

特性図(近世) データ

特性図 (近代)





■ 指定文化財

合計 283 件(国宝 5, 国指定 41, 国選定 1, 国選択 1, 国登録 41, 県指定 71, 市指定 123)および世界遺産 1 H22 年 4 月 1 日

主体	種別	名称	時代	指定等年月日	所有者(管理者)	所在地	備考
世界遺産	文化遺産	姫路城	桃山	H5年12月11日	文部科学省(姫路市)	本町68	慶長6年(1601)～慶長14年(1609)
国宝	建造物	姫路城大天守	桃山	S26年6月9日	文部科学省(姫路市)	本町68	
国宝	建造物	姫路城西小天守	桃山	S26年6月9日	文部科学省(姫路市)	本町68	
国宝	建造物	姫路城乾小天守	桃山	S26年6月9日	文部科学省(姫路市)	本町68	
国宝	建造物	姫路城東小天守	桃山	S26年6月9日	文部科学省(姫路市)	本町68	
国宝	建造物	姫路城イ・ロ・ハ・ニの渡櫓 附台所1棟	桃山	S26年6月9日	文部科学省(姫路市)	本町68	
特別史跡	史跡	姫路城跡 特別史跡追加 H24年1月24日	桃山	S31年11月26日	財務省、文部科学省、姫路市ほか	本町68	
国指定	建造物	姫路城	桃山	S25年8月29日	文部科学省(姫路市)	本町68	国宝をのぞく
国指定	建造物	円教寺大講堂	室町	S25年8月29日	円教寺	書写2968	文明年間(1469～87)
国指定	建造物	円教寺鐘楼	鎌倉	S25年8月29日	円教寺	書写2968	14世紀前半
国指定	建造物	円教寺金剛堂 附厨子1基	室町	S25年8月29日	円教寺	書写2968	天文13年(1544)
国指定	建造物	円教寺食堂	室町	S30年6月22日	円教寺	書写2968	暦心1年(1338)と伝わる
国指定	建造物	円教寺常行堂 附棟札1	室町	S30年6月22日	円教寺	書写2968	享徳2年(1453)
国指定	建造物	円教寺護法堂 (乙天社・若天社) 附厨子2基・棟札4枚	室町	S30年6月22日	円教寺	書写2968	永禄2年(1559)
国指定	建造物	円教寺寿量院	江戸	S31年6月28日	円教寺	書写2968	貞享5年(1688)
国指定	建造物	広峯神社宝篋印塔	室町	S28年8月29日	広峯神社	広嶺山52	
国指定	建造物	広峯神社本殿 附宮殿3基	室町	S35年6月9日	広峯神社	広嶺山52	文安1年(1444)
国指定	建造物	広峯神社拝殿	桃山	S35年6月9日	広峯神社	広嶺山52	
国指定	建造物	弥勒寺本堂	室町	大正12年3月27日	弥勒寺	夢前町寺1051	康暦2年(1380)
国指定	建造物	古井家住宅	室町	S42年6月15日	姫路市	安富町皆河233-1	室町末期
国指定	建造物	随願寺 本堂(附 厨子) 開山堂(附 厨子) 経堂(附 石碑) 鐘楼 唐門	江戸	H21年6月30日	随願寺	白国	本堂(元禄5年(1692)) 開山堂(正応3年(1654)) 経堂(宝暦13年(1763)) 鐘楼(享保3年(1718)) 唐門(江戸中期ごろ)
国指定	絵画	絹本着色釈迦三尊像	鎌倉	S25年8月29日	大覚寺	網干区興浜151	鎌倉末期
国指定	絵画	絹本着色十六羅漢像	鎌倉	S25年8月29日	大覚寺	網干区興浜151	
国指定	絵画	紙本着色北野天神縁起	鎌倉	S34年12月18日	津田天満神社(奈良国立博物館)	飾磨区構912	永仁6年(1298)
国指定	絵画	絹本着色仏涅槃図	鎌倉	H9年6月30日	歴史博物館	本町68	鎌倉前半
国指定	絵画	絹本着色迦諾伐蹉尊者像 絹本着色注茶半託迦尊者像	南北朝	大正6年4月5日	光久寺	安富町安志481	
国指定	彫刻	木造不動明王立像	平安	大正5年5月24日	光久寺	安富町安志481	平安後期
国指定	彫刻	木造毘沙門天立像	平安	S25年8月29日	随願寺	白国5	藤原時代初期
国指定	彫刻	木造毘沙門天立像	平安	S25年8月29日	岩屋寺	豊富町神谷3031	
国指定	彫刻	木造釈迦如来及両脇侍像	平安	S25年8月29日	円教寺	書写2968	寛和2年(986)
国指定	彫刻	木造四天王立像	平安	S25年8月29日	円教寺	書写2968	藤原時代初期
国指定	彫刻	木造阿彌陀如来坐像	平安	H7年6月15日	円教寺	書写2968	
国指定	彫刻	木造弥勒仏及両脇侍像	平安	H10年6月30日	弥勒寺	夢前町寺1051	平安中期
国指定	彫刻	木造虚空坐像(開山堂安置)	鎌倉	H21年7月10日	円教寺	書写2968	鎌倉
国指定	工芸品	太刀 附韋巻柄及中心断片	鎌倉	S25年8月29日	射楯兵主神社(東京国立博物館)	総社本町190	鎌倉中期
国指定	工芸品	太刀 銘「包永」	鎌倉	S25年8月29日	姫路神社(東京国立博物館)	本町68	

主体	種別	名称	時代	指定等年月日	所有者(管理者)	所在地	備考
国指定	工芸品	梵鐘	鎌倉	S39年1月28日	英賀神社	飾磨区英賀宮町2丁目70	正中2年(1325)
国指定	書跡	紙本墨書後深草天皇宸翰消息	鎌倉	S25年8月29日	片山日出男(京都国立博物館)	飾磨区妻鹿1392	
国指定	考古資料	兵庫県宮山古墳出土品	古墳	H10年6月30日	姫路市(姫路市埋蔵文化財センター)	坂元414番1	
国指定	考古資料	播磨極楽寺経塚出土品 (1) 土製阿彌陀如来坐像 (2) 土製地藏菩薩坐像 (3) 土製五輪塔 (4) 瓦経残片 (5) 土製六器	平安	S25年8月29日	常福寺	香寺町須加院420	
国指定	史跡	壇場山古墳 第1・第2・第3古墳	古墳	S25年8月29日	国、姫路市、国分寺自治会	御国野町国分寺	
国指定	史跡	円教寺境内	平安	S25年8月29日	円教寺	書写2968	康保3年(966)開基
国指定	史跡	播磨国分寺跡 国指定追加 S60年12月12日	奈良	S25年8月29日	姫路市、個人	御国野町国分寺	8世紀中頃
国指定	史跡	瓢塚古墳	古墳	S53年3月24日	姫路市	勝原区丁	
国指定	史跡	赤松氏城跡 置塩城跡	室町	H10年1月30日	姫路市、置塩財産区ほか	夢前町宮置	
国指定	歴史資料	榭 天正十八年正月日増田長盛・浅野長政加判 附木製手提箱(寛政七年四月斎藤清次右衛門墨書)一口	桃山	S60年6月6日	芥田晴夫	野里寺町24	天正18年(1590)
国指定	有形民俗	播磨総社三ツ山ひな型		S35年6月9日	射楯兵主神社	総社本町190	
県指定	建造物	円教寺奥院護法堂拜殿	桃山	S38年4月24日	円教寺	書写2968	天正17年(1589)
県指定	建造物	円教寺塔頭十妙院	江戸	S40年3月16日	円教寺	書写2968	
県指定	建造物	円教寺薬師堂	鎌倉	S40年3月16日	円教寺	書写2968	元応1年(1319)と推測
県指定	建造物	円教寺開山堂	江戸	S43年3月29日	円教寺	書写2968	寛文11年(1671)
県指定	建造物	円教寺仁王門	江戸	S43年3月29日	円教寺	書写2968	江戸初期
県指定	建造物	本多家廟屋	江戸	S45年3月30日	円教寺	書写2968	寛永3年(1626)～宝永1年(1704)
県指定	建造物	石造笠塔婆	鎌倉	S36年8月23日	円教寺	書写2968	延慶4年(1311)
県指定	建造物	石造五輪塔	鎌倉	S44年3月25日	仏心寺(小林自治会)	別所町小林279	
県指定	建造物	石造宝篋印塔	室町	S45年3月30日	国分寺	御国野町国分寺121	
県指定	建造物	魚吹八幡神社摂社敷島神社本殿	江戸	S53年3月17日	魚吹八幡神社	網干区宮内193	江戸初期
県指定	建造物	魚吹八幡神社楼門 附修理棟札2枚	江戸	S54年3月20日	魚吹八幡神社	網干区宮内193	
県指定	建造物	石造鳥居	江戸	S59年3月28日	射楯兵主神社	総社本町190	慶安5年(1652)
県指定	建造物	本徳寺大広間	江戸	S63年3月22日	本徳寺	亀山324	17世紀前半
県指定	建造物	本徳寺経堂	江戸	S63年3月22日	本徳寺	亀山324	享保11年(1726)
県指定	建造物	本徳寺本堂	江戸	H2年3月20日	本徳寺	亀山324	
県指定	建造物	本徳寺庫裏	江戸	H3年3月30日	本徳寺	亀山324	延享4年(1747)
県指定	建造物	三木家住宅 附古絵図6枚	江戸	H2年3月20日	姫路市	林田町中構74	17世紀後半
県指定	建造物	本徳寺大門 附棟札2枚	江戸	H15年3月25日	本徳寺	亀山324	宝永6年(1709)
県指定	建造物	八葉寺 奥院厨子(一間春日厨子)	室町	S47年3月24日	八葉寺	香寺町相坂1068	大永5年(1525)
県指定	建造物	石造無縁塔	室町	S55年3月25日	臨濟寺	夢前町新庄1468-4	室町初期
県指定	建造物	弥勒寺開山堂厨子	桃山	S56年3月24日	弥勒寺	夢前町寺1051	慶長16年(1611)
県指定	建造物	補陀落寺観音堂	江戸	S56年3月24日	補陀落寺	夢前町筋野字水生山2022	享保2年(1718)
県指定	建造物	石造無縁塔	室町	S57年3月26日	報恩寺	夢前町古知之庄法持9	永和4年(1378)
県指定	建造物	今念寺層塔 五重石塔	鎌倉	S41年3月22日	今念寺	安富町名坂204	弘安3年(1280)

主体	種別	名称	時代	指定等年月日	所有者(管理者)	所在地	備考
県指定	絵画	天神縁起絵巻(明徳本)	室町	S35年5月12日	英賀神社	飾磨区英賀宮町2丁目70	上巻 明徳2年(1391) 下巻 応永2年(1395)
県指定	絵画	天神縁起絵巻(永正本)	室町	S35年5月12日	英賀神社	飾磨区英賀宮町2丁目70	永正4年(1507)
県指定	絵画	絹本着色当麻曼荼羅図	鎌倉	S63年3月22日	大覚寺	網干区興浜151	鎌倉末期
県指定	絵画	絹本着色僧形八幡神像	鎌倉	H1年3月31日	八正寺	白浜町甲398	鎌倉末期
県指定	絵画	不動明王二童子像	鎌倉	H14年4月9日	歴史博物館	本町68	推定
県指定	彫刻	千手観音立像	平安	S37年7月16日	龍門寺	網干区浜田812	藤原時代終期
県指定	彫刻	釈迦如来坐像	平安	S37年7月16日	龍門寺	網干区浜田812	
県指定	彫刻	木造聖観音立像	平安	S37年7月16日	龍門寺	網干区浜田812	藤原時代初期
県指定	彫刻	木造薬師如来坐像	平安	S44年3月25日	随願寺	白国5	
県指定	彫刻	木造金剛薩埵坐像	南北朝	S44年3月25日	円教寺	書写2968	延文4年(1359)
県指定	彫刻	木造多聞天立像	平安	S60年3月26日	歴史博物館	本町68	
県指定	彫刻	鬼面	鎌倉	H1年3月31日	八正寺	白浜町甲398	文保2年(1318)
県指定	彫刻	薬師如来像	平安	S39年3月9日	報恩寺	夢前町古知之庄30	
県指定	彫刻	木造彩色狛犬	鎌倉	H4年3月24日	姫路市(歴博に寄託中)	安田4丁目1	元亨4年(1324)
県指定	彫刻	性空上人坐像	平安	H20年3月21日	円教寺	書写2968	11世紀初期
県指定	彫刻	如意輪観音坐像	鎌倉	H20年3月21日	円教寺	書写2968	延応1年(1239)
県指定	工芸品	銅鐘	鎌倉	S39年3月9日	円教寺	書写2968	鎌倉後期
県指定	工芸品	打刀拵一振 附刀身一口	桃山	S51年3月23日	松原八幡神社(美術館)	白浜町甲396	
県指定	工芸品	孔雀文髷	鎌倉	H13年3月30日	歴史博物館	本町68	弘安4年(1281)
県指定	工芸品	素文髷	鎌倉	S48年3月9日	八葉寺	香寺町相坂1068	建長7年(1255)
県指定	書跡	廣峯神社文書		S40年3月16日	広峯神社	広嶺山52	鎌倉～江戸
県指定	書跡	肥塚家古文書		S40年3月16日	肥塚長男(歴史博物館)	広嶺山33	鎌倉～江戸
県指定	考古資料	板碑	南北朝	S55年3月25日	正明寺	五軒邸2丁目88	貞和2年(1346)
県指定	考古資料	法花堂2号墳出土品 小札 鋳留衝角付冑 他	古墳	S62年3月24日	姫路市	四郷町坂元414-1	5世紀中ごろ
県指定	歴史資料	播磨国総社三ツ山祭礼図屏風	江戸	H1年3月31日	歴史博物館	本町68	
県指定	史跡	御興塚古墳	古墳	S36年8月23日	北平野区	北平野町1109	
県指定	史跡	諏訪の岩穴	古墳	S48年3月9日	西多田区	山田町多田920-1	
県指定	史跡	横山古墳群1, 2号墳	古墳	S48年3月9日	藪田区	豊富町御蔭1926	
県指定	史跡	下太田廃寺塔跡	白鳳	S37年7月16日	個人	勝原区下太田93	7世紀後半
県指定	史跡	見野長塚古墳	古墳	H7年3月28日	個人	四郷町見野281他	6世紀
県指定	史跡	宮山古墳	古墳	S48年3月9日	春日神社	四郷町坂元406	
県指定	史跡	片山古墳	古墳	S48年3月9日	土師自治会	香寺町土師366	6世紀半ば
県指定	史跡	溝口廃寺跡	奈良	S49年3月22日	円覚寺	香寺町溝口字聖徳山576	奈良時代前期(白鳳期)
県指定	史跡	塩野六角古墳(付)塩野古墳	古墳	H7年3月28日	塩野自治会	安富町塩野664-3	
県指定	名勝	鹿ヶ壺		S44年3月25日	個人	安富町関	
県指定	天然記念物	植木野天神のムクノキ		S49年3月22日	植木野天満神社	安富町植木野330	
県指定	天然記念物	水尾神社の大スギ		S52年3月29日	水尾神社	安富町関554	

主体	種別	名称	時代	指定等年月日	所有者(管理者)	所在地	備考
県指定	有形民俗	稲岡神社お蔭参り図絵馬 附延宝三年神馬図絵馬1面・元禄十二年神馬図絵馬1面	江戸	S60年3月26日	稲岡神社(歴史博物館)	本町68	文政13年(1830)
県指定	有形民俗	広峯神社宝珠図絵馬	室町	H2年3月20日	広峯神社(歴史博物館)	広嶺山52	
県指定	有形民俗	淡路人形かしら		S61年3月25日	歴史博物館	本町68	江戸～S
県指定	有形民俗	菓王子神社ええじゃないか 図絵馬		S62年3月24日	歴史博物館	本町68	
県指定	無形民俗	播磨国総社「三ツ山」神事 指定追加名称変更 S63 年3月22日 播磨国総社「一ツ山」・ 「三ツ山」神事		S49年3月22日	射楯兵主神社	総社本町190	
県指定	無形民俗	大塩天満宮獅子舞		H1年3月31日	大塩天満宮獅子舞 保存会	大塩町汐咲 1-50	
県指定	無形民俗	松原八幡神社秋季祭風流		H18年3月17日	姫路「灘のけんか祭り」 伝承会	白浜町甲396	
県指定	無形民俗	魚吹八幡神社秋季祭風流		H19年3月9日	魚吹八幡神社氏子 総代会	網干区宮内 193-1	
県指定	無形民俗	真浦の獅子舞		H13年3月30日	真浦自治会	家島町真浦 571	
県指定	無形民俗	犬飼獅子舞		S52年3月29日	犬飼獅子舞保存会	香寺町犬飼 66	

主体	種別	名称	時代	指定等年月日	所有者(管理者)	所在地	備考
市指定	建造物	廣峯神社表門	江戸	S42年2月23日	広峯神社	広嶺山52	元禄10年(1697)
市指定	建造物	松原八幡神社楼門	江戸	S48年4月6日	松原八幡神社	白浜町甲396	延宝7年(1679)
市指定	建造物	六角坂石造笠塔婆	室町	S52年3月4日	個人	書写3068	推定
市指定	建造物	廣峯神社摂社・末社 附蛭子社神像1軀・庚申社 棟札1枚	江戸	S58年2月3日	広峯神社	広嶺山52	17世紀前半～19世紀後半
市指定	建造物	亀山本徳寺		S59年6月15日	本徳寺	亀山324	桃山～江戸
市指定	建造物	龍門寺伽藍内建築 附市指定追加 H11年3月 3日 龍門寺上祠堂明和三年 棟札	江戸	S63年10月11日	龍門寺	網干区浜田 812	
市指定	建造物	誠塾	江戸	H4年12月21日	姫路市	網干区新在家 1396	江戸末期
市指定	建造物	敬業館講堂	江戸	H4年12月21日	姫路市	林田町林田 13	江戸末期
市指定	建造物	大覚寺境内建造物	江戸	H11年12月20日	大覚寺	網干区興浜 151	
市指定	建造物	福泊神社本殿	室町	H13年8月23日	福泊自治会	的形町福泊 402	16世紀中ごろ
市指定	建造物	船場本徳寺境内建造物	江戸	H18年3月24日	真宗大谷派姫路船 場別院本徳寺	地内町1	
市指定	建造物	八葉寺宝篋印塔	室町	S52年9月16日	八葉寺	香寺町相坂 1068	永正年間
市指定	建造物	八葉寺奥院	室町	S52年9月16日	八葉寺	香寺町相坂 1068	正徳3年(1713)
市指定	建造物	佐野邸	江戸	H5年11月10日	姫路市	夢前町新庄 1262	江戸中期
市指定	建造物	弥勒寺開山堂	江戸	S54年11月9日	弥勒寺	夢前町寺 1051	享保年間(1716～1736)
市指定	建造物	弥勒寺開山堂	江戸	S54年11月9日	弥勒寺	夢前町寺 1051	宝永8年(1711)
市指定	建造物	三枝草板碑群	室町	S55年10月16日	三枝草自治会	夢前町前之 庄1643	至徳3年(1386)
市指定	建造物	塚本千体地藏	江戸	S55年10月16日	塚本自治会	夢前町塚本 217	元和6年(1620)
市指定	建造物	松安寺墓石群	室町	S60年8月25日	雲松寺	夢前町宮置 字倉掛	
市指定	建造物	弥勒寺宝塔	鎌倉	S60年8月25日	弥勒寺	夢前町寺 1051	鎌倉後期

主体	種別	名称	時代	指定等年月日	所有者(管理者)	所在地	備考
市指定	建造物	石幢	鎌倉	H1年12月8日	弥勒寺	夢前町寺1051	元弘2年(1332)
市指定	建造物	円山神社本殿	江戸	H7年12月4日	新庄自治会	夢前町新庄字上芝956	延宝2年(1674)
市指定	建造物	若王子神社本殿	江戸	H14年6月5日	小坪自治会	夢前町寺567	延宝7年(1680)
市指定	建造物	水尾神社本殿(付)棟札2枚	江戸	H2年3月31日	関自治会	安富町関544-1	17世紀末
市指定	建造物	魚吹八幡神社本殿	江戸	H22年3月29日	魚吹八幡神社	網干区宮内193	江戸初期
市指定	絵画	絹本着色大覚寺地藏菩薩像	鎌倉	S45年3月30日	大覚寺	網干区興浜151	鎌倉末期
市指定	絵画	絹本着色宗夢童子像	桃山	S48年4月6日	慶雲寺	野里814	慶長9年(1604)以前
市指定	絵画	亀山本徳寺絹本着色親鸞聖人絵伝	室町	S59年6月15日	本徳寺	亀山324	永正1年(1504)
市指定	絵画	紙本墨画大応大燈開山像	江戸	S61年10月6日	慶雲寺	野里814	
市指定	絵画	龍門寺大方丈襖絵	江戸	H6年4月14日	龍門寺	網干区浜田812	
市指定	絵画	蛸が神をつけた絵馬		H2年10月12日	蛇穴神社	香寺町広瀬489	明治～大正時代
市指定	絵画	木庵禪師頂相	江戸	H3年3月30日	旧開善寺管理者代表	安富町名坂305	
市指定	彫刻	木造薬師如来坐像	鎌倉	S48年4月6日	善導寺	坂田町51	
市指定	彫刻	石造地藏菩薩半跏像	鎌倉	S52年3月4日	福林寺	豊富町御蔭1831	元亨3年(1323)
市指定	彫刻	木造金剛力士像	室町	H1年2月28日	円教寺	書写2968	室町初期
市指定	彫刻	如意輪観音菩薩半跏像	南北朝	H8年12月2日	如意輪寺	書写1463-3	観応2年(1351)
市指定	彫刻	薬師如来坐像	室町	H8年12月2日	如意輪寺	書写1463-3	14世紀中ごろ
市指定	彫刻	聖徳太子立像		H8年12月2日	如意輪寺	書写1463-3	14世紀後半(鎌倉～室町)
市指定	彫刻	地藏菩薩半跏像(八家地藏)	鎌倉	H8年12月2日	養泉寺	的形町福泊498	
市指定	彫刻	行基菩薩坐像	南北朝	H13年8月23日	随願寺	白国5	観応2年(1351)
市指定	彫刻	薬師如来坐像	鎌倉	S52年9月16日	薬師堂(中村自治会)	香寺町中村252	鎌倉時代中ごろ
市指定	彫刻	石絵馬	江戸	H2年10月12日	個人	香寺町相坂1362-10	文政年間(1818～1830)
市指定	彫刻	木造薬師如来座像	南北朝	H2年3月31日	法性寺	安富町安志536	建武2年(1335)
市指定	彫刻	木造釈迦如来座像	江戸	H3年3月30日	旧開善寺管理者代表	安富町名坂305	江戸初期
市指定	彫刻	木造毘沙門天立像 附宝塔、水晶製舍利容器、舍利3粒及びひねり3粒	鎌倉	H20年4月1日	大覚寺	網干区興浜151	鎌倉前期
市指定	工芸品	播磨国総社銅鐘	室町	S43年3月13日	射楯兵主神社	総社本町190	永正3年(1506)
市指定	工芸品	津田天満神社太鼓	室町	S45年3月30日	津田天満神社	飾磨区構912	嘉吉1年(1441)
市指定	工芸品	勝瑞寺梵鐘	室町	S52年3月4日	勝瑞寺	御立中3丁目7-20	明応6年(1497)
市指定	工芸品	亀山本徳寺梵鐘	室町	S59年6月15日	本徳寺	亀山324	永禄9年(1566)
市指定	工芸品	広峯神社氏重刀	江戸	S55年3月5日	広峯神社(美術館)	広嶺山52	明暦3年(1657)
市指定	工芸品	播磨国総社忠国剣	江戸	S55年3月5日	射楯兵主神社(美術館)	総社本町190	
市指定	工芸品	姫路神社忠以脇指	江戸	S59年6月15日	姫路神社(美術館)	本町68	
市指定	工芸品	赤松政則刀	室町	H1年9月25日	美術館	本町68	延徳1年(1489)
市指定	工芸品	大歳神社東山焼狛犬	江戸	S59年6月15日	大歳神社(美術館)	東山568	文久3年(1863)
市指定	工芸品	孔雀文磬	鎌倉	S63年10月11日	大覚寺	網干区興浜151	鎌倉末期
市指定	工芸品	東山焼燈籠	江戸	H19年4月3日	西源寺	東今宿5-12-16	安政6年(1859)
市指定	工芸品	沐浴の湯釜	平安	S52年9月16日	八葉寺	香寺町相坂1068	
市指定	工芸品	キリシタン燈籠	江戸	S52年9月16日	常福寺	香寺町須加院420	
市指定	書跡	庄田家文書	江戸	H13年12月6日	姫路市	家島町真浦2137-1	
市指定	書跡	大森家文書	江戸	H15年2月13日	姫路市	家島町真浦2137-1	江戸～明治

主体	種別	名称	時代	指定等年月日	所有者(管理者)	所在地	備考
市指定	考古資料	山崎山古墳出土遺物	古墳	S48年4月6日	姫路市	四郷町坂元414番1	6世紀後半～7世紀はじめ
市指定	考古資料	鶏形(よこわ)(頭頸部)附白国宮山古墳出土品	古墳	S48年4月6日 平成23年2月16日	姫路市	四郷町坂元414番1	
市指定	考古資料	御旅山3号墳出土遺物	古墳	S48年4月6日	姫路市	四郷町坂元414番1	
市指定	考古資料	名古山弥生遺跡出土遺物	弥生	S48年4月6日	姫路市	四郷町坂元414番1	
市指定	考古資料	福林寺石棺蓋石板碑	室町	S52年3月4日	福林寺	豊富町御蔭1831	室町前期
市指定	考古資料	極楽寺瓦経	平安	H11年3月3日	姫路市	四郷町坂元414番1	天養1年(1144)
市指定	考古資料	今宿丁田遺跡出土品 銅鐸 鏝型片	弥生	H11年3月3日	姫路市	安田4丁目1	弥生中期
市指定	考古資料	大井川第6地点出土品	弥生	H11年3月3日	姫路市	安田4丁目1	弥生後期
市指定	考古資料	宮山経塚出土品 附御旅山1号墳出土変形四獣鏡	中世	H21年2月24日	妻鹿自治会(埋蔵文化財センター)	四郷町坂元414番1	
市指定	考古資料	甲山経塚出土品 附荒神社出土泥塔	中世	H22年3月29日	妻鹿自治会(埋蔵文化財センター)	四郷町坂元414番1	
市指定	考古資料	恒屋城址出土品	室町	S52年9月16日	北恒屋自治会	香寺町恒屋	
市指定	考古資料	片山古墳出土品	古墳	S52年9月16日	土師自治会	四郷町坂元414番1	
市指定	歴史資料	豊国石造道標(延宝五年)	江戸	S52年3月4日	姫路市(豊国自治会)	飾東町豊国493-3	延宝5年(1677)
市指定	歴史資料	青山石造道標(安政二年)	江戸	S52年3月4日	国土交通省(青山自治会)	青山721-2	安政2年(1855)
市指定	歴史資料	龍門寺盤珪国師関係資料	江戸	H11年9月25日	龍門寺	網干区浜田812	
市指定	歴史資料	固寧倉	江戸	H7年9月25日	姫路市 妻鹿自治会 刀出自治会 東山自治会 中村自治会		
市指定	歴史資料	道標(通称 香呂の西向き地蔵)	江戸	H11年7月1日	香呂自治会	香寺町香呂字雨ヶ代	
市指定	史跡	権現山古墳	古墳	S48年4月6日	大歳神社(上砥堀自治会)	砥堀1016	
市指定	史跡	名古山弥生式住居跡	弥生	S48年4月6日	姫路市	山畑新田 名古山霊園	
市指定	史跡	黒田家廟所	江戸	S56年3月7日	個人(御着自治会)	御国野町御着字城ノ内	享和2年(1802)
市指定	史跡	榑原忠次墓所	江戸	S61年10月6日	随願寺	白国1263	寛文5年(1665)
市指定	史跡	榑原政邦墓所	江戸	S61年10月6日	随願寺	白国1263	
市指定	史跡	坂本城跡土塁	室町	H14年8月28日	姫路市	書写2465-2 他	
市指定	史跡	見野古墳群	古墳	H18年3月24日	見野自治会	四郷町見野	
市指定	史跡	チンカンボー古墳	古墳	S48年11月6日	個人	家島町宮字東破風上	7世紀前半
市指定	史跡	恒屋城跡	室町	S52年9月16日	榑原森林	香寺町恒屋字城山	室町中期
市指定	史跡	宮の前古墳	古墳	S52年9月16日	個人	香寺町須加院357	
市指定	史跡	法花堂2号墳	古墳	S59年6月1日	個人	香寺町田野字法花堂897	5世紀中ごろ
市指定	史跡	稲垣子華墓	江戸	H3年3月30日	個人	安富町名坂305	
市指定	史跡	三森城址		H3年3月30日	個人	安富町三森125-12,124-11	
市指定	名勝	甕穴どんどが淵		H4年1月22日	大坪自治会	夢前町寺	

主体	種別	名称	時代	指定等年月日	所有者(管理者)	所在地	備考
市指定	天然記念物	子安の木		S52年9月16日	八葉寺	香寺町相坂1068	
市指定	天然記念物	田川神社 櫻の木		S61年4月17日	田川神社宮総代	香寺町須加院1440-1	
市指定	天然記念物	鹿ヶ壺窟穴		H2年3月31日	個人	安富町関	
市指定	天然記念物	ヒメハルゼミ生息地(水尾神社社叢)		H2年3月31日	関自治会	安富町関554-1	
市指定	天然記念物	矢倉神社のツクバネガシ林		H2年3月31日	皆河自治会	安富町皆河858	
市指定	天然記念物	栲原天神のシイ林		H2年3月31日	栲原自治会	安富町栲原231	
市指定	天然記念物	狭戸大歳神社のカヤ林		H2年3月31日	狭戸自治会	安富町狭戸847-28,29,30	
市指定	天然記念物	関の大カツラ		H2年3月31日	関自治会	安富町関790-84	
市指定	天然記念物	善照寺のショウフクジザクラ		H2年3月31日	善照寺	安富町皆河1073	
市指定	天然記念物	塩野大歳神社社叢		H3年3月30日	塩野自治会	安富町塩野744	
市指定	天然記念物	櫃藏神社(大いちょう)		H7年7月19日	置塩財産区	夢前町宮置981	
市指定	天然記念物	神種神元神社(大杉)		H7年7月19日	神種自治会	夢前町神種419-1	樹齢約350年(推定)
市指定	天然記念物	若王子神社 大杉		H18年3月15日	若王子神社	夢前町寺564	
市指定	有形民俗	神護丸図絵馬	江戸	S56年3月7日	恵美酒天満神社	飾磨区恵美酒14	慶応3年(1863)
市指定	無形民俗	広峯神社御田植祭 附穂揃式・走馬式		S52年3月4日	広峯神社	広嶺山52	
市指定	無形民俗	三枝草獅子舞		S53年2月28日	三枝草獅子舞保存会	夢前町前之庄	
市指定	無形民俗	正八幡神社龍王舞		H2年11月27日	正八幡神社龍王舞保存会	船津町2985	
市指定	無形民俗	関の万灯		H3年3月30日	関自治会	安富町関	
市指定	無形民俗	別所西獅子舞		H11年12月20日	別所西自治会	別所町別所687-2	
市指定	無形民俗	浜の宮天満宮秋季例祭屋台練り台場差し		H13年8月23日	播州飾磨祭浜の宮天満宮台場差し保存会	飾磨区須加40	
市指定	無形民俗	書写山円教寺鬼追い会式		H14年8月28日	書写山円教寺鬼追い会式保存会	書写1419	
市指定	無形民俗	天満力石の力持ち		H14年8月28日	天満力石の力持ち保存会	大津区天満1134	
市指定	無形民俗	樽かき		H15年1月24日	岩部樽かき保存会	香寺町岩部	
市指定	無形民俗	恒屋雅楽		H15年1月24日	恒屋雅楽保存会	香寺町恒屋	
市指定	無形民俗	北恒屋播州音頭		H15年1月24日	北恒屋播州音頭保存会	香寺町恒屋	
市指定	無形民俗	土師獅子舞		H15年1月24日	土師獅子舞保存会	香寺町土師	
市指定	無形民俗	修正会鬼会式(鬼追い)		H15年1月24日	八葉寺(鬼講・鬼追い保存会)	香寺町相坂	
市指定	無形民俗	荒川神社例祭風流		H16年9月1日	荒川神社祭礼行事保存会	井ノ口437	
市指定	無形民俗	新庄獅子舞		H17年4月23日	新庄獅子保存会	夢前町新庄	
市指定	無形民俗	津の宮鬼追い		H18年3月24日	魚吹八幡神社武神祭保存会	網干区宮内193	
市指定	無形民俗	恵美酒宮天満神社秋季例祭台場練り		H19年4月3日	恵美酒宮天満神社秋季例祭台場練り保存会	飾磨区恵美酒14	
市指定	無形民俗	朝日谷火揚げ(火上げ)		H21年2月24日	朝日谷火揚げ保存会	勝原区朝日谷597番2	
市指定	無形民俗	金竹獅子舞		H23年2月16日	金竹獅子保存会	豊富町御陰1197番地2	

主体	種別	名称	時代	指定等年月日	所有者(管理者)	所在地	備考
国選択	無形民俗	播磨国総社「一ツ山」・「三ツ山」神事		S34年3月5日	射楯兵主神社	総社本町190	
国選定	保存技術	文化財石垣保存技術		H21年9月2日	文化財石垣保存技術協議会	姫路市本町68-258	城郭研究室 事務局
国登録	建造物	円教寺摩尼殿	昭和	H11年6月7日	円教寺	書写2968	昭和8年(1933)
国登録	建造物	姫路工業大学ゆりの木会館(旧姫路高等学校本館)	大正	H11年10月14日	兵庫県	新在家本町1丁目1-12	大正15年(1925)
国登録	建造物	姫路工業大学講堂(旧姫路高等学校講堂)	大正	H11年10月14日	兵庫県	新在家本町1丁目1-12	大正15年(1925)
国登録	建造物	姫路市立美術館(旧第十師団兵器庫)	明治	H15年2月26日	姫路市	本町68	明治38年ごろ →大正2年増築
国登録	建造物	本徳寺中宗堂	明治	H15年2月26日	本徳寺	亀山324	明治31年
国登録	建造物	加藤家住宅主屋	江戸	H21年1月8日	個人	網干区余子浜字船渡53-1	文久2(1862)年
国登録	建造物	加藤家住宅離れ座敷	明治	H21年1月8日	個人	網干区余子浜字船渡53-1	明治25(1892)年
国登録	建造物	加藤家住宅内蔵	明治	H21年1月8日	個人	網干区余子浜字船渡53-1	明治32(1899)年
国登録	建造物	加藤家住宅濱座敷	江戸	H21年1月8日	個人	網干区余子浜字船渡53-1	嘉永4(1851)年
国登録	建造物	加藤家住宅鎮守社	明治	H21年1月8日	個人	網干区余子浜字船渡53-1	明治期
国登録	建造物	加藤家住宅長屋門	江戸	H21年1月8日	個人	網干区余子浜字船渡53-1	元治元(1864)年
国登録	建造物	加藤家住宅湯殿及び雪隠	江戸	H21年1月8日	個人	網干区余子浜字船渡53-1	江戸末期
国登録	建造物	加藤家住宅西塀	江戸	H21年1月8日	個人	網干区余子浜字船渡53-1	江戸末期
国登録	建造物	姫路文学館望景亭(旧濱本家住宅)和室	大正	H21年8月7日	姫路市	山野井町86	大正前期
国登録	建造物	姫路文学館望景亭(旧濱本家住宅)茶室	大正	H21年8月7日	姫路市	山野井町86	大正前期
国登録	建造物	姫路文学館望景亭(旧濱本家住宅)廊下	大正	H21年8月7日	姫路市	山野井町86	大正前期
国登録	建造物	姫路文学館望景亭(旧濱本家住宅)棟門	大正	H21年8月7日	姫路市	山野井町86	昭和前期
国登録	建造物	姫路文学館望景亭(旧濱本家住宅)石垣	大正	H21年8月7日	姫路市	山野井町86	昭和前期
国登録	建造物	梶原家住宅(中西梶原)主屋	大正	H21年8月7日	個人	大塩町117-2	大正11年
国登録	建造物	梶原家住宅(中西梶原)土蔵	江戸	H21年8月7日	個人	大塩町117-2	天保13年(1842年)
国登録	建造物	梶原家住宅(西梶原)主屋	江戸	H21年11月2日	個人	大塩町字宮之本457	嘉永6年(1853)/明治39年増築
国登録	建造物	梶原家住宅(西梶原)北離座敷	大正	H21年11月2日	個人	大塩町字宮之本457	
国登録	建造物	梶原家住宅(西梶原)茶室	明治	H21年11月2日	個人	大塩町字宮之本457	明治39年
国登録	建造物	梶原家住宅(西梶原)下腹雪隠	大正	H21年11月2日	個人	大塩町字宮之本457	
国登録	建造物	梶原家住宅(西梶原)祠	大正	H21年11月2日	個人	大塩町字宮之本457	
国登録	建造物	梶原家住宅(西梶原)南離座敷	大正	H21年11月2日	個人	大塩町字宮之本457	
国登録	建造物	梶原家住宅(西梶原)茶室しづの舎	大正	H21年11月2日	個人	大塩町字宮之本457	
国登録	建造物	梶原家住宅(西梶原)内腰掛待合	大正	H21年11月2日	個人	大塩町字宮之本457	
国登録	建造物	梶原家住宅(西梶原)中門	大正	H21年11月2日	個人	大塩町字宮之本457	



主体	種別	名称	時代	指定等年月日	所有者(管理者)	所在地	備考
国登録	建造物	梶原家住宅(西梶原)内大蔵	江戸	H21年11月2日	個人	大塩町字宮之本457	江戸末期/大正期増築 昭和22年改修
国登録	建造物	梶原家住宅(西梶原)現像室	明治	H21年11月2日	個人	大塩町字宮之本457	明治30年ごろ
国登録	建造物	梶原家住宅(西梶原)内蔵	江戸	H21年11月2日	個人	大塩町字宮之本457	江戸末期/昭和22年改修
国登録	建造物	梶原家住宅(西梶原)古書倉	昭和	H21年11月2日	個人	大塩町字宮之本457	昭和22年ごろ
国登録	建造物	梶原家住宅(西梶原)米蔵	明治	H21年11月2日	個人	大塩町字宮之本457	明治後期
国登録	建造物	梶原家住宅(西梶原)隅蔵	江戸	H21年11月2日	個人	大塩町字宮之本457	江戸後期
国登録	建造物	梶原家住宅(西梶原)大工倉	明治	H21年11月2日	個人	大塩町字宮之本457	明治中期/昭和31年ごろ改修
国登録	建造物	梶原家住宅(西梶原)納屋	明治	H21年11月2日	個人	大塩町字宮之本457	明治中期/昭和31年移築
国登録	建造物	梶原家住宅(西梶原)外便所	大正	H21年11月2日	個人	大塩町字宮之本457	
国登録	建造物	梶原家住宅(西梶原)管理人部屋	明治	H21年11月2日	個人	大塩町字宮之本457	明治30年ごろ
国登録	建造物	梶原家住宅(西梶原)表門	大正	H21年11月2日	個人	大塩町字宮之本457	
国登録	名勝	梶原氏(西梶原)庭園		H20年3月28日	個人	大塩町457	

## ■ 都市景観重要建築物等一覧表

指定番号	指定年月日	名称	所在地	建築年代
第1号	H元. 7. 1	山本家住宅	網干区興浜	明治初期、大正(1918)
第2号	H元. 7. 1	外国人技師住宅(旧図書館) -ダイセル異人館-	網干区新在家	明治43年(1910)
第3号	H元. 7. 1	外国人技師住宅(クラブハウス) -ダイセル異人館-	網干区新在家	明治43年(1910)
第4号	H2. 8. 30	森家住宅	材木町	明治19年(1886)
第5号	H2. 8. 30	旧姫路高等学校講堂(兵庫県立大学)	新在家本町一丁目	大正15年(1926)
第6号	H2. 8. 30	旧姫路高等学校本館(兵庫県立大学)	新在家本町一丁目	大正15年(1926)
第7号	H3. 12. 9	梶原家住宅(西梶原)	大塩町	19世紀前期
第8号	H3. 12. 9	赤鹿家住宅(旧山本家住宅)	大塩町	伝正徳3年(1713)
第9号	H5. 3. 1	長谷川家住宅	林田町六九谷	弘化5年(1848)
第10号	H5. 3. 1	三菱電機旧発電所煙突(H9. 3. 5指定解除)	千代田町	大正中期
第11号	H5. 7. 28	福永家住宅(H18. 10. 17指定解除)	飾磨町妻鹿	明治44年(1911)
第12号	H5. 7. 28	三木家住宅	八家	19世紀中期
第13号	H7. 3. 1	河野家住宅	白浜町丙	18世紀後期
第14号	H7. 3. 1	濱野家住宅	白浜町甲	19世紀中期
第15号	H8. 2. 5	中島家住宅	飾磨区天神	文政6年(1823)
第16号	H8. 2. 5	大澤家住宅	飾磨区中浜町一丁目	19世紀中期
第17号	H8. 2. 5	田中酒造場	広畑区本町三丁目	19世紀中期
第18号	H8. 2. 5	住本家住宅	広畑区末広町三丁目	明治中期
第19号	H10. 11. 20	岡庭酒造場	船津町	明治初期
第20号	H10. 11. 20	井内家住宅	御国野町御着	19世紀前期
第21号	H10. 11. 20	小原家住宅	御国野町御着	19世紀前期
第22号	H12. 1. 31	京見会館	広畑区京見町	昭和16年
第23号	H12. 1. 31	旧網干銀行本店(現婦人服飾タケダ)	網干区新在家	大正末期
第24号	H13. 12. 19	井上家住宅	飾磨区英賀東町二丁目	不詳
第25号	H13. 12. 19	岡本家住宅	東山	明治中期
第26号	H14. 11. 28	清水家住宅	奥山	伝明治38年
第27号	H14. 11. 28	NTT兵庫支店姫路2号館	総社本町	昭和5年
第28号	H15. 12. 17	中村家住宅	的形町の形	明治5年
第29号	H15. 12. 17	岡田家住宅	的形町の形	明治38年
第30号	H16. 10. 4	梶原家住宅(中梶原)	大塩町	明治期
第31号	H17. 10. 24	魚橋呉服店	威徳寺町	明治期
第32号	H17. 10. 24	初井家住宅	龍野町	江戸末期
第33号	H18. 10. 17	大野家住宅	大野町	明治期以前
第34号	H18. 10. 17	加藤家住宅	網干区余子浜	江戸末期
第35号	H19. 8. 29	今村家住宅	飾磨区玉地	明治20年代
第36号	H20. 10. 3	壺坂酒造場	夢前町前之庄	江戸後期
第37号	H21. 10. 1	下村酒造場	安富町安志	明治期、大正期
第38号	H23. 2. 10	橋本家住宅	香寺町恒屋	明治末期
第39号	H23. 10. 17	片岡家住宅	網干区新在家	18世紀初期
第40号	H23. 10. 17	旧水井家住宅	網干区興浜	大正11年

■ 姫路市保存樹一覧表

番号	指定番号	樹木名	所在地	除却
1	1	ムクノキ	八代(荒神社)	
2	2	ビャクシン	広嶺山(広嶺神社)	
3	2-2	ケヤキ	広嶺山(広嶺神社)	
4	4-2	ムクノキ	白国(白国佐伯神社)	
5	4-3	ムクノキ	白国(白国佐伯神社)	
6	5	クスノキ	野里(大日大歳神社)	
7	6	エノキ	保城(保城勝松神社)	
8	7	ムクノキ	北今宿(飛出地藏)	
9	8	カヤ	井ノロ(法輪寺)	
10	9	クスノキ	土山(八幡神社)	
11	11	アキニレ	北条(北条天満宮)	
12	12	スギ	書写(円教寺)	
13	12-2	スギ	書写(円教寺)	
14	12-3	スギ	書写(円教寺)	
15	12-4	ツガ	書写(円教寺)	
16	12-5	タカオモミジ	書写(円教寺)	
17	12-6	モミ	書写(円教寺)	
18	12-7	タカオモミジ	書写(円教寺)	
19	12-8	スギ	書写(円教寺)	
20	12-9	スギ	書写(円教寺)	
21	12-10	スギ	書写(円教寺)	
22	12-11	スギ	書写(円教寺)	
23	12-12	モミ	書写(円教寺)	
24	13	スギ	飾西(大歳神社)	
25	13-2	ケヤキ	飾西(大歳神社)	
26	13-3	カヤ	飾西(大歳神社)	
27	13-4	アラカシ	飾西(大歳神社)	
28	14	スギ	林田町上溝(祝田神社)	
29	14-2	ムクロジ	林田町上溝(祝田神社)	
30	15	モミジ並木	林田町上溝(祝田神社)	
31	16	アラカシ	飾磨区阿成(早川神社)	
32	18	クロガネモチ	飾磨区恵美酒(恵美酒宮神社)	
33	19	エノキ	飾磨区英賀東町(薬師堂)	除却
34	20	クロガネモチ	広畑区北野町(天満宮)	
35	21	クスノキ	広畑区西蒲田(天満神社)	
36	22	エノキ	大津区西土井(西土井墓地北)	
37	23	ムクノキ	網干区新在家(市有地)	
38	24	ケヤキ	網干区余子浜(船渡八幡神社)	
39	25	ユーカリ	網干区新在家(ダイセル第一クラブ)	
40	26	オガタマノキ	網干区宮内(魚吹八幡神社)	
41	27	クスノキ	勝原区丁(勝原小学校)	
42	28	ムクノキ	余部区下余部(二神社)	
43	28-2	ムクノキ	余部区下余部(二神社)	
44	28-3	エノキ	余部区下余部(二神社)	
45	30	イチョウ	白浜町(松原八幡神社)	
46	31	ビャクシン	八家(西念寺)	
47	33	クロガネモチ	的形町福泊(八幡宮)	
48	33-2	タブノキ	的形町福泊(八幡宮)	
49	34	ビャクシン	大塩町(妙経寺)	
50	35	クスノキ	別所町別所(安養寺)	
51	36	エノキ	御国野町御着(先祖橋側)	
52	37	クスノキ	御国野町御着(大歳神社)	
53	38	クスギ	飾東町山崎(八王子神社)	
54	39	ケヤキ	船津町字宮脇(正八幡神社)	
55	39-2	クロガネモチ	船津町字宮脇(正八幡神社)	
56	39-3	カゴノキ	船津町字宮脇(正八幡神社)	
57	39-4	アラカシ	船津町字宮脇(正八幡神社)	
58	39-5	シャシャンボ	船津町字宮脇(正八幡神社)	
59	40	エノキ	船津町(大歳神社)	
60	41	イタジイ	白国山字増位山(随願寺)	
61	41-2	アラカシ	白国山字増位山(随願寺)	

番号	指定番号	樹木名	所在地	除却
62	41-3	アラカシ	白国山字増位山(随願寺)	
63	42	クスノキ	伊伝居(城北幼稚園)	
64	43	クスノキ並木	新在家(姫路短期大学)	
65	43-2	ユリノキ並木	新在家(姫路短期大学)	
66	45	カヤ	田寺(田寺太仲宅)	
67	46	ムクノキ	書写(大森稻荷大明神)	
68	46-2	エノキ	書写(大森稻荷大明神)	
69	47	ムクノキ	刀出(天満神社)	
70	48	ハクモクレン	打越(大塚英隆宅)	
71	49	カキ	飾西(稻荷神社)	
72	50	クスノキ	青山(菅原俊輔宅)	
73	51	イチョウ	太市中(篠本一宅)	
74	52	クスノキ	林田町新町(白玉稻荷大明神)	
75	52-2	トウカエダ	林田町新町(白玉稻荷大明神)	
76	54-3	アバマキ	林田町八幡(八幡神社)	
77	55	クスノキ	余部区下余部(八木康子宅)	
78	56	クスノキ	網干区興浜(金刀比羅神社)	
79	56-2	クスノキ	網干区興浜(金刀比羅神社)	
80	57	エノキ	網干区津市場(稻荷神社)	
81	58	エノキ	広畑区清水町(蛸田地蔵)	
82	59	エノキ	飾磨区今在家(平野勝宅)	
83	60	クスノキ	白浜町(白浜小学校)	
84	60-2	クスノキ	白浜町(白浜小学校)	
85	61	ツバキ	白浜町(亀山保之宅)	除却
86	62	エノキ	白浜町(白浜支所南)	
87	63	イチョウ	的形町の形(磯山山麓)	
88	64	ムクノキ	花田町小川(門前地蔵裏)	
89	65	ジャクシン	別所町佐土(福乗寺)	
90	65-2	イチョウ	別所町佐土(福乗寺)	
91	66	クスノキ	別所町別所(水野貢宅)	
92	67	住吉神社の森	御立	
93	68	天満神社の森	広畑区北野町	
94	69	魚吹八幡神社の森	網干区宮内	
95	70	英賀神社の森	飾磨区英賀宮町	
96	71	天満神社の森	飾磨区須加	
97	72	早川神社の森	飾磨区阿成	
98	73	エノキ	本町(市美術館)	
99	73-2	アキニレ	本町(市美術館)	
100	73-3	エノキ	本町(動物園)	
101	73-5	ケヤキ	本町(姫路公園)	
102	73-6	ケヤキ	本町(姫路公園)	
103	73-7	エノキ	本町(姫路城内濠横)	
104	73-8	ムクノキ	本町(姫路城内濠横)	
105	73-9	ムクノキ	本町(姫路城内濠横)	
106	73-10	ムクノキ	本町(姫路城内濠横)	
107	73-11	アラカシ	本町(姫路城内濠横)	
108	73-12	ムクノキ	本町(姫路城中濠土塁)	
109	73-13	ムクノキ	本町(姫路城中濠土塁)	除却
110	73-14	ムクノキ	本町(姫路城中濠土塁)	
111	73-15	ムクノキ	本町(姫路城中濠土塁)	
112	74	モミジ並木	本町(姫路城中濠土塁)	
113	74-2	クスノキ並木	本町(姫路公園)	
114	75	クスノキ	東雲町(船場小学校)	
115	76	ウメモドキ	西脇(是川一男宅)	
116	77	エノキとムクノキの合体木	山野井町(真野宅)	
117	78	ヤマモモ	町田(田守神社)	
118	79	大国玉神社の森	打越	
119	80	ヤマモモ	白国(随願寺)	
120	81	メタセコイア	船津町(小林宅)	
121	82	マキ	実法寺(小国宅)	

## ■ 博物館・美術館等

姫路市立美術館	三木美術館
兵庫県立歴史博物館	姫路市立動物園
姫路市埋蔵文化財センター	姫路市立水族館
姫路文学館	姫路市立手柄山温室植物園
姫路市書写の里・美術工芸館	姫路市水道資料館 水の館
姫路市平和資料館	姫路科学館 アトムの館
日本玩具博物館	宿泊型児童館「星の子館」
香寺民俗資料館	兵庫県立こどもの館
圓山記念日本工芸美術館	姫路市はやしだ交流センター ゆたりん
水上村 川のほとりの美術館	

## ■ 主要公共施設

市役所(本館、東館、北別館、南別館)	(国)近畿地方整備局姫路河川国道事務所
家島事務所	(国)神戸海上保安部姫路海上保安署
夢前事務所	(国)神戸家庭裁判所姫路支部
香寺事務所	(国)神戸植物防疫所姫路出張所
安富事務所	(国)神戸地方検察庁姫路支部
中央支所	(国)神戸地方裁判所姫路支部
飾磨支所	(国)神戸地方方法務局姫路支局
広畑支所	(国)姫路自動車検査登録事務所
網干支所	(国)姫路簡易裁判所
白浜支所	(国)姫路公共職業安定所
東出張所	(国)姫路年金事務所
西出張所	(国)姫路少年刑務所
林田出張所	(国)姫路少年刑務所 姫路拘置支所
飾東出張所	(国)姫路税関支署
北出張所	(国)姫路税務署
船山出張所	(国)姫路年金事務所街角の年金相談センター姫路
花の北サービスセンター	(国)姫路南公共職業安定所
城乾サービスセンター	(国)姫路労働基準監督署
安室サービスセンター	(国)陸上自衛隊姫路駐屯地
高岡サービスセンター	(国)大阪入国管理局神戸支局姫路港出張所
勝原サービスセンター	(県)中播磨県民局
妻鹿サービスセンター	(県)姫路家畜保健衛生所
的形サービスセンター	(県)姫路県税事務所
大塩サービスセンター	(県)姫路港管理事務所
坊勢サービスセンター	(県)姫路総合庁舎
置塩サービスセンター	(県)姫路土地改良事務所
菅野サービスセンター	(県)姫路土木事務所
駅前市役所	(県)兵庫県旅券事務所姫路出張所
姫路市防災センター	(県)兵庫県土木事務所菅生ダム管理所
ひめじ防災プラザ	網干警察署
網干消防署	飾磨警察署
飾磨消防署	姫路警察署
白浜分署	
姫路西消防署	
姫路東消防署	
広畑分署	

城の西公民館	家島公民館	安室東公民館
谷外公民館	青山公民館	山田公民館
砥堀公民館	英賀保公民館	八幡公民館
豊富公民館	網干公民館	余部公民館
野里公民館	網干西公民館	船場公民館
白鳥公民館	荒川公民館	曾左公民館
花田公民館	伊勢公民館	高岡公民館
花の北公民館	糸引公民館	高岡西公民館
林田公民館	太市公民館	高浜公民館
東公民館	大塩公民館	谷内公民館
広畑公民館	大津公民館	白浜公民館
広畑第二公民館	大津茂公民館	城の西公民館
広峰公民館	勝原公民館	谷外公民館
船津公民館	旭陽公民館	
別所公民館	古知公民館	姫路市立家島宮老人の家
的形公民館	飾磨公民館	姫路市立家島男鹿老人の家
御国野公民館	四郷公民館	姫路市立家島真浦老人の家
置塩公民館	城乾公民館	
菅野公民館	城東公民館	自治福祉会館
夢前公民館	城南公民館	イーグレひめじ
香寺事務所	城北公民館	市民プラザ
香寺分館(図書館)	城陽公民館	勤労市民会館
香寺いきがいセンター	白浜公民館	勤労青少年ホーム
香寺公民館	峰相公民館	兵庫県立姫路労働会館
香寺北公民館	妻鹿公民館	姫路みなとドーム
南大津公民館	八木公民館	花の北市民広場
津田公民館	安室公民館	サンライフ姫路
		朝日山荘
城内図書館	花北分館(図書館)	
青山分館(図書館)	東分館(図書館)	市民会館
網干分館(図書館)	広畑分館(図書館)	青少年センター
飾磨分館(図書館)	安室分館(図書館)	姫路キャスパホール
白浜分館(図書館)	家島分館(図書館)	文化センター
手柄分館(図書館)	夢前分館(図書館)	
東光分館(図書館)		

■ 主な保存等活動団体

名称	事務局所在地
随願寺愛存会	白国
お田植祭保存会	広嶺山
大塩天満宮獅子舞保存会	大塩町汐咲1丁目
正八幡神社龍王舞保存会	船津町
金竹獅子舞保存会	豊富町御陰
英賀神社獅子舞保存会	飾磨区英賀西町2丁目
仁色長持ち保存会	船津町
中野獅子舞保存会	船津町
播州段文音頭網干保存会	網干区浜田
広畑単満宮文化保存会	広畑区末広町2丁目
網干地方史談会	網干区垣内本町
別所西獅子舞保存会	別所町別所
今在家獅子舞保存会	飾磨区今在家
盤珪さんの寺龍門寺を興す会ー龍門寺顕彰護持会	網干区浜田
別所東獅子舞保存会	別所町別所
播州飾磨祭浜の宮台場差し保存会	飾磨区須加
書写山円教寺鬼追い会式保存会	書写
天満力石の力持ち保存会	大津区天満
荒川神社祭礼行事保存会	玉手
魚吹八幡神社武人祭保存会	網干区宮内
恵美酒宮天満神社秋季例祭台場練り保存会	飾磨区都倉
朝日谷火揚げ保存会	勝原区朝日谷
犬飼獅子舞保存会	香寺町犬飼
岩部樽かき保存会	香寺町岩部
恒屋雅楽保存会	香寺町恒屋
恒屋播州音頭保存会	香寺町恒屋
土師獅子舞保存会	香寺町土師
真浦獅子舞保存会	家島町真浦
三枝草獅子保存会	夢前町前之庄
新庄獅子保存会	夢前町新庄
宮山古墳保存顕彰会	四郷町坂本
播磨国分寺史跡保存会	御国野町国分寺
妻鹿町文化財顕彰保存会	飾磨区妻鹿
上砥堀文化財愛護会	砥堀
御着史跡保存会	御国野町御着
見野古墳群保存会	四郷町見野
片山古墳保存顕彰会	香寺町土師
恒屋城保存顕彰会	香寺町恒屋
須加院宮ノ前古墳保存顕彰会	香寺町須加院
置塩城を愛する会	夢前町宮置
特定非営利活動法人姫路コンベンションサポート	西脇746番地
特定非営利活動法人書写山の自然遺産・文化遺産を守る会	書写2968番地 圓教寺本坊寺務所内
特定非営利活動法人ひょうごヘリテージ機構ひめじ	書写1019番地の24
特定非営利活動法人歴史と出会えるまちづくり船場城西の会	琴岡町266番地1
特定非営利活動法人新風林田	林田町松山279番地
特定非営利活動法人野里まちづくりの会	鍛冶町52番地3
特定非営利活動法人姫路まちづくり支援センター	伊伝居41-1大裕ビル5階
特定非営利活動法人石倉企画	石倉53番地1
特定非営利活動法人あかみの街ひめじ	中地南町119番地
特定非営利活動法人はりま悠々クラブ	北条1丁目98番地
特定非営利活動法人ひょうごまちづくりフォーラム	広畑区浦田4丁目140番地
特定非営利活動法人夢前川を美しくする会	広畑区夢前台5丁目242番地
特定非営利活動法人山わらう会	大津区長松127番地5
特定非営利活動法人はりま伝説夢物語	広畑区高浜町1丁目120番地3
特定非営利活動法人いえしま	家島町真浦2243番地5
播磨の歴史研究会	下寺町43 姫路商工会議所4階コムサロン21内
「ふるさとの原風景再生プロジェクト」太市の郷	太市中62番地
須加院川の会	香寺町須加院470-1

